

Kawasaki

保存版
JETSKI 800 SX-R
watercraft

ウォータクラフト

JETSKI 取扱説明書
watercraft

ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

JETSKIは川崎重工業株式
会社の登録商標です。



日本舟艇工業会
マリンエンジンガス自主規制

ウォータクラフトには定期的に点検・交換が必要な部品（エンジンオイル、バッテリ、ホース類等）があります。安心して快適にお乗りいただけるよう点検整備を必ず実施してください。

カワサキは人と地球にやさしい環境作りをめざしています。

早見表

一般事項

操縦方法

保管

整備と調整

トラブルシューティング

船舶検査

航行区域

環境保護

お客様の相談窓口

ご愛用の皆様に

カワサキのウォータクラフト“ジェットスキー”をご購入くださいましてありがとうございます。きょうからあなたのよきパートナーとして、十分に活躍させてください。

この取扱説明書は、あなたのウォータクラフト“ジェットスキー”を安全かつ魅力的にご使用いただく手助けをするために編集したものです。

最初にお乗りになる前にこの本を読んで十分にご理解いただき、正しい操縦方法を完全に習得してください。

そして、この本に従って注意深い操縦と正しい整備を行うと、“ジェットスキー”的魅力と性能を十分に引き出せます。

また、水上での安全確保のためのマナーを守ると同時に、各種の法規、条例等も十分理解し、守ってください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”に乗るときは本書を携帯し安全なマリンライフをお楽しみください。

本書は大切に保管し、ウォータクラフト“ジェットスキー”を転売や譲渡等されるときは必ず添付してください。

別冊の整備手帳には保証書とともに定期点検整備表および点検整備記録簿が入っています。ウォータクラフト“ジェットスキー”的維持管理にご利用ください。

本書では正しい取り扱い方法および点検に関する事項を、次のシンボルマークで示しています



警告

取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害に至る可能性が想定される場合を示しています。

注意

取扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示しています。

要点

○作業を正しく行うためのポイントを示しています。

なお本書の内容は、仕様変更などにより実際と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

目次

主要諸元	6	直線停止	46
一般事項	8	通常停止	47
製造番号	8	停止技術	47
各部の名称	9	旋回	48
ラベル位置	11	ウォータクラフト“ジェットスキー”の乗 り方	51
燃料およびオイル	16	立ち上がり方	51
操縦装置	18	転落	52
エンジンフード	23	転覆したウォータクラフトの起こし方	53
エンジンフードの開け方	23	航走終了後の手入れ	54
エンジンフードの閉め方	26	第1：排気系統の水抜き	54
工具	30	第2：エンジルームの清掃	54
ビルジシステム	31	第3：船体外部の清掃	55
ドレンプラグ	31	特殊な手入れ	55
操縦方法	32	インペラの清掃	55
安全な操縦	32	汚れたスパークプラグの清掃	56
操縦者の水泳能力	32	浸水後の処置	56
安全運転規則	32	ウォータクラフト“ジェットスキー”の えい航	58
ジェットポンプに関する注意	34	ジャンプコードによる始動	58
乗船者の安全装備	35	エンジンのオーバーヒート	60
目と足もとの安全と保護	35	保管	61
ヘルメット着用の選択	36	保管する前の作業	61
積載	36	冷却系統	61
乗る前の点検項目	37	ビルジ系統	61
ならし運転	39	燃料系統	61
エンジンの停止	40	エンジン	63
エンジンの始動	41	バッテリ	63
発進	43	洗浄	64
水深の深い場所での発進	43	潤滑	64
水深の浅い場所での発進	44	保管後再使用する前の作業	64
立った姿勢での発進	45		
停止	46		

整備と調整	66	ビルジ系統の洗浄	91
定期点検整備表	66	ヒューズ	92
コントロールケーブルの調整	68	トラブルシューティング	93
チョークケーブルの調整	68	船舶検査	96
スロットルケーブルの調整	68	船舶検査	96
ステアリングケーブルの調整	69	船舶検査証書など合格証書類	96
ステアリングケーブルの点検	72	航行区域	97
燃料系統	72	航行区域	97
キャブレタの調整	72	海岸あるいは陸岸で使用する場合	97
燃料フィルタスクリーン	73	母船に乗せて使用する場合	98
スマートプラグ	75	環境保護	99
バッテリ	77	環境保護	99
潤滑	86	お客様の相談窓口	100
冷却系統の洗浄	89		

主要諸元

ウォータクラフト “ジェットスキー” JS800A

エンジン	
型式	2ストローク、2気筒、クランクケースリードバルブ、水冷
排気量	781 cm ³
内径 × 行程	82 × 74 mm
圧縮比	7.2:1
点火方式	CDI (デジタル)
燃料、潤滑	ガソリン・オイル混合 混合比 60:1
キャブレタ	ミクニ BN 40-38 × 2
始動方式	スタータモーター
スパークプラグ	NGK BR8ES
ギャップ	0.7 ~ 0.8 mm
端子形状	一体型端子
点火時期	上死点前13° @1 250 rpm ~ 20.2° @4 000 rpm
動力伝達機構	
カップリング	エンジン直結シャフトドライブ
ジェットポンプ	: 型式 軸流、単段
	: 推力 317 kg
ステアリング	ステアリングノズル
ブレーキ	水の抵抗力

※性能	
連続最高出力	80 PS/6 250 rpm
連続最大トルク	9.6 kgf·m/5 750 rpm
最小旋回半径	3.2 m
燃料消費量	32 L/h (フルスロットル運転時)
航続距離	39 km(フルスロットル運転時)
航続時間	31分間
寸法・重量	
全長	2 300 mm
全幅	730 mm
全高	735 mm
乾燥重量	159 kg
燃料タンク容量	17 L (予備3.0 Lを含む)
電装品	
バッテリ	12 V 18 Ah

※これらの数字は、一定の条件の下で測定されたものであり、条件が変われば数字も変わってきます。

一般事項

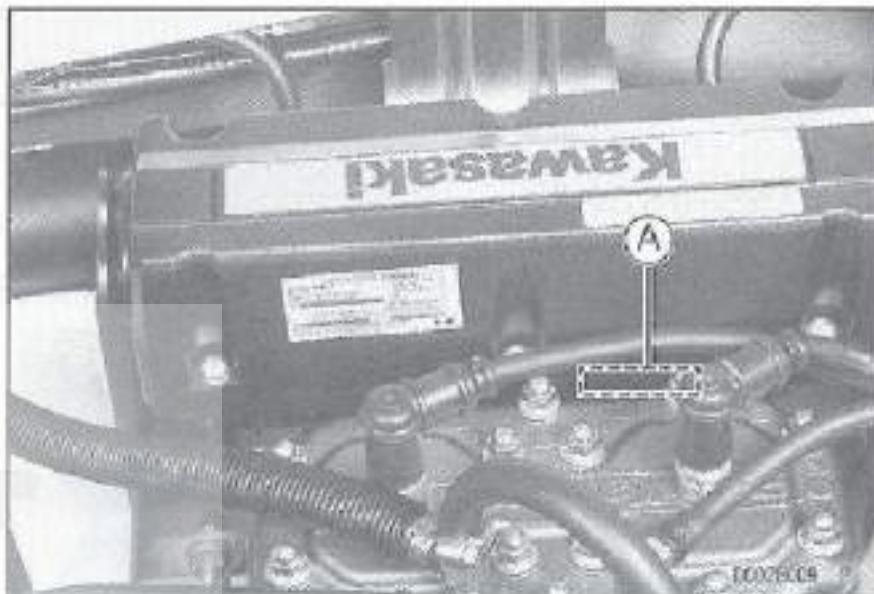
製造番号

- 船体およびエンジン番号は、あなたのウォータクラフト“ジェットスキー”を表す番号です。この番号は登録に必要であり、また部品注文時に必要なこともあります。また、盗難にあった場合、是非とも必要なものです。下のそれぞれの空欄に記録してください。



A. 船体番号

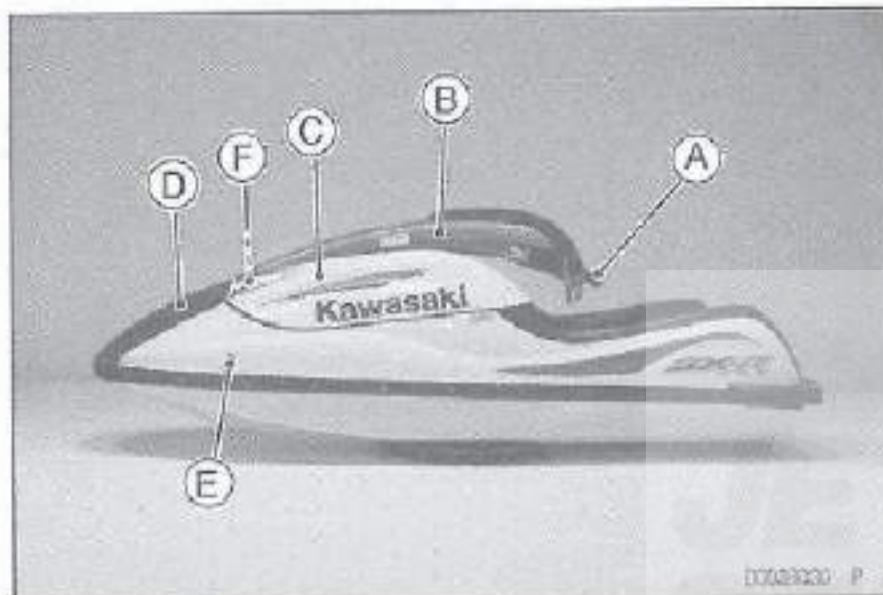
船体番号	
------	--



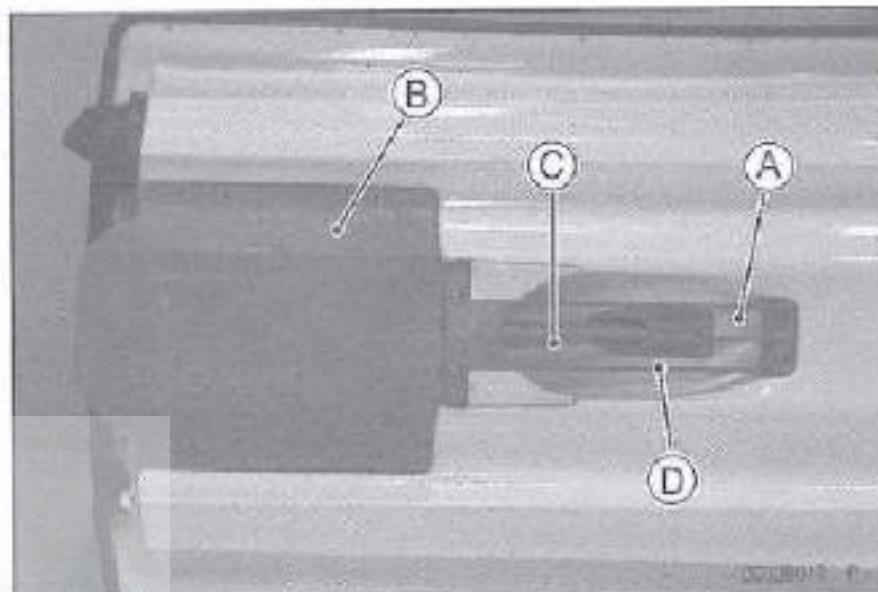
A. エンジン番号

エンジン番号	
--------	--

各部の名称

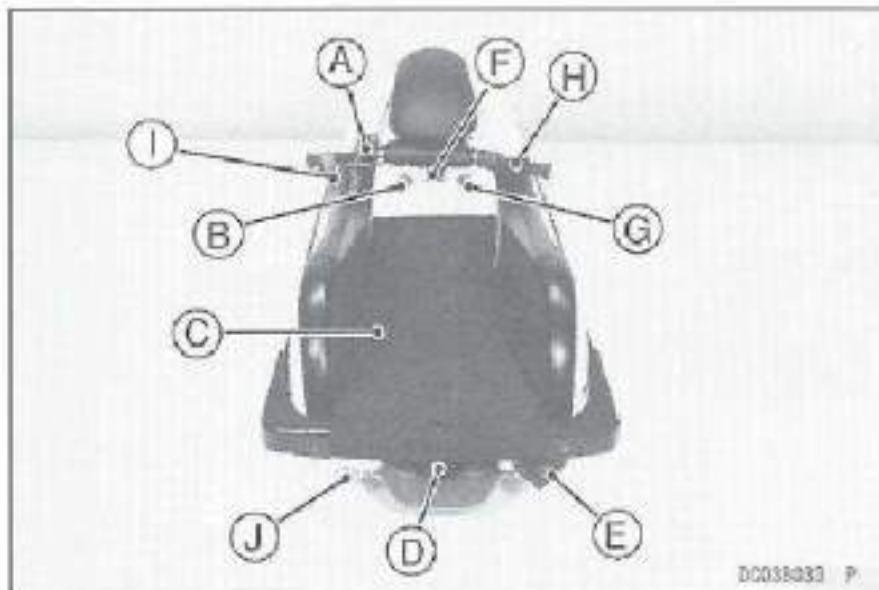


- A. ハンドルバー
- B. ハンドルポール
- C. エンジンフード
- D. 燃料注入口カバー
- E. バイパス出口
- F. 冷却水接続口 (ハンドルポール下)

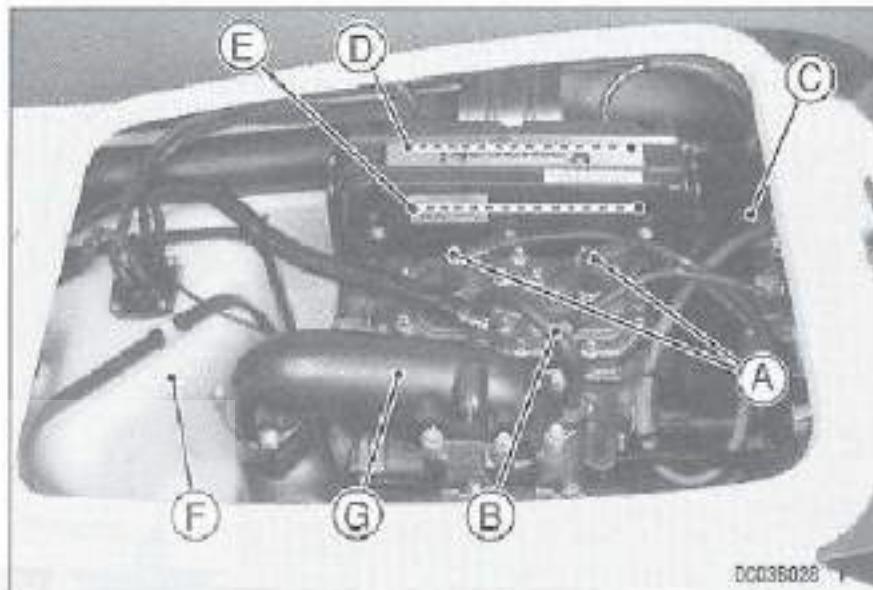


- A. 給水口
- B. ジェットポンプカバー
- C. ドライブシャフト
- D. 格子

10 一般事項

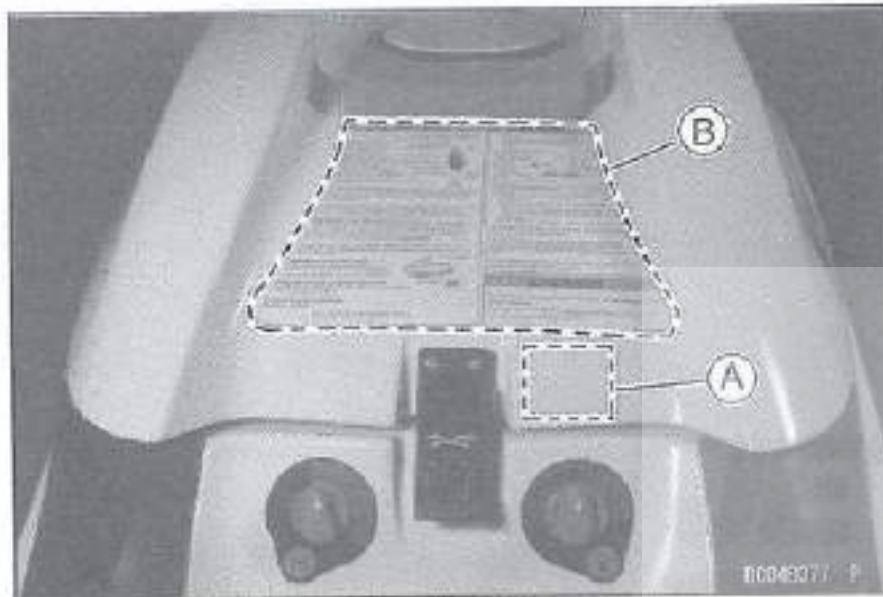


- A. エンジンスタータ、ストップボタン
- B. チョークノブ
- C. 乗船位置(デッキ)
- D. ステアリングノズル
- E. 排気口
- F. エンジンフードラッチ
- G. 燃料バルブ
- H. スロットルレバー
- I. キルスイッチコード
- J. ドレンプラグ

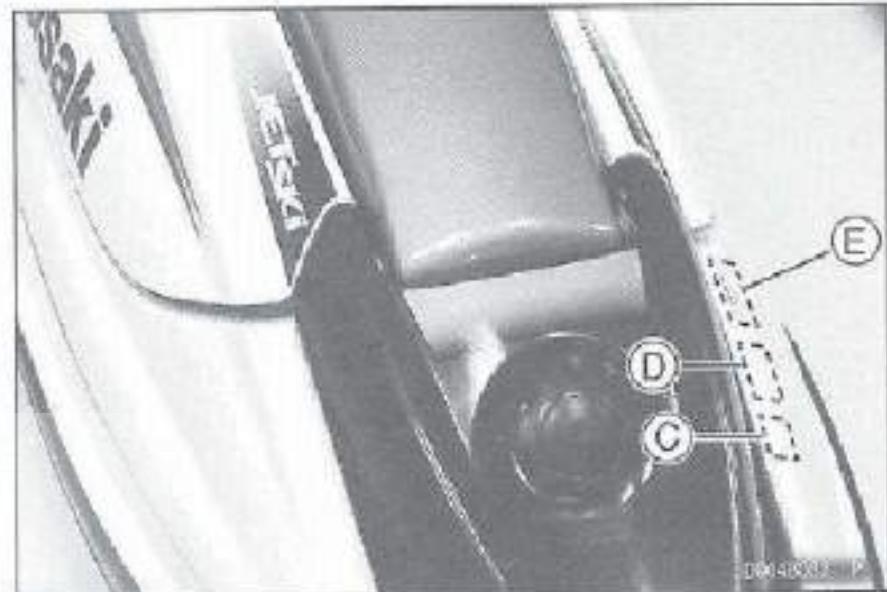


- A. スパークプラグ
- B. クーリングホース
- C. バッテリ
- D. フレームアレスタ
- E. キャブレタ
- F. 燃料タンク
- G. 排気筒

ラベル位置

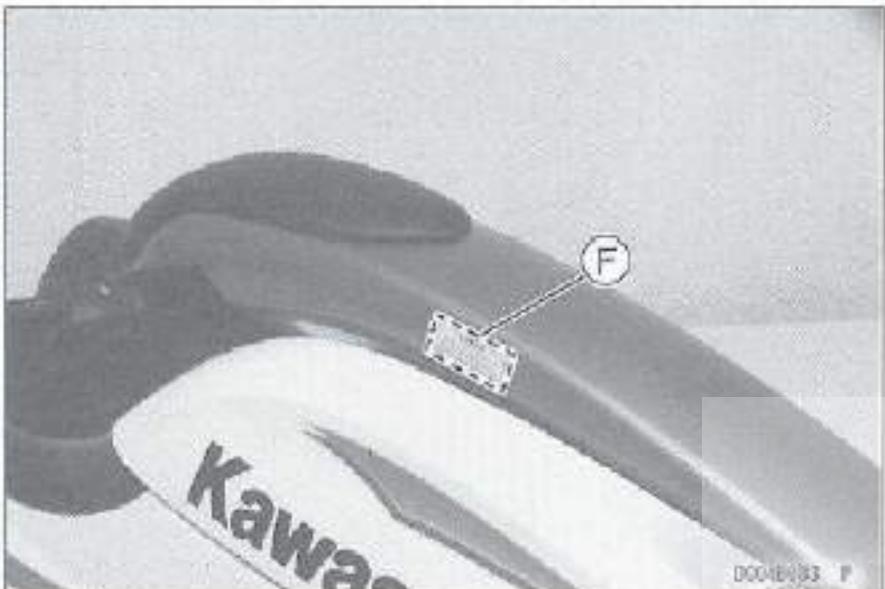


- A. 最大搭載人員
- B. 操縦時の注意および航走前、航走後の注意

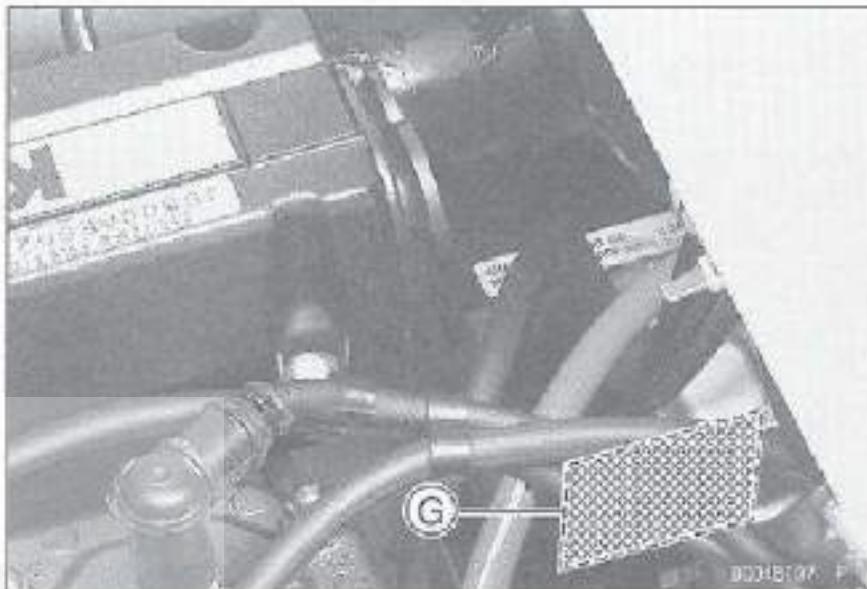


- C. 推奨混合比
- D. 推奨オイル
- E. 燃料注入

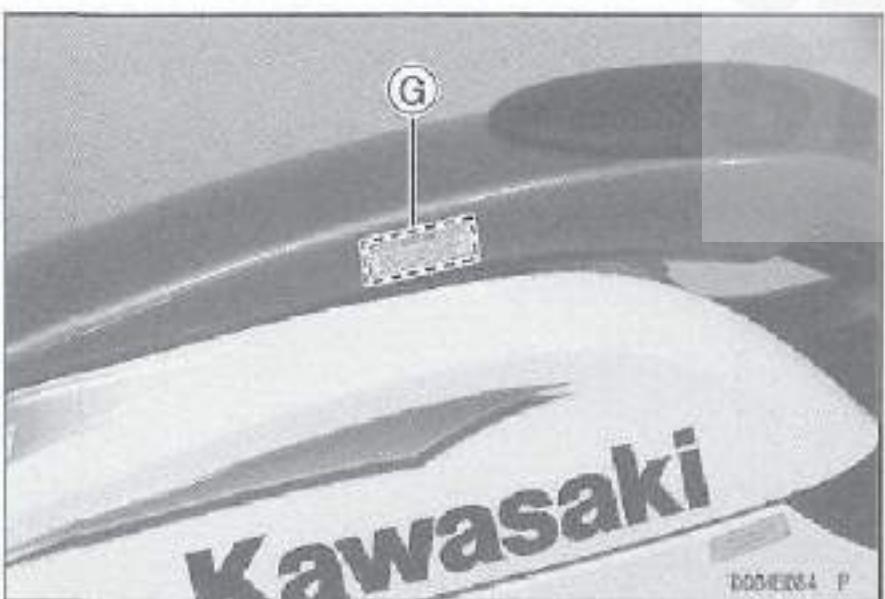
12 一般事項



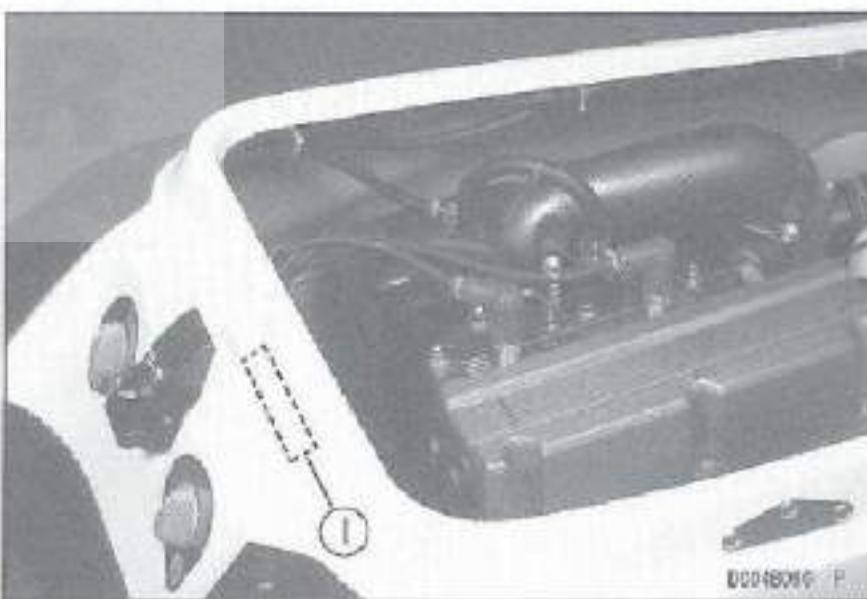
F. オーバーヒート（陸上）



G. パッテリ



G. オーバーヒート（水上）



I. 製造者名

(A)



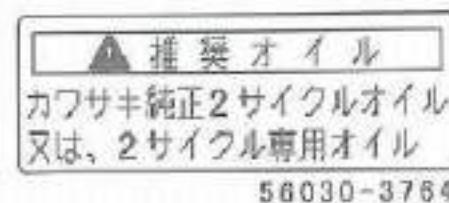
DC051028H2 C

(C)



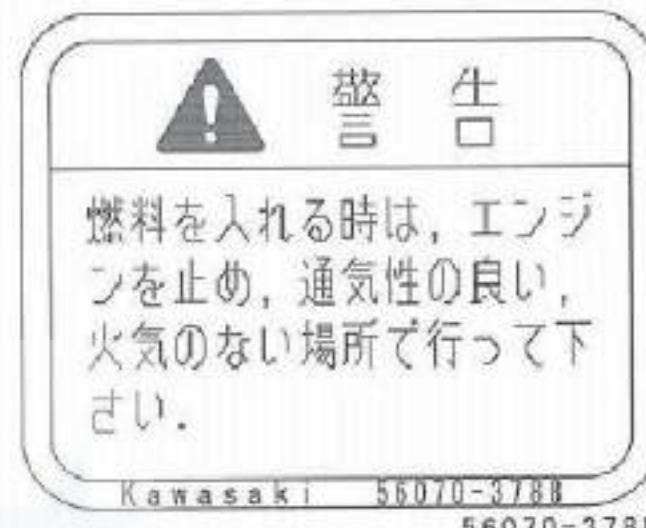
DC051028H6 C

(D)



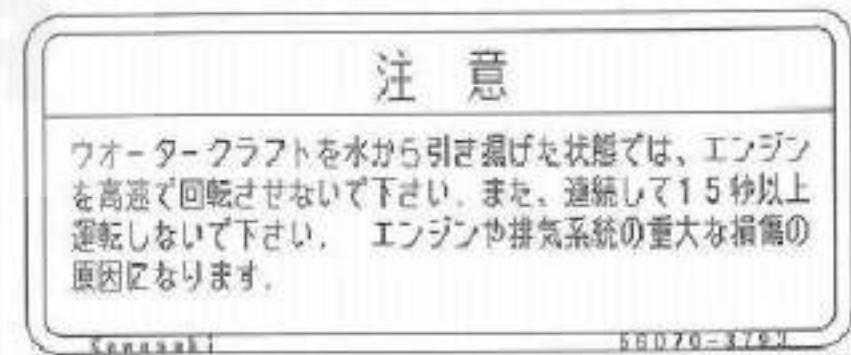
DC051028H8 C

(E)



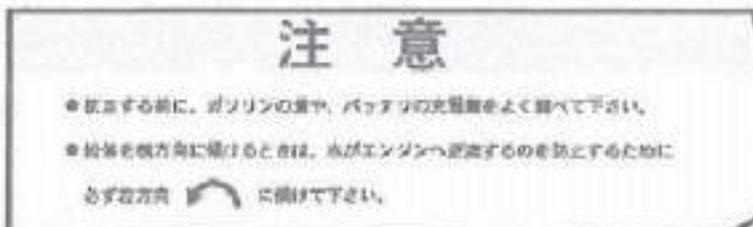
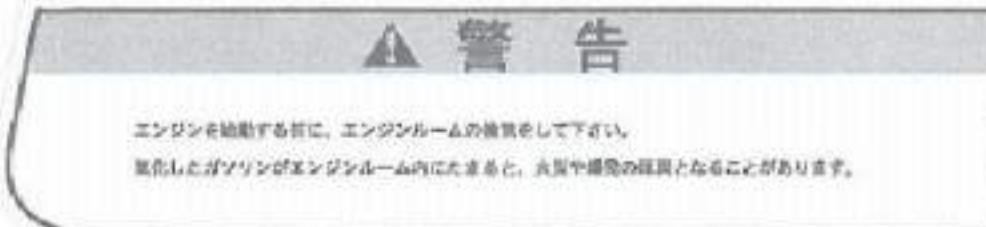
DC051028H2 C

(F)



DC051028H1 C

(B)



Kawasaki

56070-3975

(G)

注 意

エンジンがオーバーヒートすると、警告装置が働き自動的にエンジンの回転が下がります。航走中にエンジンの回転が低下したら、をだちに岸辺に戻りエンジンを停止して下さい。冷却系統を点検し修理が終わるまでは、ウォータークラフトを操縦しないで下さい。

Kawasaki

56070-1781

56070-3791

(H)

バッテリの取扱いにご注意！ ST-VTN08

この12Vバッテリは液面監視及び漏水不要な型御弁式シールタイプです。
 ●充電時間がかかる場合においても、ふたや蓋せんを絶対に外さないこと。
 ●この電池は制御弁式バッテリ装置車以外には使用しないこと。



**危
険**



火気禁止 メガネ使用 こども禁止 菸煙注意 説明書皆読 嘔吐注意

- 水蒸ガス発生、取扱いを誤ると引火爆発の恐れあり
- ・このバッテリを二輪自動車やエンジン駆動用以外の用途には使用しない
- ・工具等でショートやスパークをさせない。・充電は直通しのよい所で行う
- バッテリ液(硫酸)で失明ややけどの恐れあり
液がついたらすぐによく水で洗い、目の場合は医師の治療を受けら

▲ DANGER

KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

0005101BM2 0

(I)

MFD. BY KAWASAKI MOTORS MFG. CORP., U.S.A.

56037-1808

9003042BN0 0

燃料およびオイル

- 燃料はガソリンとエンジンオイルとの混合油を使用します。

ガソリン	レギュラーガソリン
エンジンオイル	カワサキジェットスキー純正オイル (2サイクルエンジンオイル)
推奨混合比	60 : 1 (ガソリン : 60対エンジンオイル:1)

ガソリンとオイルは十分に混合しておきます。

注意

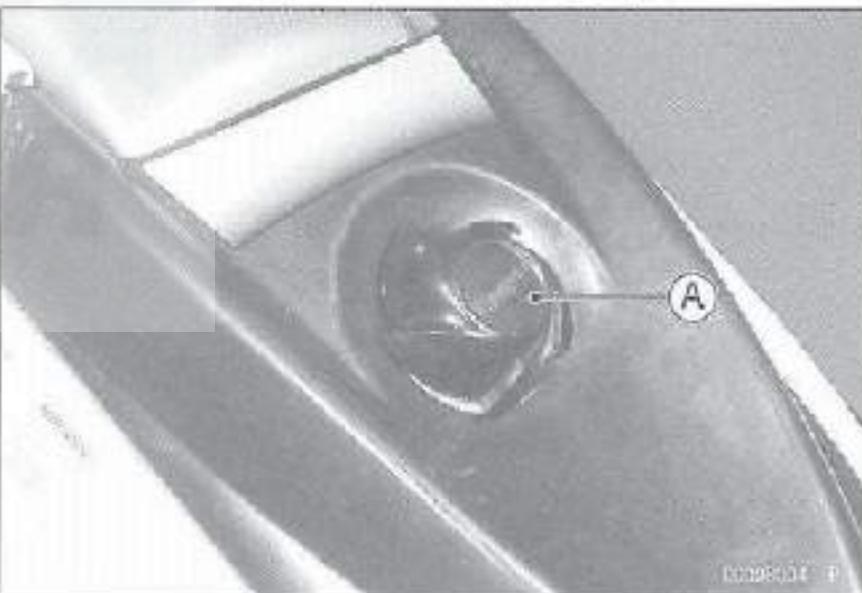
- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
燃料を補給するときは、必ず無鉛ガソリンであることを確認してから行ってください。
- 高濃度アルコール燃料を使用しないでください。
高濃度アルコール燃料を使用すると、エンジンや燃料系の部品を損傷させる原因となります。
- 粗悪ガソリンまたは燃料に不適切な添加剤を使用しないでください。
粗悪ガソリンまたは不適切な添加剤を使用すると、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

燃料の注入

！ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタートロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- エンジンを停止状態にします。
- 艇を水平に保ちます。
- タンクへの燃料の注油状態を確認するため、エンジンフードを取り外してください。



A. 注入口カバーノブ

- 燃料注入口キャップを外し、推奨混合比の燃料を注入してください。注入する時は、細いホース等を用いると容易に注入ができます。また、

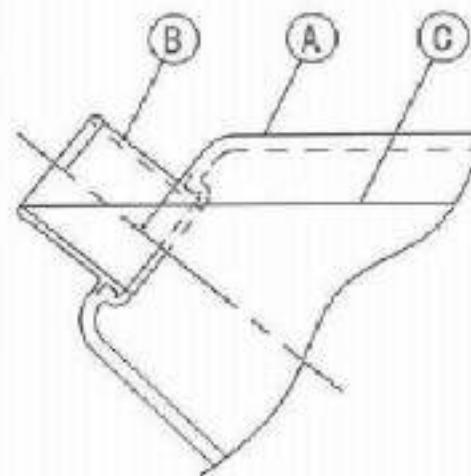
ゆっくり注入すると、燃料タンク内の空気を抜くことができます。

- こぼれた場合はただちに布でふき取ってください。
- 水上での給油や条例等で禁止されている砂浜での給油はしないでください。
- タバコを吸いながら給油しないでください。

⚠ 警告

燃料をタンク一杯に注入しないでください。温度の上がったタンク内では燃料が膨張し、ペントチューブから溢れることがあります。注入後はキャップを確実に締めてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気してください。



0009E08EM2-C

- A. 燃料タンク
- B. 注油口
- C. 液面

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

注意

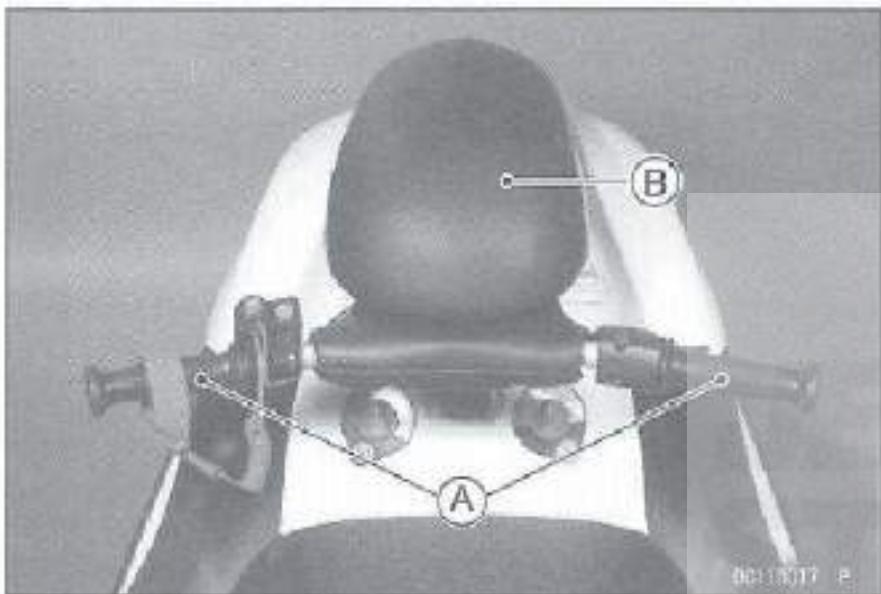
雨の中、およびほこりっぽい中の注油は燃料に混入するおそれがありますのでしないでください。

要点

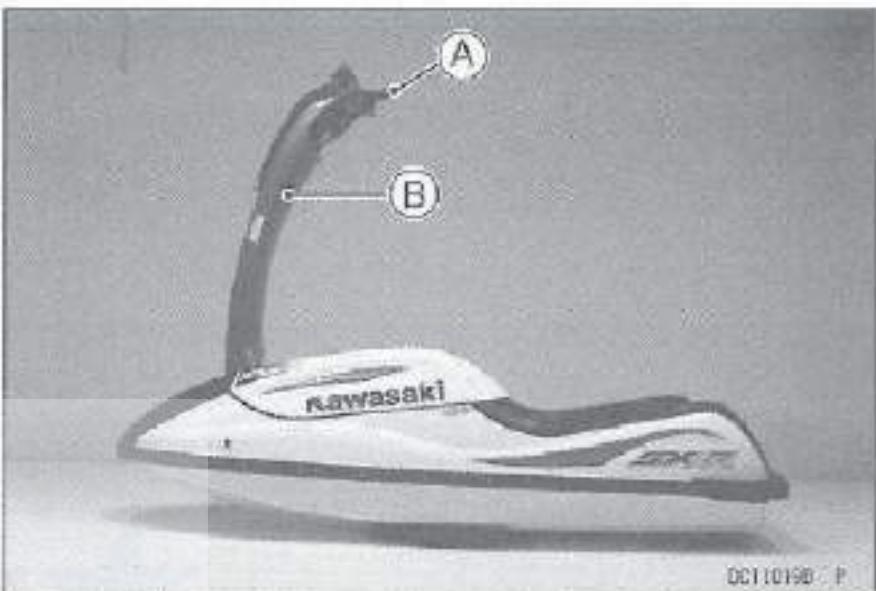
- シートを開けたときにガソリンのにおいがする場合、「カワサキ正規取扱店」で燃料系統の点検を受けてください。

操縦装置

ステアリングハンドルバー



A. ハンドルバー
B. ハンドルポール

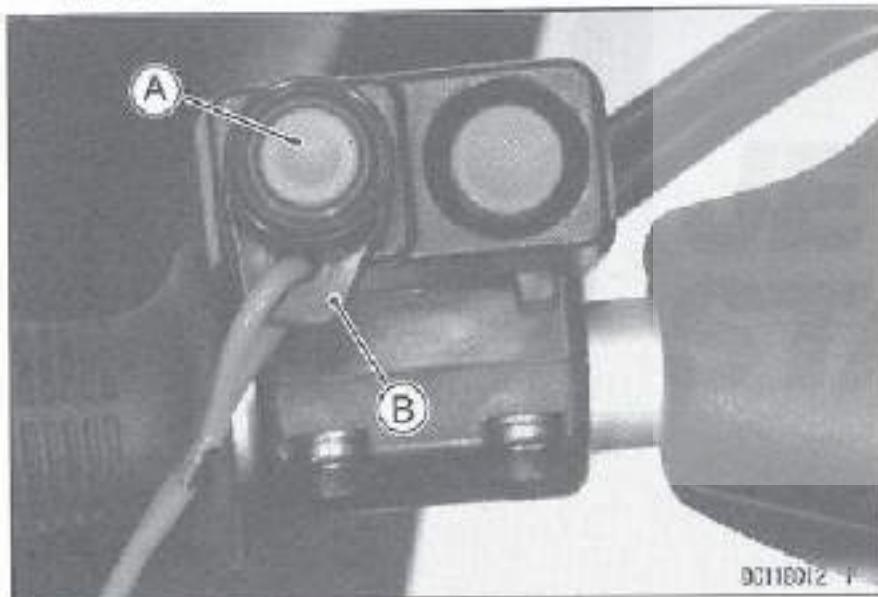


A. ハンドルバー
B. ハンドルポール（直立状態）

- ステアリングハンドルバーはハンドルポールの端のピボットに取り付けられており、自転車のハンドルと同じ機能を持っています。エンジンが回転しており、かつ、スロットルレバーを引いている時のみ、ハンドルバーを動かす事によってウォータクラフトを旋回させる事が出来ます。ハンドルバーはコントロールケーブルでウォータクラフト後部のステアリングノズルとつながっています。

ストップボタン

- ストップボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。ストップボタンは赤色で、上方に“STOP”と表示されています。ストップボタンを押すとエンジンは停止します。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜いても、エンジンは停止します。
- 下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。



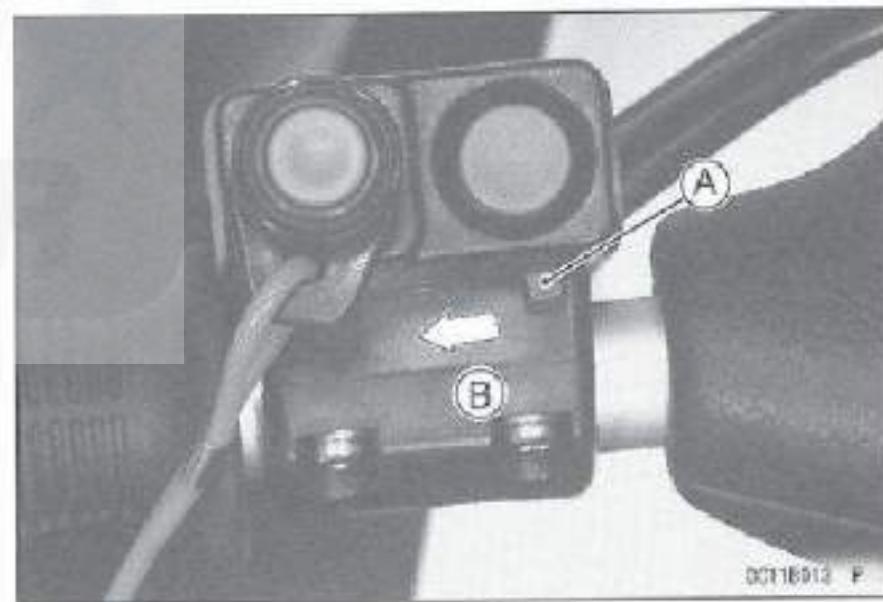
A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

スタータロックスイッチ

- スタータロックスイッチは不用意な始動を防止するもので、スイッチが右位置にある時のみ緑色のスタートボタンを押すとエンジンが始動します。スイッチが左位置にある時はスタートボタンを押してもエンジンは始動しません。

！ 警告

不用意にエンジンが回転し、事故が発生するのを防ぐために、エンジンが回転していない時は、常にスタータロックスイッチを左位置にしておいてください。



A. スタータロックスイッチ
B. 始動不可能位置



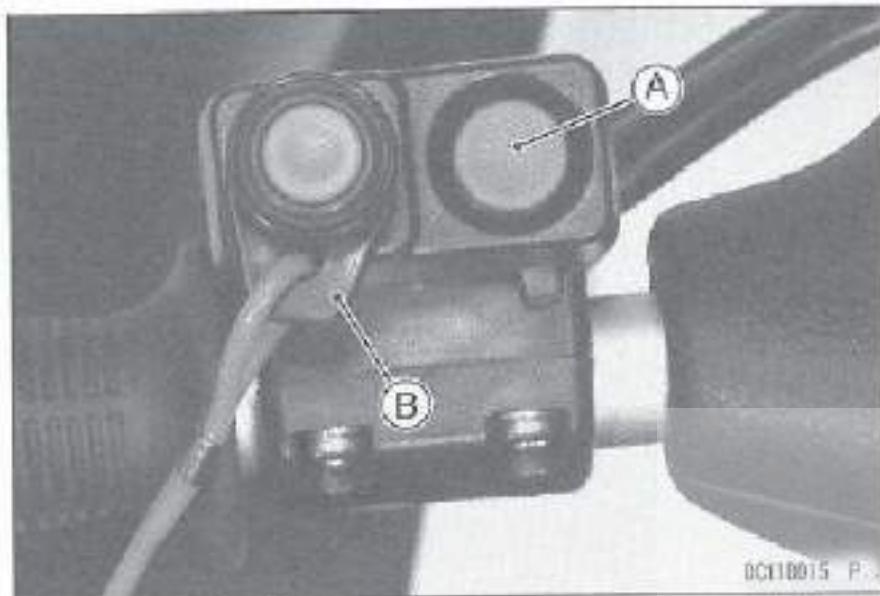
A. 始動可能位置

スタートボタン

- スタータボタンはハンドルバーの左側グリップの横に取り付けられています。スタートボタンは緑色で、"START"と上方に表示されています。キルスイッチコードキーをストップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押すとエンジンが始動します。エンジンが始動したらボタンを放してください。キルスイッチコードキーを差し込んでいないと、エンジンは回転しますが、始動しません。

注意

エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時に、スタートボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、またスタータの故障の原因になります。



A. スタータボタン
B. キルスイッチコードキー

要点

- スタータボタンは、スタータロックスイッチが右位置にある時のみ作動します。
- エンジンが始動するためには、キルスイッチコードキーがストップボタンの下に差し込まれていなければなりません。
- 「操縦方法」の章の「エンジンの始動」の項を参照してください。

スロットルレバー

● スロットルレバーはハンドルバーの右グリップに付いています。レバーを手前に引くとエンジンの回転が上がります。レバーを放すとスプリングにより前方に戻ります。エンジン始動前に、スロットルレバーが通常の位置に戻るか必ず点検してください。更にスロットルケーブルには適正な遊びがなくてはなりません。スロットルケーブルの調整方法については「整備と調整」の章をご参照ください。



A. スロットルレバー

チョークノブ

- チョークノブはデッキ前方にあるパネルの左側に付いています。チョークノブを右方向に回すと（“ON”位置）、混合気が濃くなり始動が容易になります。始動後はチョークノブを元の位置（“OFF”位置）に戻します。



A. チョークノブ
B. 燃料バルブ

要点

- もし、チョークノブがエンジン始動後も使用しますと、燃料のむだ使いとなり、性能も下がり、またスパークプラグの汚れの原因にもなります。

燃料バルブ

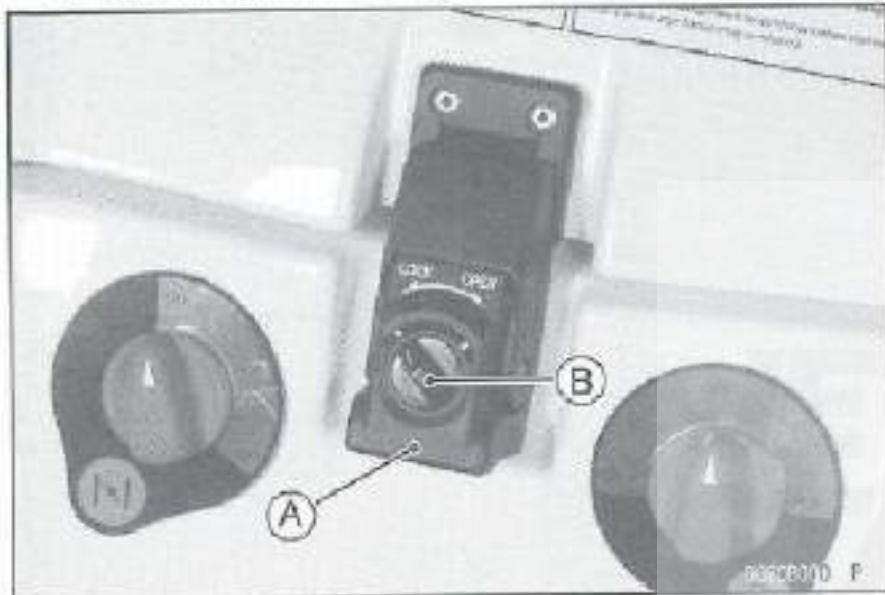
- 燃料バルブはデッキ前方のパネルの右側にあります。燃料バルブには、“ON” “OFF” “RES”（予備）の三つの位置があります。ONの位置で燃料を使い果たした時は、ノブをRESに切り換える事により約3.0 Lの予備燃料が使えます。RESに切り換えてから、エンジンはフルスロットルで約5分間運転できます。

要点

- “RES”（予備）の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給してください。
- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にしてください。

エンジンフード

- エンジンフードはデッキ前方のパネルにあるラッチで固定されています。

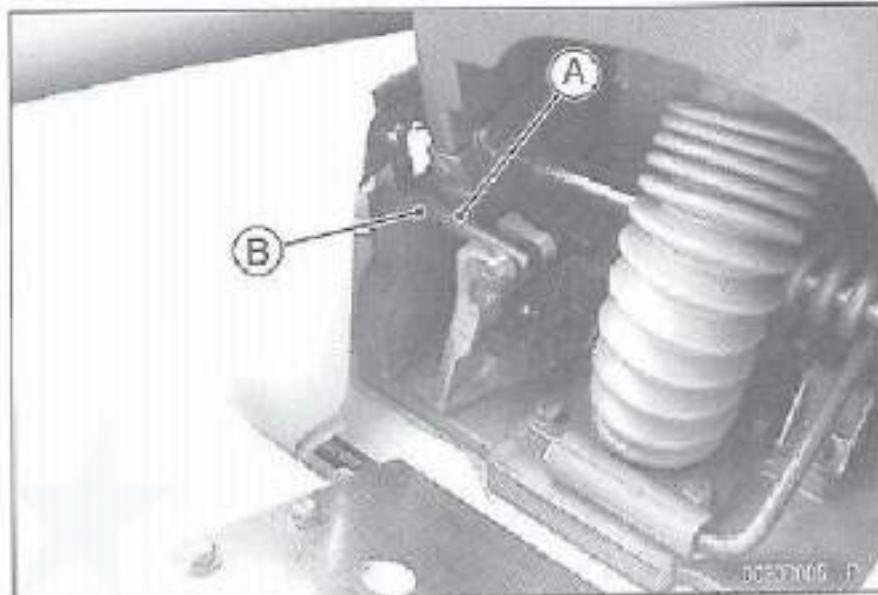


A. ラッチ
B. ノブ

エンジンフードの開け方:

まずハンドルポールを一杯引き上げ、片手でそれを支えながらハンドルポールストップピンを引き上げてブラケットの穴にいれます。これでハンドルポールは立てた状態に固定されます。立てた

状態のハンドルポールに寄りかからないでください。

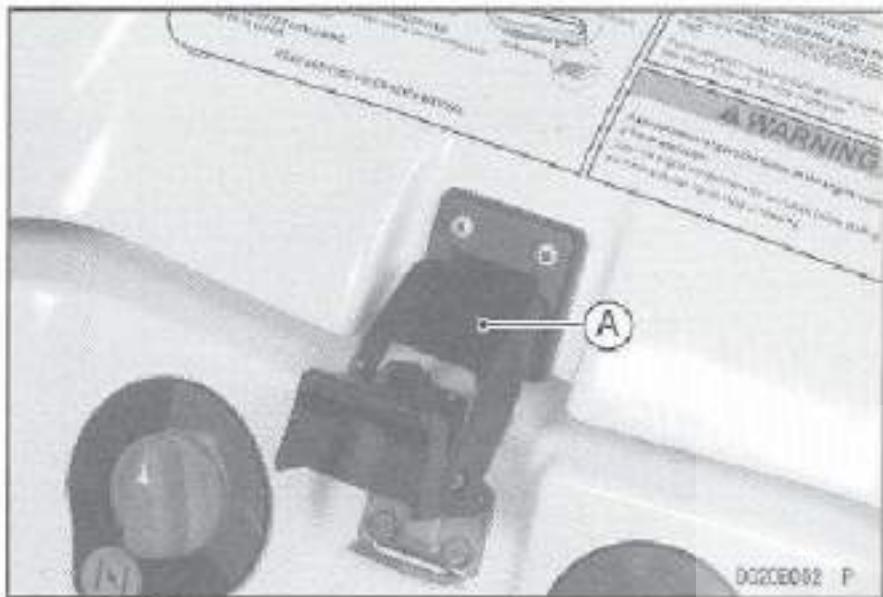


A. ストップピン
B. 穴

要点

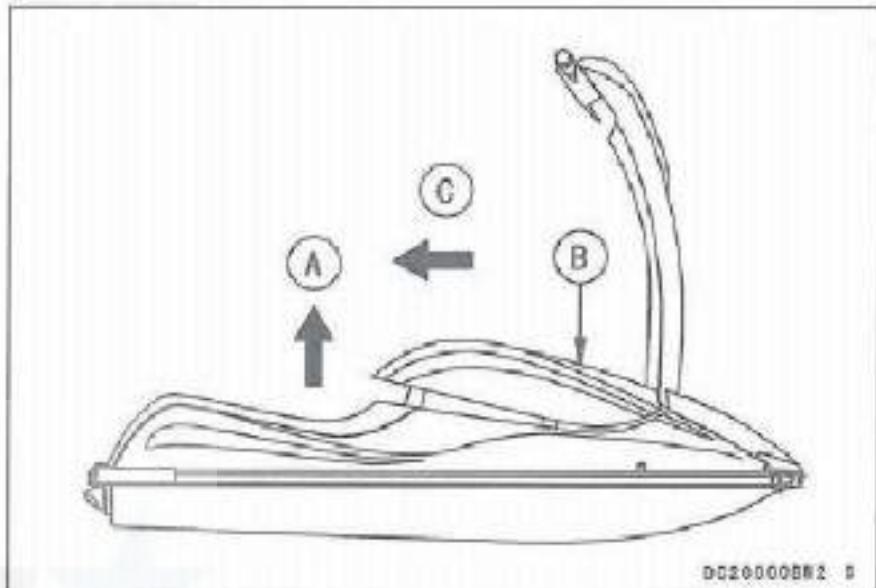
- ストップピンをハンドルポールブラケットの穴にしっかりと入れてください。

次にラッチのノブを右に回し、ラッチを一杯引き上げ、上部をエンジンフードから外します。そしてエンジンフードを取り外します。

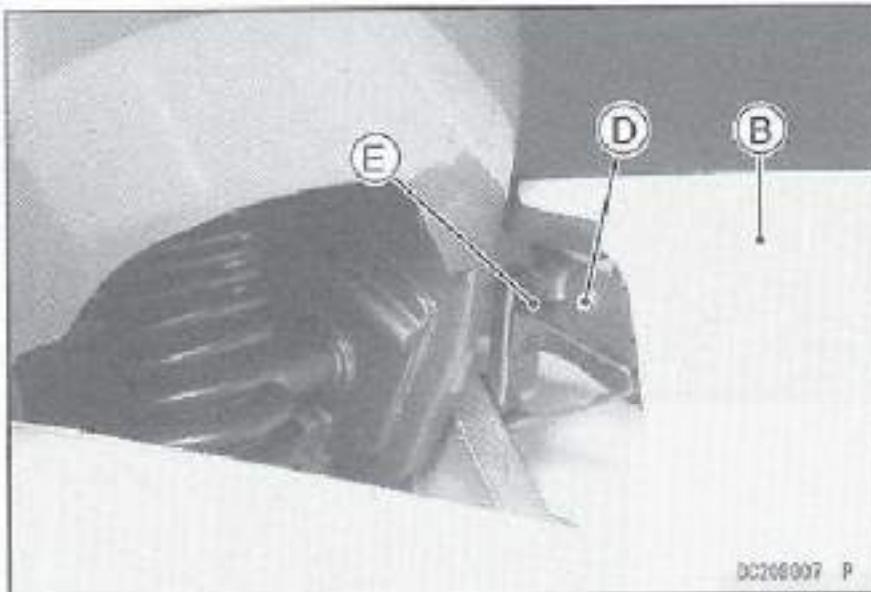


A. はしごす

- エンジンフード(B)の後端部を少し持ち上げながら(A)、後方へずらし(C)、フードフック(D)をハンドルポールヒンジ部のブラケット(E)から外します。

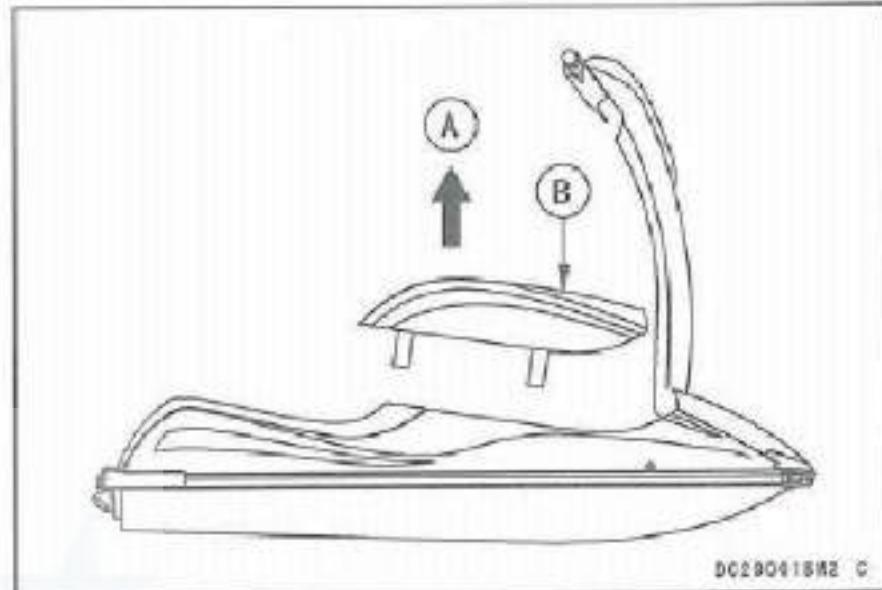


A. 持ち上げる
B. エンジンフード
C. 後方へずらす。



B. エンジンフード
D. フードフック
E. ブラケット

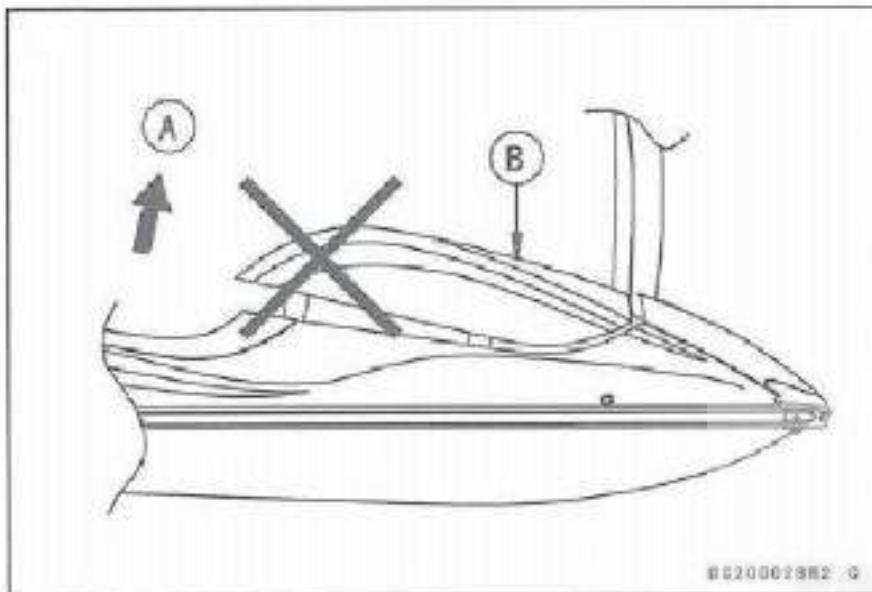
- エンジンフード(B)を持ち上げ(A)取り外します。



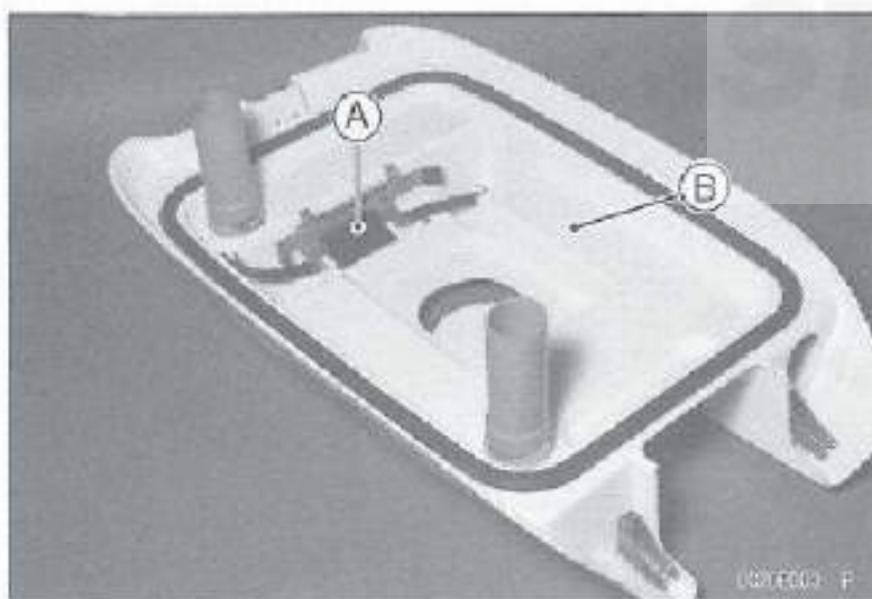
A. 持ち上げる
B. エンジンフード

注意

ハンドルポールヒンジ部のブラケットからフードフックを外さない状態でエンジンフード(B)を持ち上げないでください(A)。フード内部が壊れことがあります。



A. 持ち上げない
B. エンジンフード

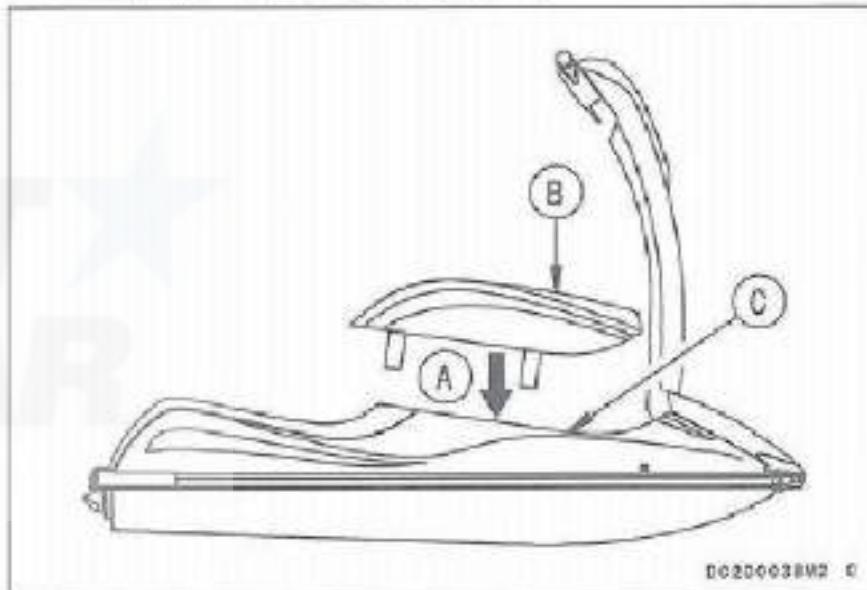


A. 消火器用ホルダー
B. エンジンフード

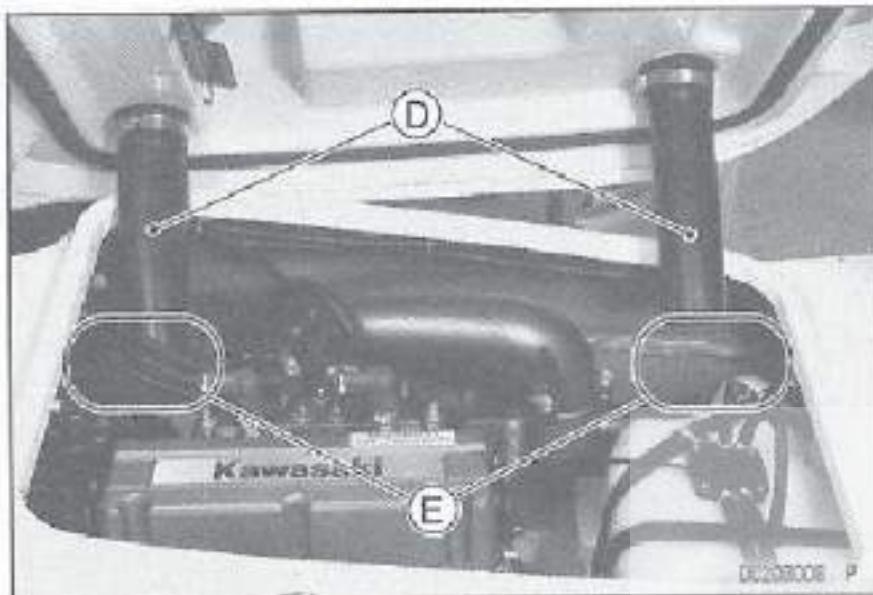
- エンジンフードの裏面に消火器取り付け用ホルダーがあります。

エンジンフードの閉め方

- フード内面の2本のダクト(D)をエンジルームの所定の空間(E)に収めるよう、かつフードをエンジルームの開口部(C)に平行に保ちながらフード(B)を降ろします(A)。

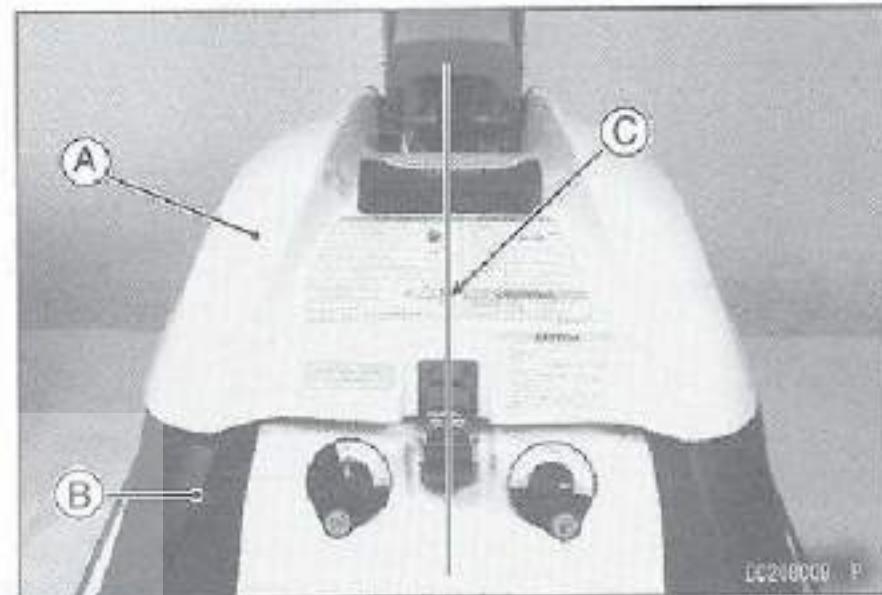


A. 水平に降ろす
B. エンジンフード
C. エンジルーム開口部



D. ダクト
E. エンジンルーム内空間

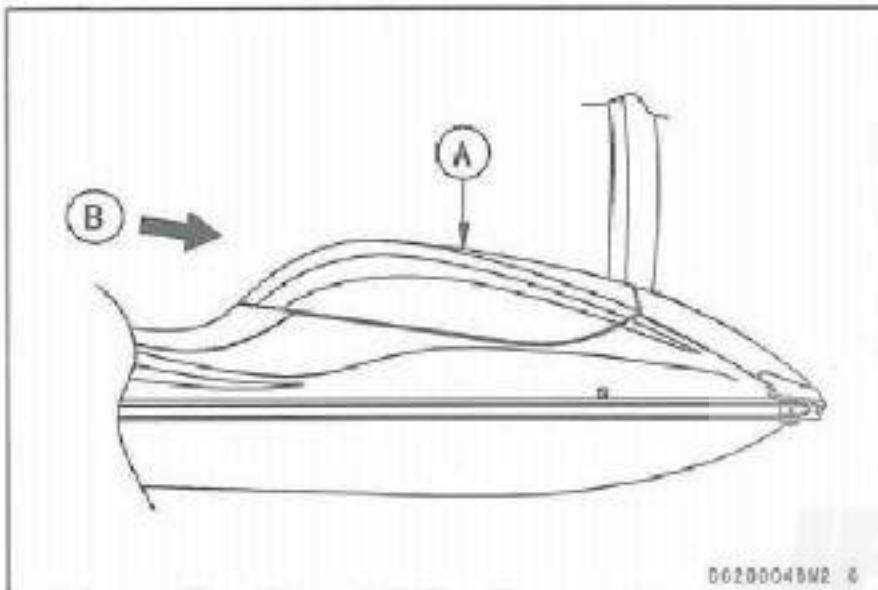
- エンジン開口部(B)とフード(A)の中心を合わせながら(C)フードを置きます。



A. エンジンフード
B. エンジン開口部
C. 中心を合わせ。

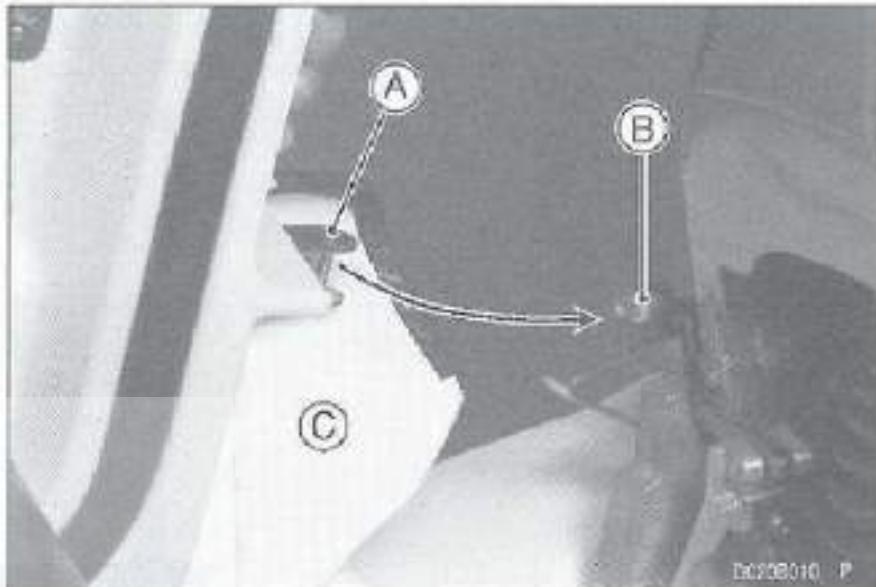
28 一般事項

- エンジンフード(A)を前方へ押します(B)。



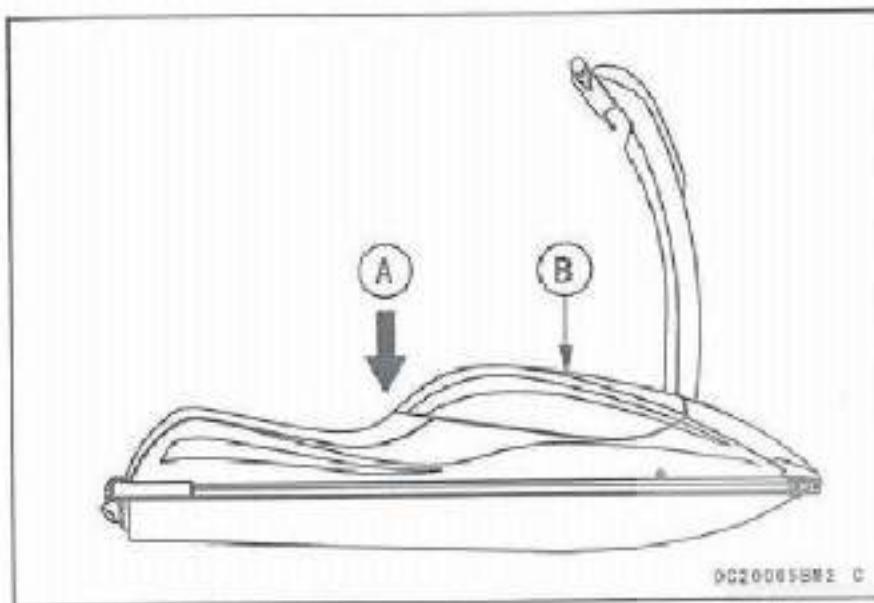
A. エンジンフード
B. 前へ押す。

- フードの両方のフック(A)がハンドルポールヒンジ部のブラケット(B)に入っているのを確認します。

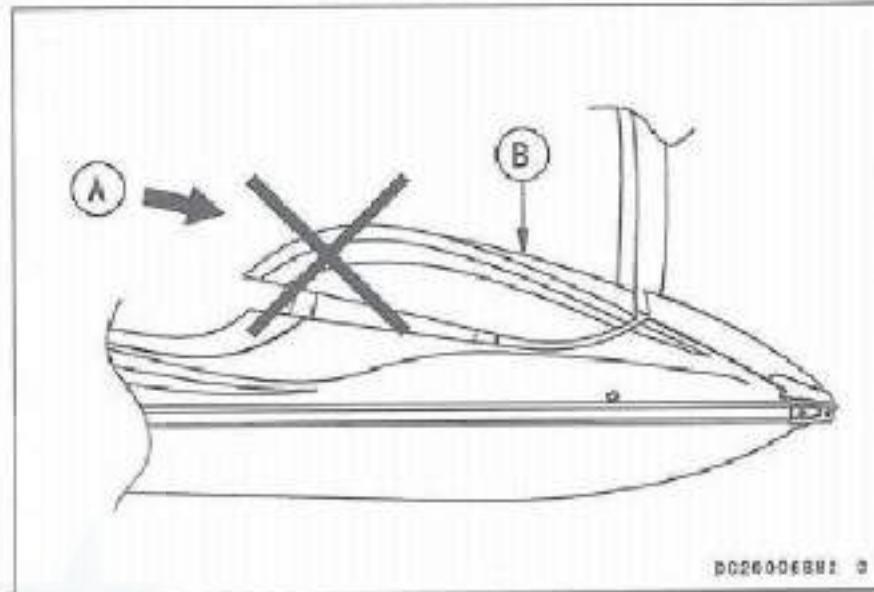


A. フードフック
B. ブラケット
C. エンジンフード

- エンジンフード(B)の後端部を押さえつけます(A)。
- フードのラッチを下に降ろし、ラッチのロックノブを左側へ回します。



- A. 押さえつける。
- B. エンジンフード

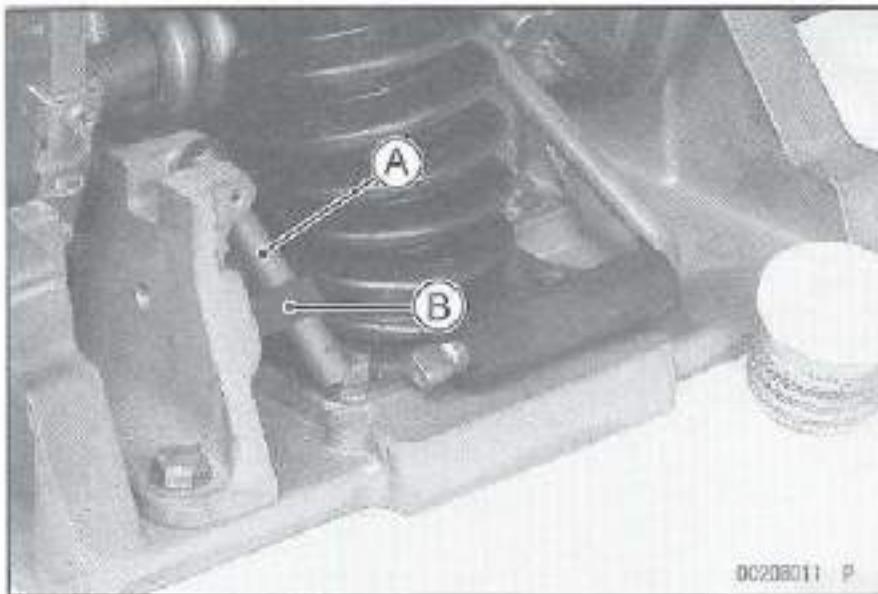


- A. 斜めに押さない。
- B. エンジンフード

注意

次のイラストの様にフードを斜めに差込まないでください。フードの内部が損傷することがあります。

- ハンドルポールを手で保持したまま、ポール下部のストッパー・ピンを外しピンのホルダー(B)に格納します。

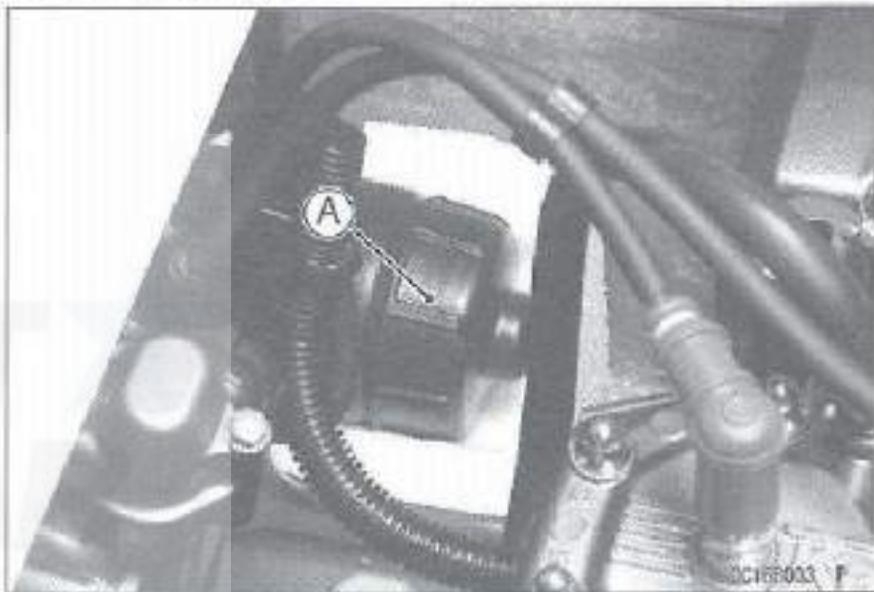


A. ストップピン
B. ピンホルダー

ウォータクラフトを輸送する時は、エンジンフードが確実に固定されているか確認してください。また、ハンドルポールもしっかりと固定してください。固定されていないとハンドルポールおよびエンジンフードが損傷する場合があります。

工具

工具はエンジンルームの中にはあります。この工具で取扱説明書に述べている調整および整備を行う事が出来ます。



A. 工具入れ

ビルジシステム

このウォータクラフトにはエンジルームの後部にバキューム式の排水装置が装備されています。

この装置は推進用のウォータージェットによりエンジルームのビルジを吸引・排水します。水上でエンジンが作動しているときのみ作動します。

注意

定期点検整備表に従って、定期的にビルジ排水装置の作動を確認し、ビルジ吸引口周辺のゴミを取り除いてください。

⚠ 警告

このビルジシステムは事故等によるエンジルームへの浸水に対処するようには設計されていません。

要点

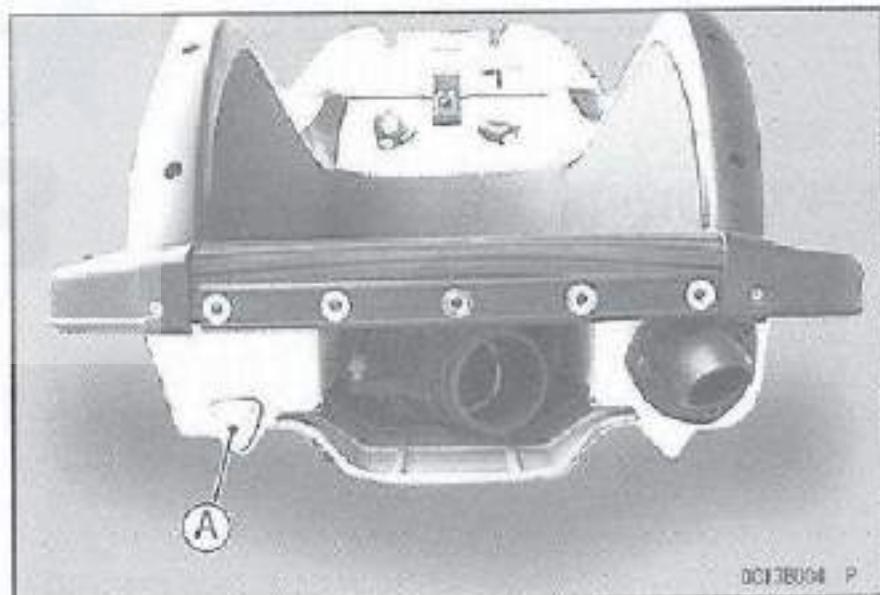
- エンジルームの残水を排水するには、ウォータクラフトが陸上にある状態で船体後部のドレンプラグを取り外してください。

ドレンプラグ

- スターン（船尾）には、エンジルームにたまつた水を排出するためのドレンプラグがあります。ウォータクラフトを陸上に引き揚げたときだけドレンプラグを外してください。

注意

ウォータクラフトを水上に降す前に、エンジルームに浸水しないようにドレンプラグをしっかりと締めてください。



A. ドレンプラグ

操縦方法

安全な操縦

操縦者の水泳能力：

⚠ 警告

道具(たとえ浮袋のような簡単なものでも)を使って水上で遊ぶ人は泳ぎができないければなりません。また、泳いで戻ってくることができる範囲より沖合に出てはいけません。

安全運転規則：

⚠ 警告

平成15年6月1日以降ウォータクラフトを操縦するには、特殊小型船舶操縦士免許が必要になりました。(新制度の1級、2級小型船舶操縦士免許では操縦できません。但し、それ以前に取得された旧制度の免許では、湖川小馬力以外の5級小型船舶操縦士以上の資格で従来通り操縦ができます。)ウォータクラフトを操縦する際は、必ず免許証を携帯し、安全規則、各地方の条例等を良く確認し、これらに従ってください。

- 航走を始める前には必ず当地の天気予報を確認して、気象の変化に注意しておきます。

注意

一般に陸上より海上の方が気象変化の程度が大きいので、変化には十分注意してください。気象情報のみにたよらず、観天望氣により突風、霧の前兆があれば直ちに帰港してください。観天望氣：雲ゆきや空模様を見るとか、日がさ、月がさ、朝やけ、夕やけ、山の上の笠雲などを観測して判断することです。狭い地域の天気を予測するのに役立ちます。

- このウォータクラフトの定員は一人用です。操縦者以外の人を乗せないでください。
- エンジンを始動する前に、スロットルやステアリングが正常に動くか点検してください。これらが故障していると、事故につながります。
- 操縦者は、JCI（日本小型船舶検査機構）認定のライフジャケットを必ず着用してください。ライフジャケットは身体に合ったものを使用してください。
- 操縦者は身体を保護できる衣服を着用してください。落水時の衝撃による水圧やジェットノズルの近くで強い水圧を受けた場合、体腔内に水が入り負傷をするおそれがあります。通常の水着では身体を十分に保護できません。身体を保護できるウェットスーツパンツ等を必ず着用してください。
- 操縦者は遊泳者、障害物、周囲の船舶から回避できる安全な速度、距離を保って航走してください。

- 他のウォータクラフトや船舶などの後ろを追走しない。
- 周囲のものに水しぶきが掛かるような距離まで近づかない。
- 急旋回など周囲の操縦者が避けられないあるいは予測できない航走はしない。
- 浅瀬や暗礁のある水域は航走しない。
- 発進や急旋回する時は、周囲に十分注意してください。ウォータクラフトは旋回性能が良く、操縦性も良いので、周囲の人が思っているより早く旋回できるからです。旋回する前にいつも後から他のボートなどが近づいて来ていないか、ふり返って確かめてください。
- 操縦者は早めに行動を起こし、衝突防止に努めてください。ウォータクラフトも一般船舶と同様にブレーキ装置はありません。
- 操縦者は落水した時エンジンが停止するようキルスイッチコードを手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにしてください。下船後は子供や他の人が使えないように、キルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。
- 酒気を帯びたり、または正常な運転や判断を妨げるおそれのある薬物を服用して、ウォータクラフトを運転してはいけません。
- ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかつてください。
- 水深の浅い場所で水中に降りた時、水中にかくれている貝がらや岩などにより、足にけがをすることがあります。操縦者はデッキシューズ、テニスシューズ等を履いて、足の保護をはかつてください。

- 旋回するためにはジェットノズルからの推力が必要です。スロットルレバーを完全に放すと旋回能力が落ち、障害物を避けようとしても避けられないおそれがあります。
- このウォータクラフトは転覆してもその時の波と風の状態によっては自動復元しません。従って、操縦する人は誰でも船の正しい起こし方を知っていなければなりません。
- ウォータクラフトは日没後、縫縫しないでください。夜間も操縦できるように設計されていますし、灯火もありません。
- ジェットポンプが詰まり、事故の原因となるので、雑草・海草や浮遊物の多い所で操縦しないでください。
- インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあるので、浅瀬で操縦しないでください。
- 他のボート、特に水上スキーをしているボートには注意してください。
- 決して水上スキー用のジャンプ台をとび越えないでください。ウォータクラフトの損傷や、操縦者のけがのもとになります。
- 悪天候や荒波では危険ですからウォータークラフトを運転しないでください。重大な海難事故につながることがあります。
- 波を横切る前に、速度を落としてください。荒波の中を高速で航走すると、脊髄、腰や足をいためることができます。
- 操縦者は、視界の良し悪し、他の船の往来、天候、波の状態などを考えて安全なスピードを判断しなければなりません。波がぶつかり合うような水面では、ウォータクラフトの航走特性はかなり影響されることがあります。操縦者が落水す

る原因になることがあります。さらに、悪条件のもとでフルスピードで航走しようとすると、船が予想外の動きをする原因になり、けがをするおそれがあります。

注意

波に向かってぶつかる乗り方をすると、ウォータクラフトに過激な力がかかり、船体の破損の原因になります。

ジェットポンプに関する注意

ジェットポンプはもともとプロペラ推進より安全になっていますが、次の特別な注意が必要です。

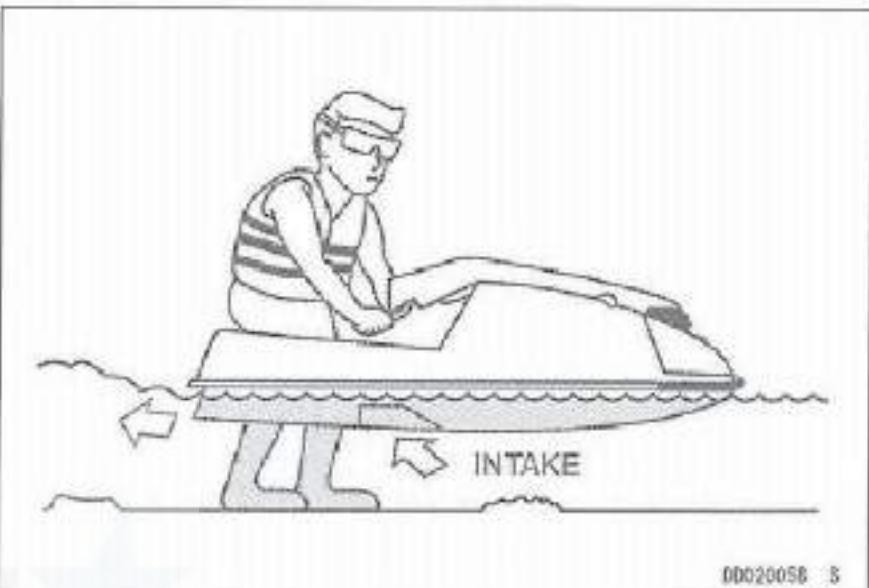
⚠ 警告

エンジンが回転中は、けがをするおそれがありますので、ジェットポンプの吸水口(船底の中央後部)に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル(ジェットノズル)に物をさし込まないでください。

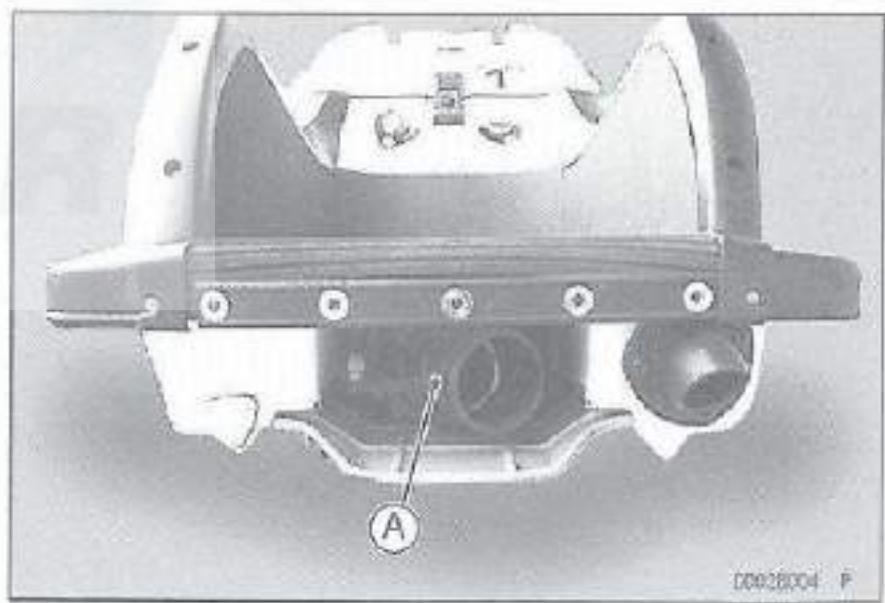
ウォータクラフトの背後に人がいる時はスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドルスピードにしてください。

スロットルを開けると、ジェットノズルから排出される水や異物でけがをするおそれがあります。

エンジン運転中はジェットポンプの給水口に近づかないでください。長い髪、だぶついた衣服、ライフジャケットの紐等が巻き込まれて、けがをしたり、漏れたりするおそれがあります。



00020056 5



A. ステアリングノズル

乗船者の安全装備:

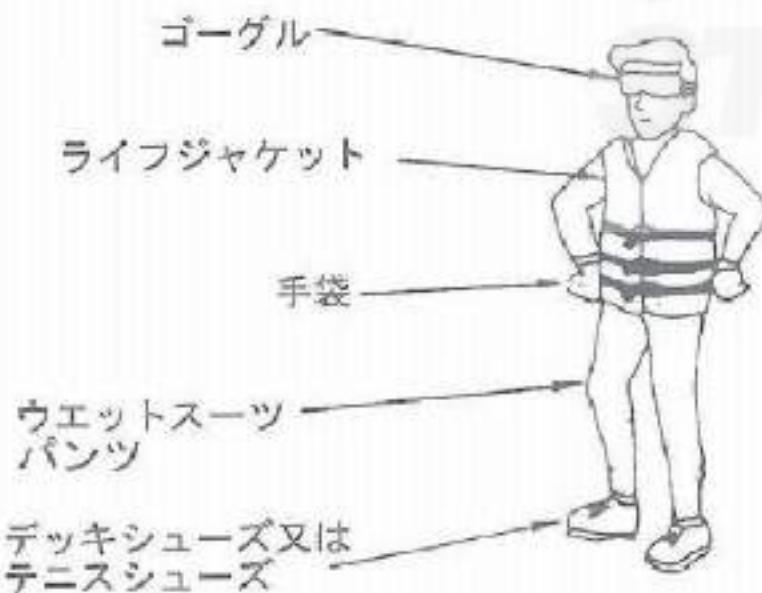
！ 警告

乗船者は、JCI(日本小型船舶検査機構)認定のライフケットを必ず着用してください。ライフケットは身体に合ったものを使用してください。
落水・乗り込み時に、水の圧力により体腔内に水が入り負傷することがあります。操縦者は、しっかり保護できるウェットスーツパンツのような水着を着用してください。
シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡)も着用してください。

目と足との安全と保護:

！ 警告

ウォータクラフトが航走中、波しぶき等で一瞬目が見えなくなることがあります。適当なゴーグル等をかけて安全をはかってください。
ウォータクラフトを操縦する時は、デッキシューズ等を履いて足を保護してください。水中にかくれている貝殻や岩等による打撲、すりきず等を防ぎます。



ヘルメット着用の選択

ウォータクラフトでヘルメットを着用する前に、その利点と危険をよく考えねばなりません。

利点：ヘルメットは固いものにぶつかった時、頭部を保護します。

危険性：ヘルメットの着用は周りの視野を制限し、その重みで疲れを増すことがあります。また、水中に転落したとき頸部との間に負担をかけ、重大なけがをする原因になるおそれがあります。

積載

▲ 警告

荷物の積載やアクセサリーの使用、またはウォータクラフトの改造は、船の操縦安定性に悪い影響を与え、航走条件を危険にします。乗る前に以下の指示に従っているか、必ず確認してください。

最大積載重量

定員1名

重要：カワサキウォータクラフト用純正アクセサリーはその製品およびカワサキのウォータクラフトへの取り付けに関して安全に設計されています。アクセサリーを装備される時は必ずカワサキの純正アクセサリーをご使用ください。

純正以外のアクセサリーを使用されると、カワサキはその安全性に関して確認することが出来ません。また純正以外のアクセサリーの不適切な取り付け・使用およびウォータクラフトへの改造はウォータクラフトに事故および不具合を生じる危険性があり、保証の対象にならない場合があります。

このようにカワサキの純正以外のアクセサリーを使用したり装備をする場合は、あなた自身およびあなたの周りの人達への安全に関して、十分な責任をお持ちください。

ウォータクラフトは重量配分の変化に敏感です。アクセサリーをつける時は、最大の注意を払ってく

ださい。以下の一般的なガイドラインを参考にして決めてください。

- このウォータクラフトは定員1名として設計されています。定員以外の人を乗せないでください。定員以上乗ると、船の操縦安定性に悪い影響を与え、事故につながるおそれがあります。
- 船の性能を落とすようなアクセサリを付けないでください。

乗る前の点検項目

- 毎回ウォータクラフトを使用する前に、必ず次の事項を点検してください。

- 1) 燃料タンク内の圧力: 燃料注入口キャップを開き、タンク内の圧力を逃がします。終了後キャップはしっかりと締めてください。
- 2) エンジンルームの換気: エンジンフードを外し、エンジンルームを数分間換気します。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 3) 燃料漏れ: エンジンルームを換気している間に、燃料漏れがないか点検してください。
- 4) ビルジ(あか)の排水: エンジンルームに水がたまつていれば、ドレンプラグを外して水を出してください。排水後、ドレンプラグをしっかりと締めます。
- 5) ポンプの清掃: 給水口、ジェットポンプ、ドライブシャフト等から異物を取り除いてください。
- 6) ポンプカバー: ジェットポンプカバー、給水口格子に緩みがないか点検し、必要なら取り付けボルトを締めてください。
- 7) 船体の損傷: 船体の損傷を点検してください。
- 8) ドレンプラグ: スターン(船尾)のドレンプラグが確実に締められているか確認します。

38 操縦方法

- 9) 燃料: 燃料タンク内の量を点検します。必要ならば燃料を補給し、燃料バルブノブをONにします。
- 10) ファスナ: ボルト、ナット、クランプ等に緩みがないか点検し、あれば締めてください。
- 11) ホースの接続: すべてのホースが確実に接続され、また、すべてのホースのクランプがしっかりと締められているか確認してください。また、すべてのホースを点検し、劣化やひび割れがあれば交換してください。
- 12) ステアリング: ステアリング系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検してください。必要であればケーブルを調整してください。（「整備と調整」の章参照。）ステアリングケーブルは両端をシールしており、潤滑は不要です。もし、シールが破損していれば、ケーブルごと交換してください。
- 13) スロットルコントロール: スロットル系統にひっかかりがないか、ガタつく箇所がないか、過度の遊びがないか点検し、必要であれば調整します。（「整備と調整」の章参照。）スロットルレバーは手を放すと完全にもとの状態にもどらなければなりません。

⚠ 警告

もし、スロットルレバーがなめらかに、完全に戻らないと、操縦不能になるおそれがあります。

- 14) バッテリターミナル: バッテリターミナルのスクリュがしっかりと締まっているか、また、ターミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

ミナルカバーが確実に取り付いているか点検します。

⚠ 警告

バッテリケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

- 15) キルスイッチコード: エンジンを始動して、数秒間回転させます。（「エンジンの始動」の項参照。）コードキーをストップボタンから抜いて、エンジンが停止するか確認します。

⚠ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

注意

自ら引き上げたウォータクラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 16) ストップボタン: 再びエンジンを始動して数秒間回転させます。ストップボタンを押して、エンジンが停止することを確認します。

- 17) エンジンフード: エンジンフードをしっかりと取り付け、ラッチがロックされたか確認します。
- 18) 操縦者の保護: 操縦者は常にライフジャケットを着け、その他完全装備をしてください。

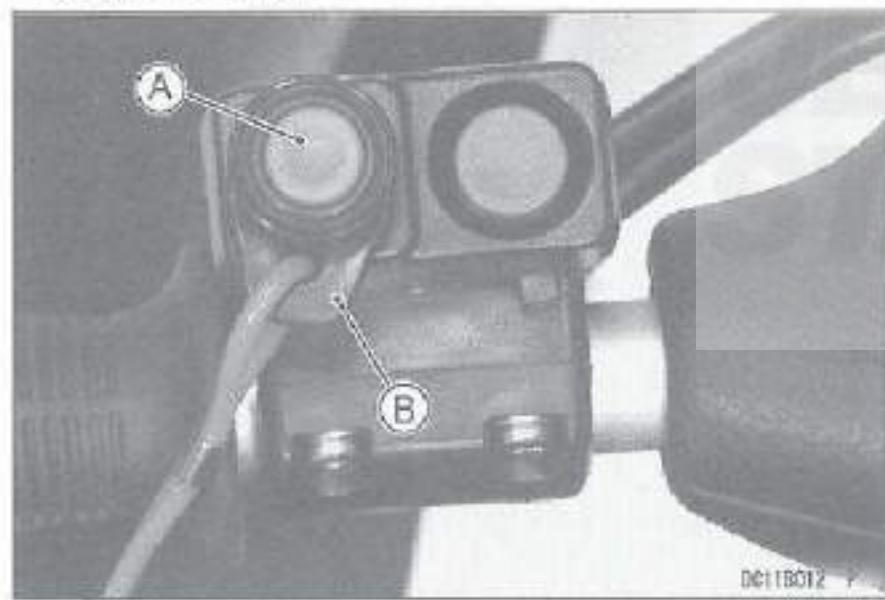
ならし運転

- 新しいウォータクラフトは、ならし運転が大切です。これは、機械部品の各摺動部になじみをつけ、それらの偏摩耗を防ぎ、また、表面を滑らかにするためです。最初の5時間は急激な加速や長時間の全開運転をしないでください。この間は全開の3/4以下で運転してください。
- 一定の速度で長く運転せず、ひんぱんに速度を変えて運転してください。
- ならし運転期間中、ウォータクラフトを注意深く取扱うと、より効率よく、信頼性の高い性能が確保でき、長持ちにつながります。
- 上記ならし運転に加えて、最初の10時間運転後、整備工場で定期点検整備を受けてください。「整備と調整」の章の「定期点検整備表」をご参照ください。

エンジンの停止

エンジンは次の二つの方法のどちらか一つによって、止めることができます。

- 赤色のストップボタンを押します。押し続ける必要はありません。エンジンが停止すると、ストップボタンはもとに戻り、始動できる状態になります。
- キルスイッチコードキーをストップボタンから抜きます。エンジンを再び始動させるためには、コードキーをストップボタンの下に差し込むねばなりません。



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

⚠ 警告

エンジンが停止すると、ウォータクラフトの進路変更ができなくなります。

- もし、緊急にエンジンを停止しなければならない時は、赤色のストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。

考えられる緊急事態とは:

*エンジンの回転をコントロールできなくなった時。

*スロットルレバーが指を放しても完全に戻らない時。

⚠ 警告

もし、スロットルが正しく作動しない時は、原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを運転しないでください。

下船後は子供や他の人が使えないようにキルスイッチコードをウォータクラフトから外してください。

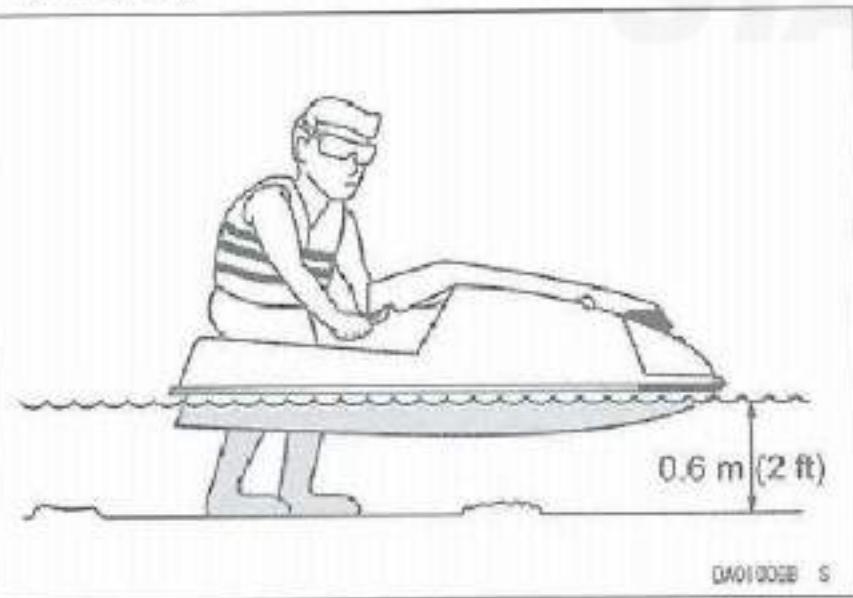
エンジンの始動

- 船を水上に降ろす前に、この章の「乗る前の点検項目」の項をよく読み、その指示に従ってください。
- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気してください。

⚠ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 稲草・海草や浮遊物のない水深60 cm以上の所に船体を浮かべます。前方に泳いでいる人達がないか、また、ボートや障害物がないかよく確認します。



注意

ウォータクラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60 cm以上の所で行ってください。

- 燃料ノブを“ON”にし、スタータロックスイッチを右位置にしてください。
- 水の中でウォータクラフトの隣に立ち、コードキーをストップボタンの下に差し込み、コードのもう一方の端を手首にはめ、ハンドルバー等に絡まないようにします。コードを引っ張ってみて、しっかりと手首にはまっているか確認してください。

要点

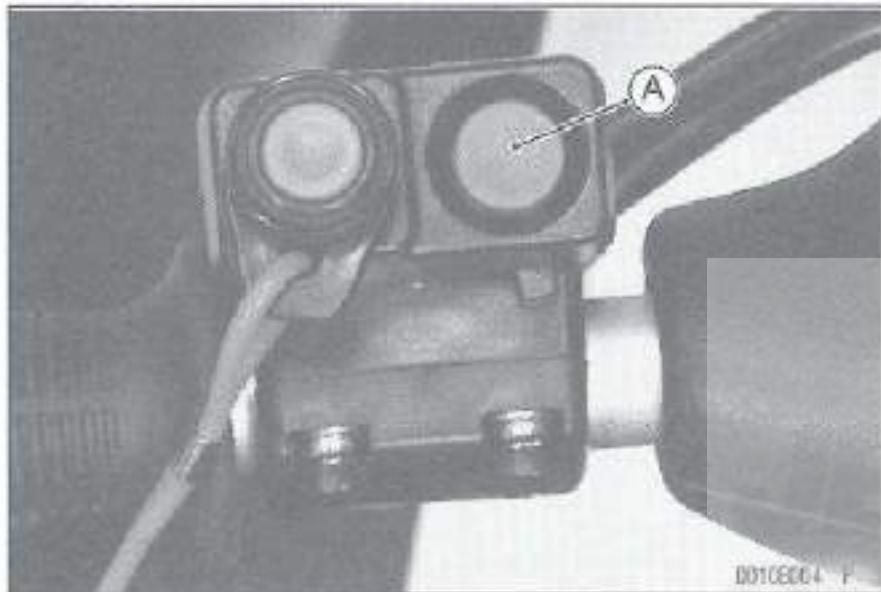
- キルスイッチコードキーがストップボタンに差し込まれていないと、エンジンは回転しても始動しません。
- チョークノブを右へいっぱい回します（“ON”位置）。右手で右ハンドルバーを握り、スロットルレバーを少し引きます。

⚠ 警告

エンジンが回転中はジェットポンプの給水口（船底の中央部）に手、足、衣類等を近づけたり、船尾のステアリングノズル（噴水口）に物を差し込まないでください。けがをするおそれがあります。

- 左手で緑色のスタートボタンを押し、エンジンが始動したら放してください。もし、エンジンが5秒以内に始動しないときは、スタートボタンを放してください。15秒間待って再び始動さ

せてください。数回試みても始動しない時は、「トラブルシューティング」の章を参照してください。



A. スタータボタン

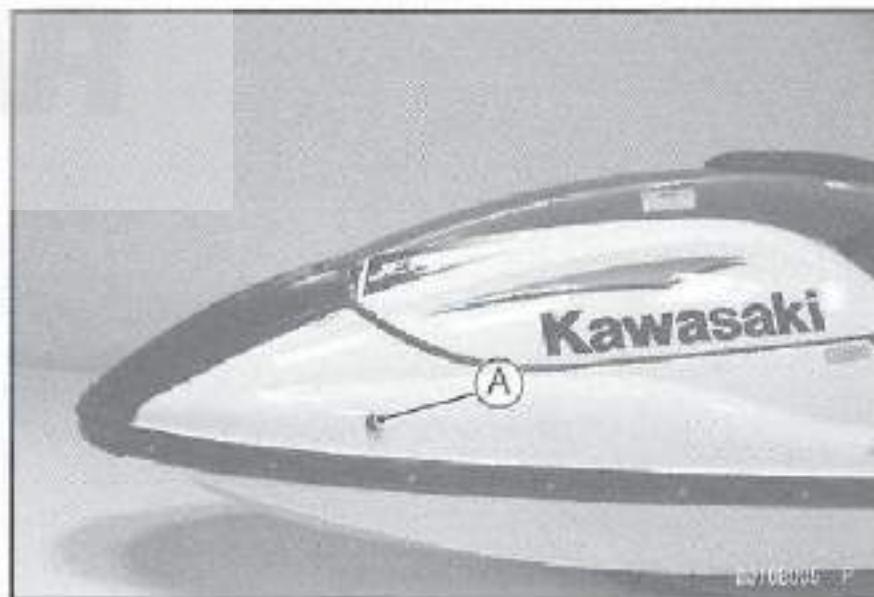
要点

- エンジンが始動しない時は、15秒間隔で始動を行ってください。こうすることはバッテリやスタータの寿命を延ばすことになります。
- エンジンに初爆があれば、たとえ始動に至らなくてもチョークノブを左へ一杯戻してください。燃料の過給を防ぎます。
- エンジンが温まっている時は、チョークを使わないでください。

注意

エンジンが回転している時や、スタータがまだ回っている時に、スタータボタンを押さないでください。スタータの摩耗を早め、故障の原因になります。

- エンジン始動後、約1分間暖機運転します。時々スロットルレバーを少し引いて回転を上げます。長時間のアイドリングはスパークプラグを汚すことになります。
- スロットルレバーを引いた時、船体の左側のバイパス出口から水が出てくるか確認してください。これは冷却水が循環していることを示しています。もし、水が出てこなければエンジンを停止し、原因を調べます。排気系統に水が入っていない時は、バイパス出口に水が出てくるまで15秒ほどかかります。



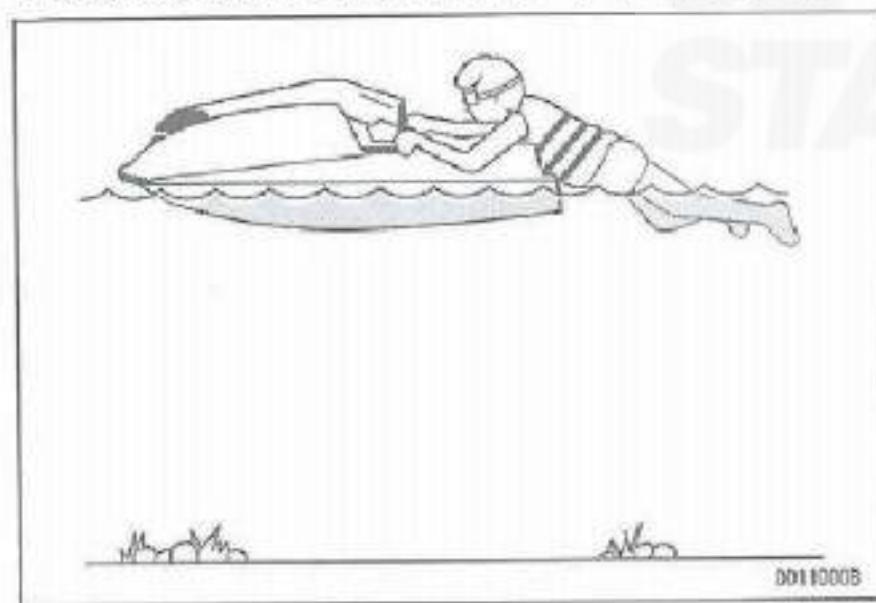
A. バイパス出口

発進

水深の深い場所での発進:

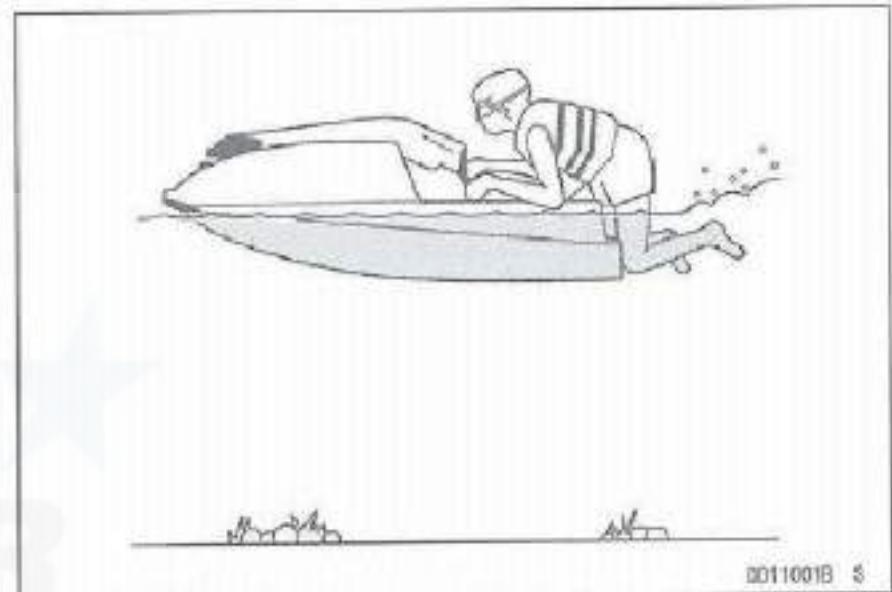
水深の深い所での発進はウォータクラフトの基本的な発進方法です。これは一番やさしい方法ではありませんが、深い所でウォータクラフトから落ちても再び乗ることが出来るよう、マスターしてください。

- 少なくとも腰のあたりまでの深さでエンジンを始動させます。
- 両手でハンドルバーをつかんでウォータクラフト後部にうつむく姿勢をとり、前腕は船べりに乗せます。
- 前方の水面に障害物等がないか確認します。



- スロットルレバーを引き、急速に加速してください。ジェットの推力により船体が安定し、旋

回が可能になります。加速するにつれて船べりについたひじをテコにしてデッキに体を乗せ、次にひざを乗せます。ハンドルの操作の邪魔にならない程度にできるだけ前へ移動してください。



⚠ 警告

進行方向にいるポートや泳いでいる人達、その他障害物に注意してください。これは危険防止のため初心者には特に重要なことです。

- ウォータクラフトのスピードが上がるにつれて船首が下がり水平になって滑走します。体重の軽い人より重い人の方が時間がかかります。一旦、滑走状態になったらスロットルを戻し、好みのスピードで走ってください。

深い所での発進は、体重の重い人、または体調の良くない人には一般的により難しくなります。この場合、岸に戻り浅い場所から発進してください。何回か練習すると深い所での発進もできる様になります。

▲ 警告

体を後に引きずったような姿勢でウォータクラフトを長時間操縦しないでください。視野がさえぎられるため、進行方向のボートや泳いでいる人達、その他障害物が見えにくくなります。また、ジェットポンプが吸い上げて後へ噴出するおそれのある異物も見えないかも知れません。

水深の浅い場所での発進

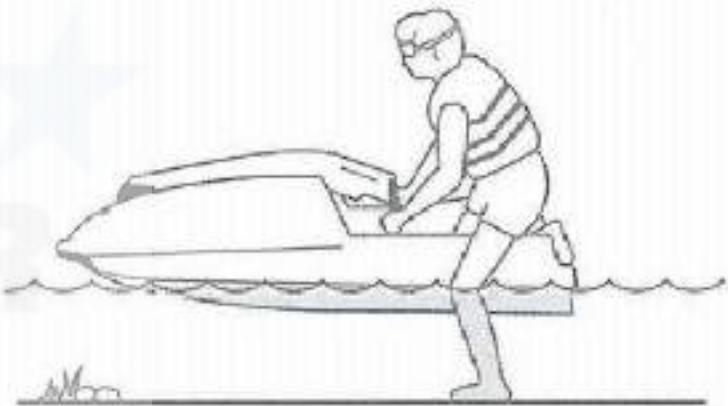
一番やさしい発進方法ですが、これにばかり頼らないでください。深い所での発進がやはり初心者にはもっとも大切な方法です。

- ウォータクラフトを浅瀬にけい留するときはいつも砂場や岩場を引きずらないでください。これは船体の傷を減らし、砂や岩がジェットポンプの中に入り、再始動時、ジェットポンプが損傷することを防ぎます。
- 海岸に引き上げたウォータクラフトの中に砂や岩が入ったときには、水中にて船尾を何回も大きく上下させ、ジェットポンプの中を洗浄します。
- 少なくとも60cm以上水深があるところでエンジンを始動させます。

注意

ウォータクラフトを始動する時は、異物を船底から吸い込んでジェットポンプが損傷するのを防ぐため、少なくとも水深が60cm以上の所で行ってください。

- 両方のハンドルバーのグリップをつかみ、一方の足でバランスを取りながら他の足のひざをデッキに乗せます。



0011002B ©

- 前方の水域に何もないか確認し、ハンドルバーを真っ直ぐ前方に向けてください。
- スロットルレバーを引き、急速に加速します。ジェットの推力で船体が安定し、旋回が可能になります。
- 進行方向の他のボート、泳いでいる人達、障害物に絶えず注意を払ってください。
- ウォータクラフトが加速したら、もう一方のひざもデッキにのせ、ハンドル操作のじやまにな

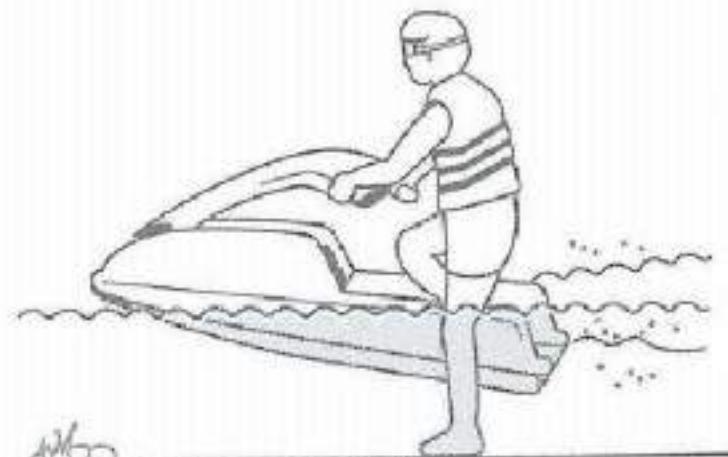
らない程度にできるだけ前方へ移動してください。体重を前方へ移動してください。体重を前方に低くかけ、体を垂直に保ってください。



0011003B S

立った姿勢での発進:

- この方法は熟練者が行うことができます。
- 少なくとも60 cm以上水深がある所でエンジンを始動させます。
- 片方の足で海底に立ってバランスをとりながら、もう一方の足をデッキに乗せます。



0011004B S

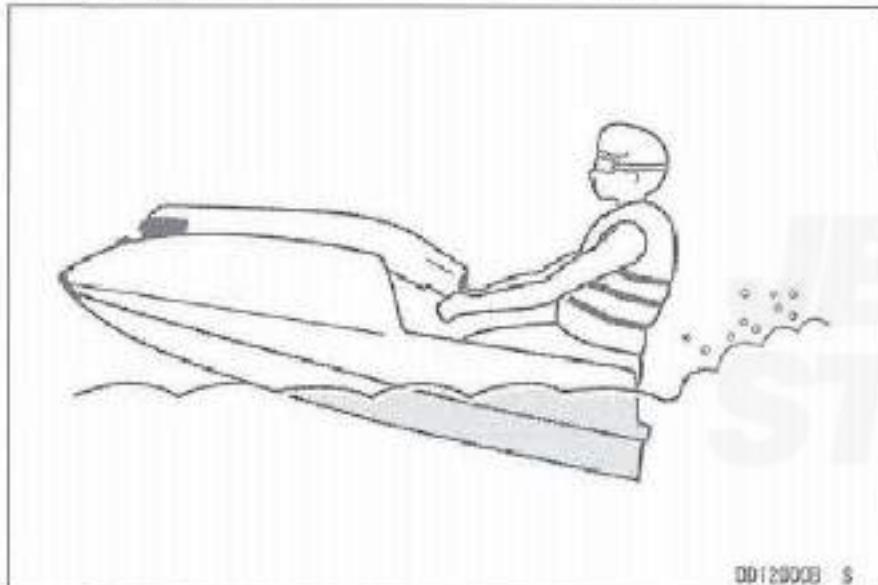
- すばやく加速して滑走に移り、立てていた足もデッキの後部に乗せます。
- 進行方向の他のボート、泳いでいる人達や、障害物に絶えず注意を払ってください。



0011005B S

停止

- ウォータクラフトは前進力によって滑走状態(水平)を保っているので、停止すると操縦者の体重により後部はいつも沈むことになります。従って、停止したらウォータクラフトから降りられるよう準備をしておいてください。



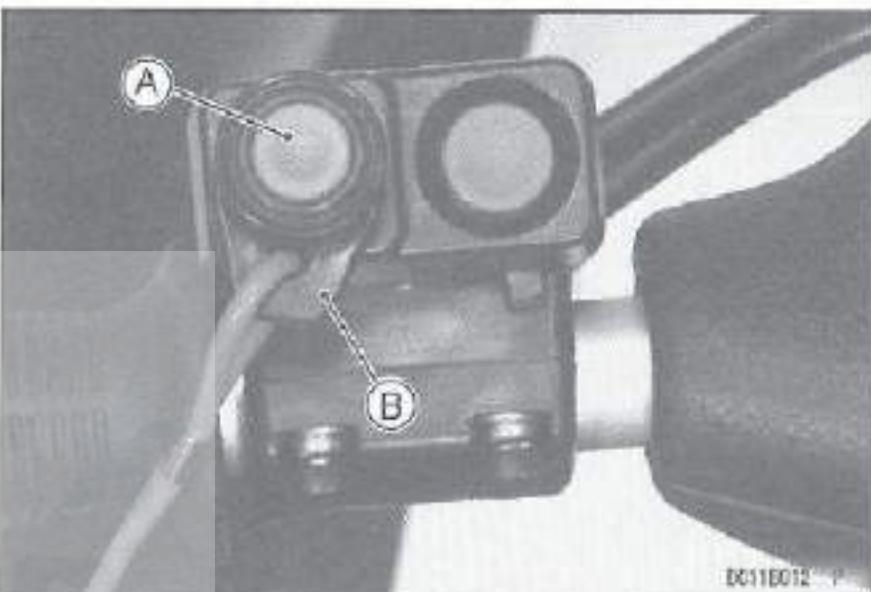
⚠ 警告

フルスピードで滑走中は、動いている物や止まっている物から100m以内に直進して近づかないでください。止まりたい場所に近づく前に必ずスロットルレバーを戻してスピードを落としてください。

ウォータクラフトの停止方法は通常2通りのうちのどちらか一つです。いずれも水の抵抗を利用して停止します。

直線停止:

赤色のエンジンストップボタンを押すか、またはコードキーを抜いてください。



A. ストップボタン
B. キルスイッチコードキー

ストップボタンを押すか、またはコードキーを抜くと直ちにエンジンが止まり、最短の直線距離で停止します。岸や停止したい位置に近づいてきたら赤色のストップボタンを押してください。砂や異物がジェットポンプに入って損傷させることを防ぎます。

⚠ 警告

ウォータクラフトの旋回が必要なら、エンジンを止めないでください。エンジンが止まると方向を変えることは出来ません。

通常停止:

スロットルレバーを放してください。



A. スロットルレバー

スロットルレバーを放すと、エンジンストップボタンを押して場合と殆ど同じ位早く、船の前進運動を止めることができます。重要なことは、エンジンがまだ回転しているので、再びスロットルレバーを引いて船の進行方向を変えることが出来ることです。この方法で船を旋回させ、障害物から離れることが出来ます。

⚠ 警告

スロットルレバーは完全に放すとウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引きつづけているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

停止技術:

停止技術は操縦者の体重や乗船位置、アイドリング速度、滑走速度等によって変わります。熟練した操縦者はいろいろな操縦技術を使って停止距離を短縮する事が出来ます。停止距離を短くするには、停止する際に体重を後へ移動する方法と、スロットルレバーを使って急旋回する方法があります。

⚠ 警告

ウォータクラフトが完全に止まらないうちに降りる時は、前方に他のポートや泳いでいる人達、障害物がない事を確認してください。

緊急時には身を守るためにいつでも船から飛び降りてもかまいませんが、水上にいる他の人達を守る事にも最大の努力を払わなければなりません。

最短停止距離

最高速度で滑走中に、ストップボタンを押したときの最短停止距離は42mです。

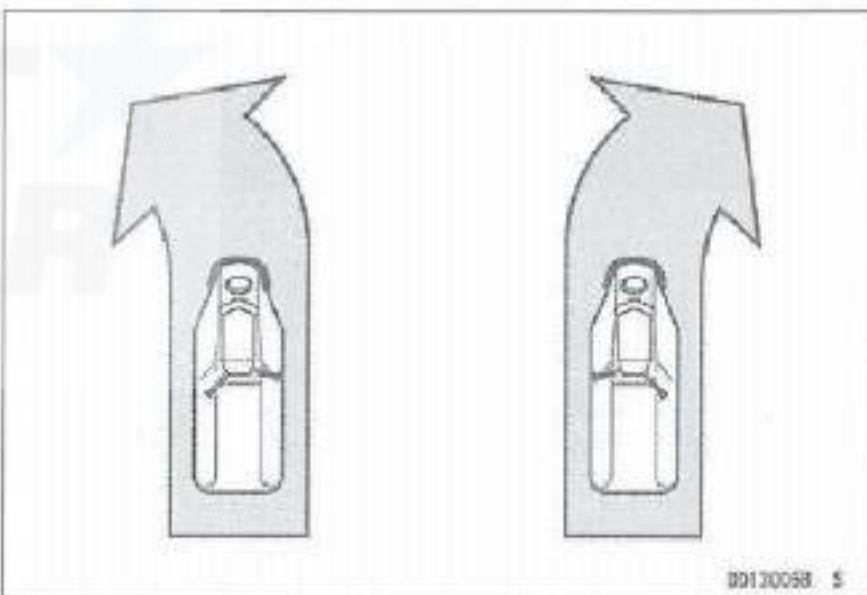
この数字は一定の条件の下で測定されたものです。従って、条件が変われば数字も変わってきます。

旋回

ウォータクラフトを旋回させるには、次の三つの動作の組み合せが必要です。

- ハンドルバーを回す。
- 旋回方向に体を傾ける。
- スロットルを使う。

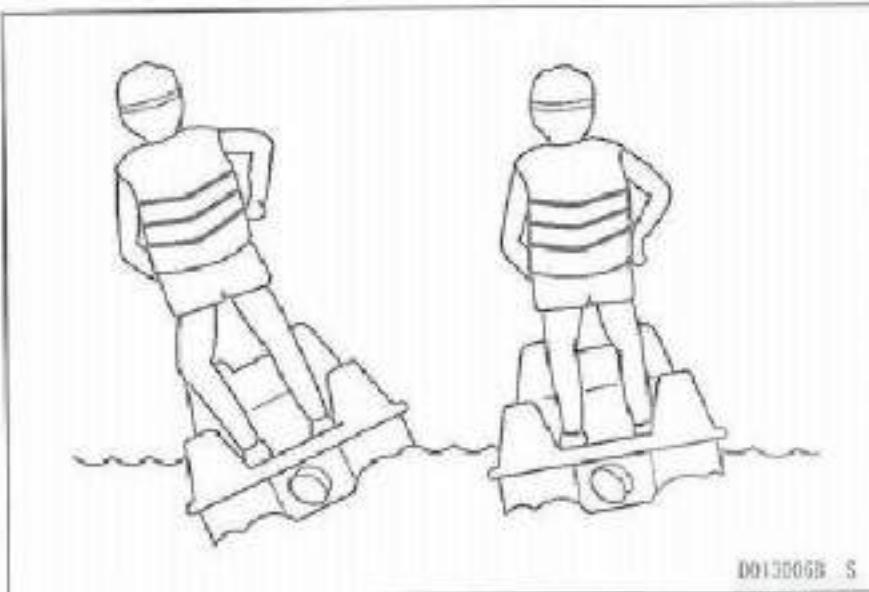
左旋回するためにはハンドルバーを左に向ける。右旋回するためにはハンドルバーを右に向ける。



左旋回

右旋回

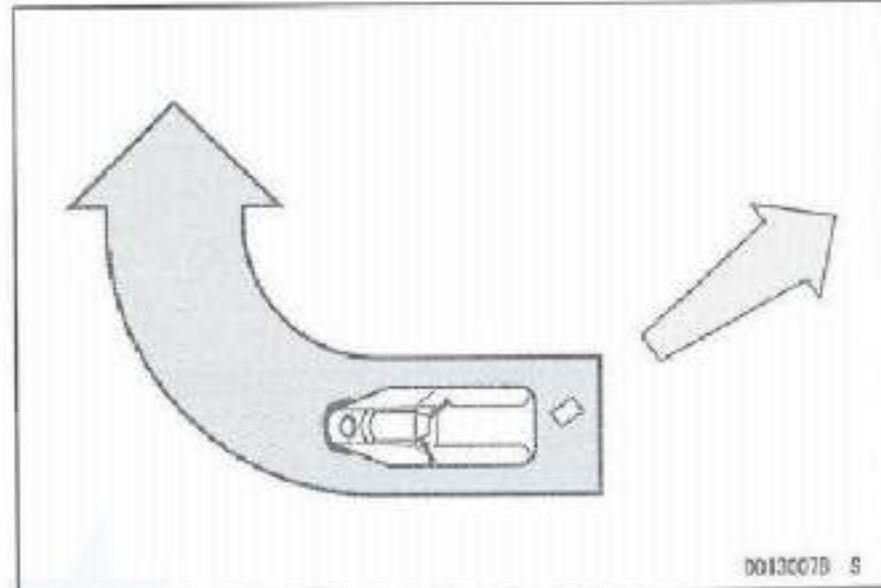
- バランスをとるために、体を旋回の内側へ傾けてください。傾ける度合いは、旋回半径の大小と滑走速度によって異なります。一般的には、速度が上がる程、または旋回半径が小さくなる（鋭く旋回する）程大きく体を傾けてください。



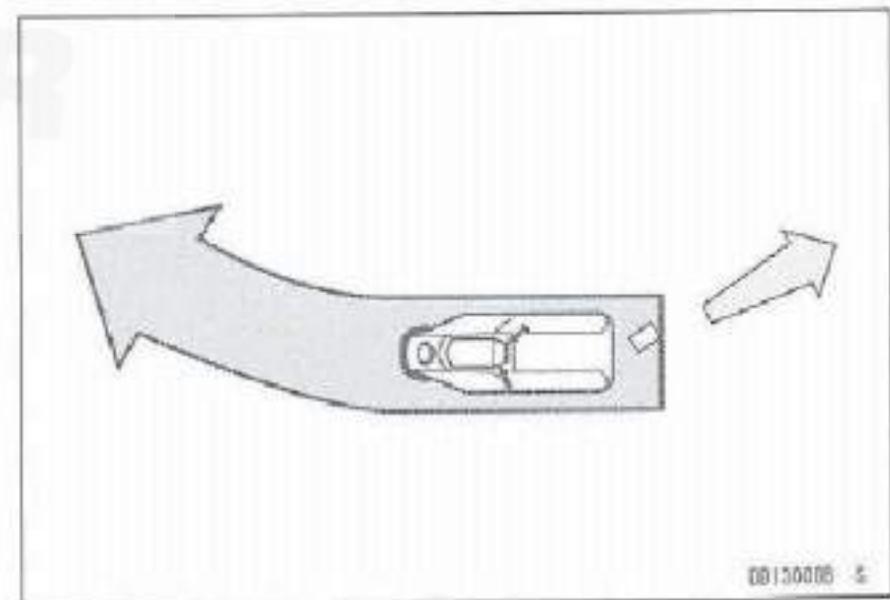
0013006B S

スロットルを使うことも、もう一つの旋回方法の重要な要素です。スロットルレバーを引くとジェットポンプにより推力が生じ、進路変更ができるようになります。

ジェットポンプの推力が強いとウォータクラフトはより鋭く旋回します。



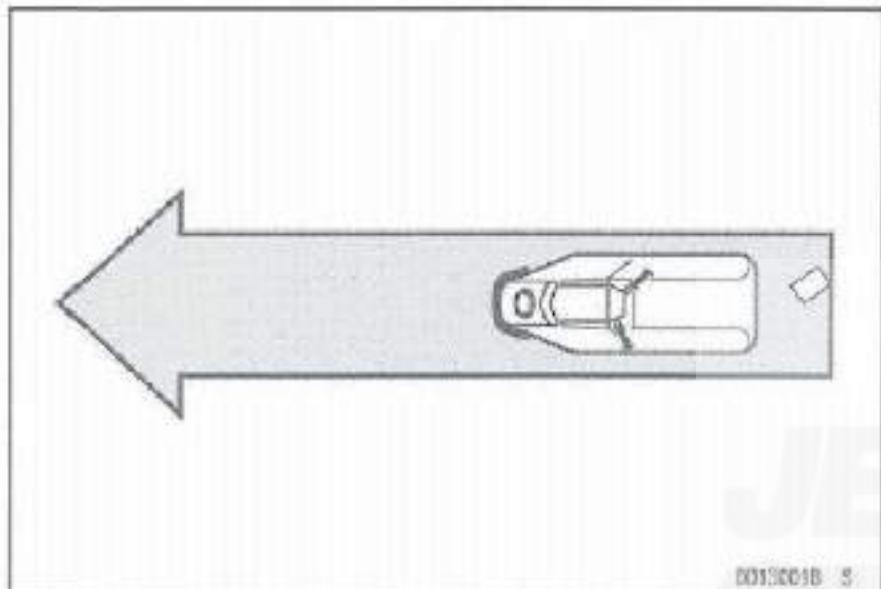
ジェットポンプの推力が弱いと緩く旋回します。



アイドリング=ゆっくりと徐々に旋回

50 操縦方法

航走中にエンジンを停止するとジェットポンプの推力がなくなり、ハンドルバーを回してもウォータクラフトは真っ直ぐに進みます。



0010001B 5

無推力＝旋回不可能

次のことは緊急操作をするときに覚えておくことが大切なジェット推進ボートの特徴です。

旋回するには推力が必要なこと。

従って、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

⚠ 警告

スロットルレバーを完全に放すとウォータクラフトの進路変更能力が低下します。そのため、避けようとしている障害物にぶつかることになりかねません。旋回には推力が必要なので、スロットルレバーを常に少し引き続けているか、または、ジェットポンプノズルにいつも推力があるようにスロットルレバーを必要に応じて引いてください。

ウォータクラフト“ジェットスキー”的乗り方

初めてウォータクラフトに乗った時は、まずデッキに両膝をつき、ハンドルポールを降ろしたままにしてください。ウォータクラフトの扱い方に慣れてください。スロットルレバーを操作してエンジンスピードをいろいろ変え、スロットルが旋回にどう影響するか感触をつかんでください。

ウォータクラフトの船首が連続的に上下する状態（ボーボイジング）が起きたら、体重をさらに前方へ移してください。

⚠ 警告

ハンドルバーの真上にあごがくるような乗り方をしないでください。波にぶつかった時、けがをすることがあります。

もし、燃料がきれてエンジンが止まった場合、チョークノブを回してはいけません。燃料バルブノブをRESの位置に回し、エンジンをもう一度始動します。常に他のボート、泳いでいる人達や、障害物に注意してください。

要点

- “RES”(予備)の位置で走る距離は限られていますので、できるだけ早く燃料を補給してください。

- 補給後はノブを必ず“ON”的位置にしてください。

注意

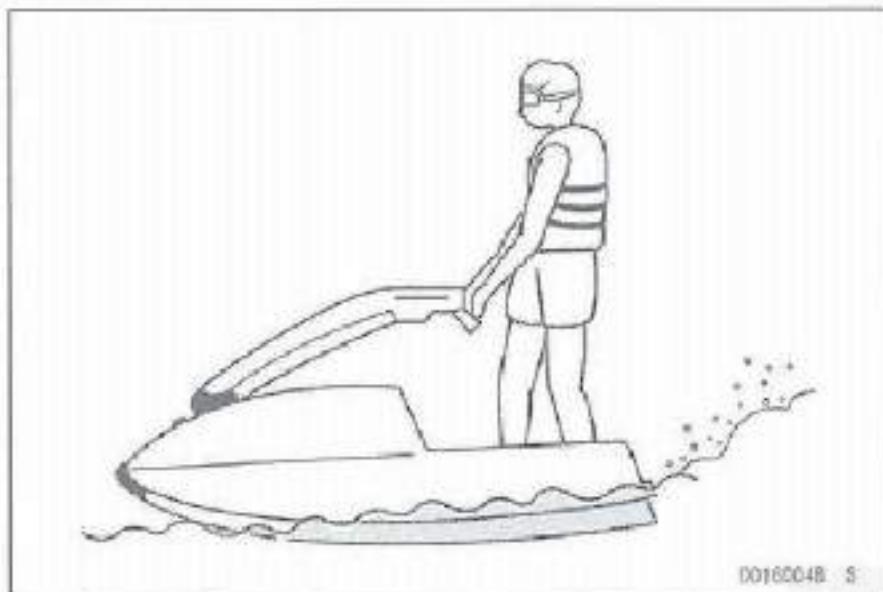
ハンドルバーを押し下げないでください。ハンドルポールはエンジンフードの上に乗っているので傷がつくおそれがあります。

ウォータクラフトを岸に乗り上げないでください。インペラや船体がひどく損傷することがあります。浅瀬や浮遊物の多い所で操縦しないでください。インペラが損傷したり、砂で冷却ホースが詰まることがあります。

一般に体重の重い人程上達するのに時間がかかります。操作特性になれたら、次は立って操縦する練習ができます。

立ち上がり方：

- 安定したスピードを保ちながら、ハンドルバーを少し持ち上げ、片足をデッキの前方近くに置きます。
- バランスを保ち、立って操縦する位置へゆっくりと立ち上がります。ハンドルバーもいっしょに持ち上げます。



- 体を垂直に保ち、ハンドルバーで旋回します。上達するに従って、体の反射運動の効果とか旋回時に体を傾ける効果を試してみてください。

転落：

初めてウォータクラフトに乗り、大抵の人がやるようにもし水中に転落しても落胆しないでください。ウォータクラフトの楽しみ方の一つはチャレンジであり、柔道の受身のように最良の倒れ方を知ることも大切なことです。

また、操縦者がウォータクラフトから転落すると、コードキーがストップボタンから抜けて、エンジンは直ちに停止します。

⚠ 警告

ウォータクラフトから落ちた時、ハンドルバーにしがみつかないでください。ウォータクラフトにぶつかってけがをするおそれがあります。

注意

落ちるときにハンドルバーにしがみつくと、ハンドルポールに狂いが生じる原因になり、その結果ハンドルポールとエンジンフードが損傷する原因になることがあります。

- 落水の最良の方法は、両足をそろえ、腕を頭上に上げ、尻から先に落ちることです。
- コードキーをストップボタンの下に差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- 「発進」の項で述べた要領で船に乘ります。
- もしウォータクラフトが復元せずに転覆したままになっていれば、直ちに次に述べる起こし方に従ってください。

要点

- もし、ウォータクラフトが大きく転覆したら、(特に初心者が操縦していた場合)、熟練者がときどきスロットルを全速にして走らせることが必要です。これによりエンジンルームにたまつた水はビルジ装置で排水されます。
- ウォータクラフトは浮揚能力があります。エンジンルームが水で一杯になつても、船首は完全に水面下になっていますが、船体は水平に浮かんでいます。しかし、もしエンジン内に水が入つた場合は、「浸水後の処置」の項の指示に従ってください。

転覆したウォータクラフトの起こし方:

万一ウォータクラフトが転覆した時は、コードキーが操縦者に引っ張られてストップボタンから抜け、エンジンは停止します。



警告

このウォータクラフトは転覆してもその時の波と風の状態によっては自動復元しません。操縦者は適切なウォータクラフトの起こし方を知っていなければなりません。さもないと立ち往生することがあるかも知れません。

直ちに次の手順で船体を起こしてください。

- エンジンが停止したか確認します。もし、停止していなければ、すぐにコードキーをストップボタンから抜くか、またはストップボタンを押してエンジンを停止させます。

注意

もし、ウォータクラフトが転覆したままでエンジンが回転し続けると、キャブレタやエンジンに水が入るおそれがあり、エンジンの内部部品の損傷の原因になります。

- 転覆した船の後部に泳いで行きます。
- 同手でデッキ後部の左右の角をつかみ船を回転させます。

注意

転覆した船は常に左舷を下側にして右廻しに起こしてください。反対に廻すとマフラ内部の水がエンジンの中に入り、エンジンの損傷を招くおそれがあります。

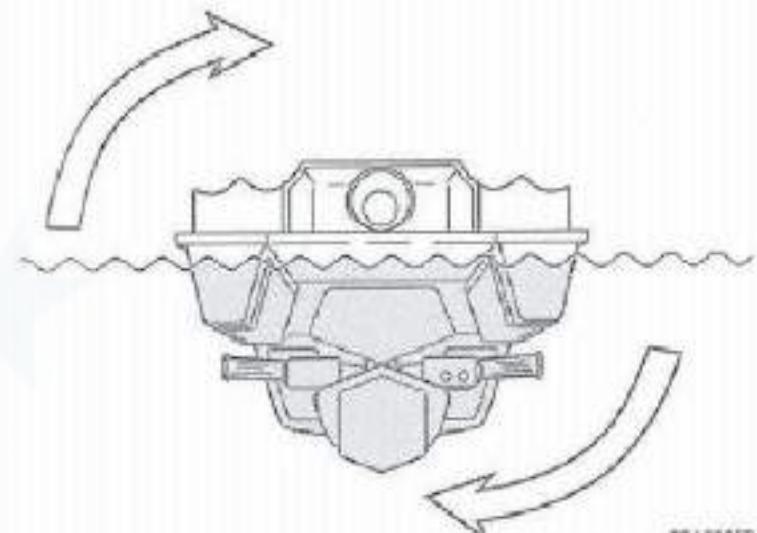


図1600図

- コードキーをストップボタンに差し込み、スタートボタンを押してエンジンを始動します。
- 再び船に乗り込みます。

要点

- ウォータークラフトがいったん転覆した場合は、熟練した操縦者にスロットルを全開にしてしばらくの間船を走らせてもらってください。こうするとピルジ装置が働いて、エンジンルームにたまつた水を排出することができます。

- もしエンジン内部に水が入った場合は、特別な処置が必要です。「特殊な手入れ」の項の「浸水後の処置」を参照してください。

航走終了後の手入れ

第1: 排気系統の水抜き

- ウォータクラフトを水から引き揚げます。
- エンジンを始動し、数秒間回転させて余分な水を排気系統から出します。排気口から水が出なくなる迄、繰り返しエンジンをふかしてください。

注意

水から引き上げた状態では、エンジンを高速で回転させないでください。エンジンの重大故障の原因になります。
水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- 海上で操縦した後は、そのたびに真水で冷却系統を洗浄してください。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）これは、塩の固着による冷却系統の詰まりを防ぐのに役立ちます。

第2: エンジンルームの清掃

- エンジンフードを取り外します。
- エンジンルームに水がたまっていたら、ドレンプラグを外し、排水をします。
- 海上でウォータクラフトを使用した場合はエンジンルーム内部を清水であらいます。

注意

水洗いする時は電気部品に水を掛けないように注意してください。またフレームアレスターに水が入らないよう、エアーアインテークホールにカバーを取りつけてください。また清掃後には必ず同カバーを取り外してください。

- ウォータクラフトを一週間以上使用しない時は、エンジン各部の発錆を防ぐため、防錆剤を塗布します。
- ウォータクラフトを2週間以上使用しない時は、バッテリを取り外し、充電器を使って充電します。「整備と調整」の章の「バッテリ」の項を参照ください。
- エンジルームをよく拭き乾燥させた後、エンジンフードを閉鎖してください。
- ウォータクラフトを保管する場合は、エンジルームの換気ができるように、フードをきっちり締めずにすき間を開けておいてください。

第3: 船体外部の清掃

- 船外、デッキ、吸水口及び推進装置を清水で洗います。

特殊な手入れ

インペラの清掃

時折、海草や他の浮遊物がインペラやジェットポンプに詰まり、性能が低下することがあります。ジェットポンプを正常に作動させるために、これらの異物を完全に取り除く必要があります。

- エンジンを止め、ウォータクラフトを水から引き揚げます。



警告

エンジンが回転中にジェットポンプの清掃をしないでください。怪我をするおそれがあります。エンジンを止め、スタータロックスイッチを左位置にしておいてください。

- スタータロックスイッチを左の位置にします。
- タオルかバッドをウォータクラフトの横におきます。
- ウォータクラフトを左側に傾け、必要ならばジェットポンプの格子およびカバーを取り外してください。
- 給水口、ドライブシャフト、インペラ、ジェットポンプハウジング、ポンプロ、ステアリングノズルから海草やゴミを取り除きます。



注意

ポンプのある場所や、関連部品がきれいになっていないか確認してください。エンジン冷却水はジェットポンプによって供給されるので、ポンプの性能の低下はオーバーヒートの原因になります。

- ジェットポンプカバーと格子を取り付け、ボルトをしっかりと締めます。

ボルト締め付けトルク: 7.8 N·m (0.8 kgf·m)

汚れたスパークプラグの清掃:

スパークプラグの汚れはいくつかの原因で起こります。低いアイドリング速度、長時間のアイドリング運転、チョークを使用したままの航走、規定されたガソリン対オイルの混合率以上にオイルを入れすぎた場合等です。また、燃料に水が混

じっていたり、エンジン内部に水が入っている場合も、スパークプラグが汚れる原因になります。

- 汚れたスパークプラグを取り外し、きれいな乾いたプラグを取り付けてください。汚れたスパークプラグはプラグクリーナで清掃してください。水の付いたスパークプラグは、浸透性防錆剤で清掃します。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 29 N·m (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

- エンジンを始動します。スロットルは殆ど使わないでください。

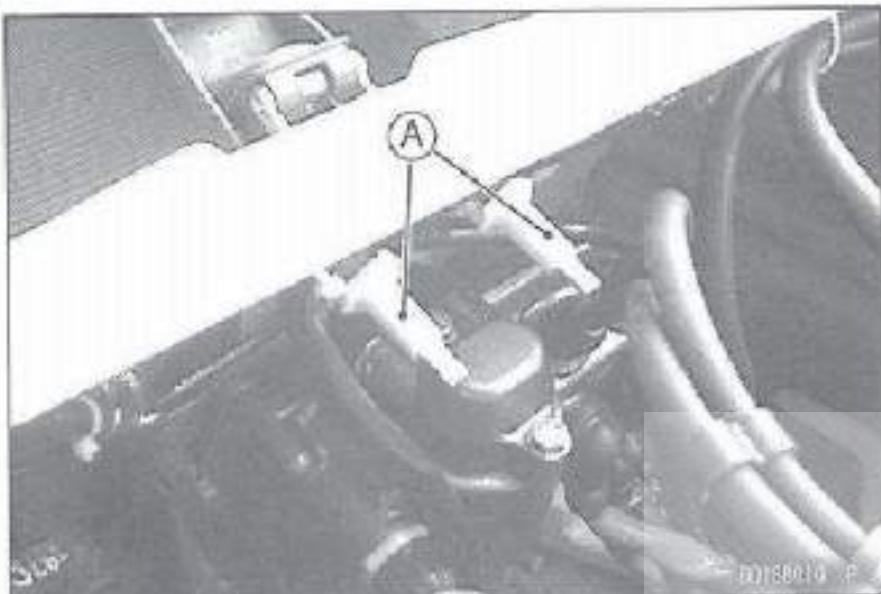
浸水後の処置:

注意

もしエンジン内に水が入ったならば、直ちに次の処置をしてください。エンジン内に数時間以上水が残ったままになると、クラシクシャフトベアリングやエンジンの内部部品を傷めます。

もしウォータクラフトが浸水したら、キャブレタの吸気口からエンジン内に水が入ることがあります。また、燃料タンクにも水が入ることがあります。

1. ウォータクラフトを水から引き揚げ、エンジンフードを取り外します。
2. ドレンインプラグを取り外し、エンジンルームから水を出します。
3. スパークプラグキャップをスパークプラグから引き抜き、キャップホルダーへしっかりと差し込みます。



A. スパークプラグキャップホルダー

4. スパークプラグを取り外します。
5. ストップボタンを押したまま、またはコードキーを抜いて、スタートボタンを押します。これでエンジン内の水が排出されます。スタートボタンは5秒以上押さないでください。もう一度スタートボタンを使用する時は15秒以上間を開けてください。

⚠ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ口から水とガソリンの混合物が勢いよく噴出し、目に入るおそれがあります。もし少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

6. スパークプラグの電極から水気をよくふき取り、プラグを取り付けます。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 29 (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

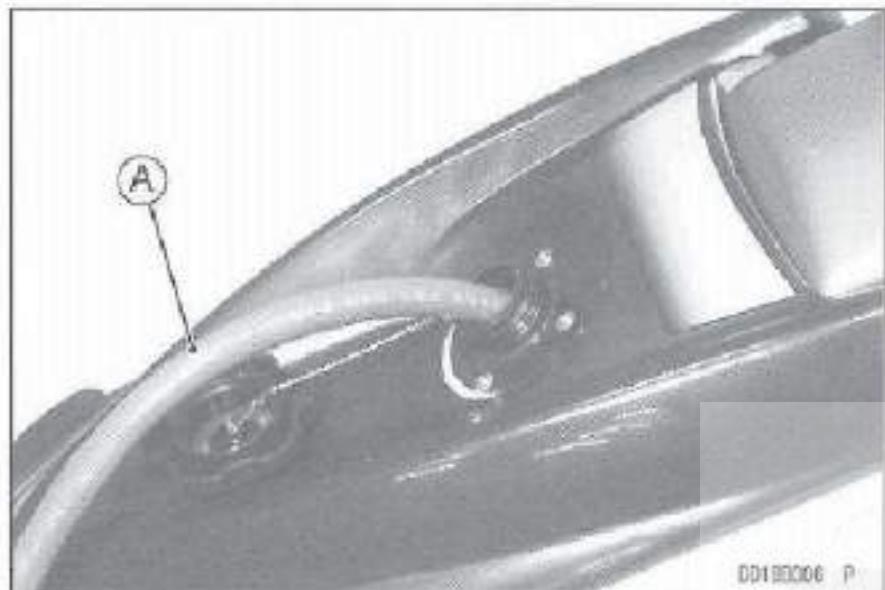
7. プラグキャップを取り付けます。
8. エンジンを始動します。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないでください。エンジンの重大な故障の原因になります。

9. もし、エンジンが始動しないならば、スパークプラグを取り外し、水気がないか点検します。浸透性防錆剤をスプレーして清掃し、再度始動してください。何度もプラグに水が付着するならば、燃料系統内に水気があります。
10. 燃料タンク内に水があれば、ポンプまたはサイフォンで全部抜きとります。燃料フィルタスクリーンを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。）新しい燃料を入れます。汚れた燃料は決められた場所で処理してください。



A サイフォンホース

警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタートロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

注意

油脂類の廃液は法令で適切な処理を行うことが義務づけられていますので「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

要点

○エンジンから全く水がなくなる迄、この方法を繰り返してください。繰返しトラブルが起きる時は、混入した水を排出するために燃料ポンプを分解する必要があります。「カワサキ正規取扱店」に相談してみてください。

11. エンジンフードを取り付けます。
12. ドレンプラグを取り付けます。
13. 最後にウォータクラフトを水上に戻し、10分間以上走らせて残っている水を完全に乾かし、異物(塩など)を排気口から排出します。

ウォータクラフト“ジェットスキー”のえい航:

燃料切れ、エンジントラブル、また、その他問題が起きた場合には、ウォータクラフトをえい航してもらうことができます。6mのえい航用ロープの一端を船首の穴に結びつけ、もう一方の端をえい航ボートに結びつけます。えい航はゆっくりと行い、8km/h以上のスピードを出さないでください。

注意

このえい航要領は重要ですから必ず守ってください。そうしないとエンジルームに浸水し、ウォータクラフトの一部が沈むことがあります。

ジャンプコードによる始動:

バッテリが上がった場合、取り外して充電する必要があります。それができない時は、他のウォータクラフト等の正常なバッテリとジャンプコー

ドを使って始動することができます。その場合、ウォータクラフトのバッテリと同じ電圧(12V)のものを使用してください。

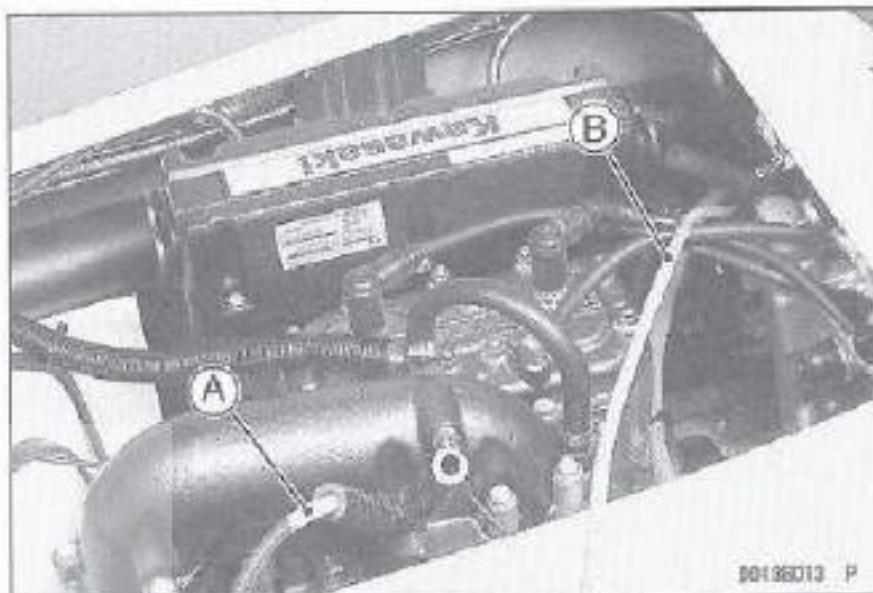
⚠ 警告

バッテリ液は条件によって引火性および爆発性がある水素ガスを発生します。このガスはバッテリ内に常にあり、放電しきった状態でも残っています。火気や火花をバッテリから遠ざけてください。また、バッテリを取り扱っている時は、保護メガネを着用してください。バッテリ液が皮膚や目、衣類に付着した時は、直ちにその部分を水で5分以上洗い、医者の診察を受けてください。

- 両方のバッテリの(+)ターミナル間をジャンプコードで接続します。
- 他のジャンプコードの一端を他の船のバッテリの(-)ターミナルに接続します。

注意

バッテリを反対の極[(+)から(-)]へ接続すると、電気系統に大きな損傷が生じます。



BBH98013_P

- A. (-)コード
- B. (+)コード

- もう一方の端をエギゾーストパイプのボルトに接続します。

⚠ 警告

最後の手順の接続を間違ってキャブレタやバッテリへしてはいけません。コードをショートさせないように注意し、上記の最後の作業をする時は、バッテリの上に体を乗り出さないでください。また、凍結したバッテリをジャンプコードで始動させてはいけません。爆発するおそれがあります。

注意

5秒間以上連続してスタータを回さないでください。スタータがオーバーヒートします。スタータが冷えるように15秒間待ってから、また回してください。

- エンジンを始動させた後、前記の逆の順序でジャンプコードを取り外してください。

エンジンのオーバーヒート:

このウォータクラフトには、エンジンがオーバーヒートした時にエンジンの回転を落とす温度センサーがついています。

- スロットルレバーを引いてエンジンが回転しているのに、ウォータクラフトのスピードが落ちた時は、直ちに岸に戻って冷却系統が詰まっているか点検してください。

注意

航走中にウォータクラフトのスピードが落ちた時は、直ちに岸に戻ってください。オーバーヒートは、エンジンは排気系統の重大な損傷の原因になります。原因を見つけて修理するまでウォータクラフトを運転しないでください。

保管

冬の間や、長時間ウォータクラフトを使用しない時は、適切な保管が必要です。無くなつた部品がないか点検し、摩耗した部品を交換たり、防錆のために各部への注油、潤滑、また一般的には次回ウォータクラフトを使用する時、最良のコンディションにしておくための準備をしておきます。「カワサキ正規取扱店」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。

保管する前の作業

冷却系統:

- 冷却系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「冷却系統の洗浄」の項参照。）

ビルジ系統:

- ビルジ系統を洗浄します。（「整備と調整」の章の「ビルジ系統の洗浄」の項参照。）この時、ホースをプラスチックのブリーザに再び接続する前に、両方のホースに圧縮空気を吹き込んで、ビルジ系統から水を完全に押し出してください。



DE026005 P

A. 両方のホースに空気を吹き込む。

燃料系統:

!! 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。。

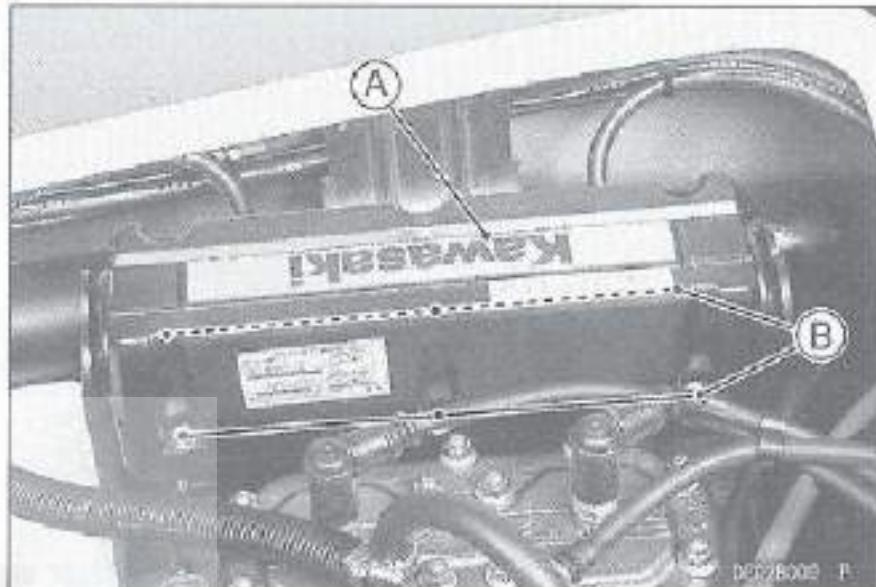
- サイフォンまたはポンプを使って、燃料タンクから燃料を抜いてください。

- 燃料フィルタスクリーンおよび燃料フィルタを清掃します。（「整備と調整」の章の「燃料系統」の項参照。）
- 燃料タンクの結露を防ぐために、燃料注入口キャップを緩めたままにしておいてください。
- キルスイッチコードキーをストップボタンに差し込んでエンジンを始動し、キャブレタ内の燃料を使い切るまで、15秒間づつ回転させます。各回転は5分間隔で行います。
- コードキーをストップボタンから抜きます。

注意

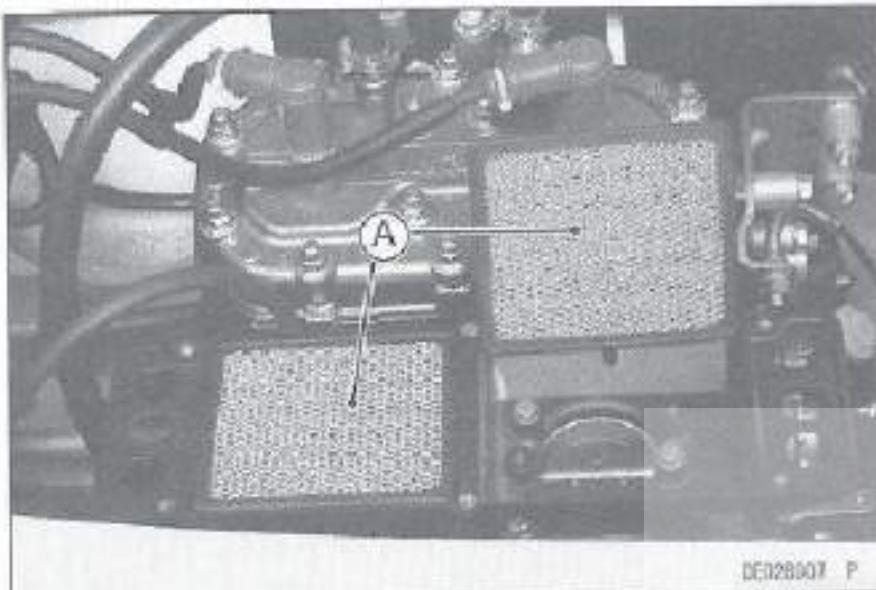
水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを、続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

- キャブレタから空気吸入口カバーを取り外します。



A. 空気吸入口カバー
B. ボルト

- フレームアレストエレメントを取り外し、石鹼水で洗います。乾いたらエレメントを取り付けます。上下の区別はありません。



A. エレメント

- キャブレタ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- カバーを取り付け、しっかりとボルトで締めます。

エンジン:

- スパークプラグを取り外し、各シリンダ内に浸透性防錆剤をスプレーします。
- ストップボタンを押しながら、またはコードキーを抜いてスタートボタンでエンジンを数回回転させ、シリンダの内側にオイルを行きわたらせます。

▲ 警告

この作業中は、エンジンの上にかがみこまないでください。スパークプラグ口から防錆剤が霧状になって勢いよく噴出することがあり、目に入るおそれがあります。もし、少しでも目に入ったら、すぐに水道水を十分使って目を洗ってください。そして、できるだけ早く医者の診察を受けてください。

- スパークプラグに浸透性防錆剤をスプレーして取り付けます。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 29 N·m (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

バッテリ:

- バッテリを取り外します。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）
- 重ソウと水の溶解液で外部を清掃します。水でよくゆすぎます。

注意

密封栓は絶対に取り外さないでください。バッテリが損傷します。

- 両方のターミナルにグリースを塗ります。
- バッテリを乾燥した涼しい場所に保管します。温度が氷点下になる場所にはおかいでください。また、保管中は大体月に1回補充電してください。

要点

- 密閉型バッテリ専用の充電機を使用してください。

洗浄:

- エンジンルームを水洗いし、船尾のドレンプラグを外して水を抜きます。
- 船体の外部を水洗いし、完全に乾かしてください。

注意

ウォータクラフトを洗う場合は、洗浄力の弱い洗剤を水に混ぜたものだけを使用してください。強力な溶剤は化学作用で表面の塗装を変色させることができます。

- 良質のワックスを船体の外面全体に塗ります。
- すべての露出している金属部品に、錆や腐食防止のため浸透性防錆剤を軽くスプレーします。
- エンジンフードをゆるくかぶせ、適当な換気が行われ、結露を防ぐために10 mm位の木片等を差し込んでおきます。
- ウォータクラフトにカバーを掛け、ほこりのない乾燥した場所に保管します。

潤滑:

- すべての推進潤滑方法を実施してください。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）

保管後再使用する前の作業

以下の作業は保管期間終了後、ウォータクラフトを使用できる状態に戻すために必要な手順です。「カワサキ正規取扱店」で行ってもらうか、または次の事項を実施してください。

- すべての推進潤滑方法を実施してください。（「整備と調整」の章の「潤滑」の項参照。）
- スロットル、チョーク、およびステアリング機構が動かなかったり、途中でひっかかったりしないか点検します。スロットルレバーは放すと完全にもとの位置に戻らなければいけません。
- スパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。（「整備と調整」の章の「スパークプラグ」の項参照。）
- すべてのゴムホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 保護パッドを敷いてウォータクラフトを左へ傾け、ジェットポンプカバーを取り外します。冷却ホースとビルジホースに風化、ひび割れ、ゆるみがないか点検します。
- 必要なら良品と交換してください。カバーを取り付け、しっかりと固定します。

ボルト締め付けトルク: 7.8 N·m (0.8 kgfm)

- ドレンプラグがしっかりと取り付けられているか点検します。
- ターミナルを清掃し、必要ならば補充電します。バッテリを取り付けてください。（「整備と調整」の章の「バッテリ」の項参照。）

- 燃料タンクに燃料を入れ、燃料注入口キャップをしっかりと締めます。

▲ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタータロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所は換気が良く、火気がないかよく確かめてください。

- 輸送したり、燃料を注入した後では、エンジンをかける前にエンジンフードを外して、数分間換気してください。

▲ 警告

気化したガソリンがエンジンルームにたまると、火災や爆発の原因となることがあります。

- 燃料漏れを点検し、必要があれば修理してください。

▲ 警告

密閉された場所でエンジンを運転しないでください。排気ガスは、無色無臭で有毒な一酸化炭素を含んでいます。従って、排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒を起こし、仮死状態を経て死亡する結果となります。

- エンジンを始動し、15秒間運転します。燃料および排気ガスの漏れを点検してください。漏れがあれば必ず修理してください。

注意

水から引き揚げたウォータクラフトのエンジンを続けて15秒間以上運転しないでください。オーバーヒートして、エンジンや排気系統の重大な損傷の原因になります。

水から引き揚げた状態では、エンジンを高速で回転させないでください。エンジンの重大な故障の原因になります。

- エンジンフードを取り付け、ラッチがロックされたか確認します。

整備と調整

定期点検整備表

要点

- 毎日乗る前には必ず「乗る前の点検項目」の点検を実施してください。

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
すべてのホース、ホースクランプ、ナット、ボルトおよびファスナを点検する。	●	●			
キャブレタ部のスロットルケーブル取り付け部およびチョークケーブル取り付け部を潤滑する。		●			
スパークプラグを清掃し、ギャップを点検し、必要ならば交換する。		●			
チョークケーブルとスロットルケーブルおよびスロットルケースのケーブル取り付け部を潤滑する。		●			
ステアリングケーブルとホールジョイントと、ステアリングノズルのピボットを潤滑する。		●			
※ ハンドルバーピボットを潤滑する。		●			
燃料フィルタスクリーンを清掃する。		●			
バッテリの充電状態を点検する。		●			
キャブレタを調整する。		●			

実施項目	頻度	最初の 10時間後	25時間毎	50時間毎	100時間毎
ピルジ系統およびフィルタを洗浄する。			●		
冷却系統を洗浄する(海上で操縦したときは使用後毎回)。			●		
フレームアレスタを点検および清掃する。			●		
※ 燃料ペントチェックバルブを点検する。			●		
※ インペラのブレードの損傷を点検する(要取り外し)。				●	
※ カップリングダンバを点検、交換する。				●	
※ キャブレタのスロットルシャフトのスプリングを点検する (もし必要ならばキャブレタを交換する)。				●	
※ ステアリングケーブルを点検する。					●
船尾ドレンプラグの損傷を点検する(もし必要ならば交換する)				●	
バッテリターミナルの点検			●		

※これらの項目は適正な工具を用いて行わなければなりません。適切な設備がなく、また、機械の取り扱いに熟練していなければ、「カワサキ正規取扱店」で実施してもらってください(サービスマニュアル参照)。

コントロールケーブルの調整

チョークケーブルの調整

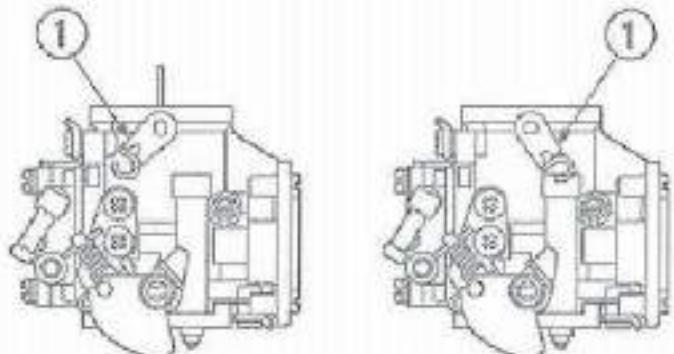
- チョークノブが左にいっぱい回っているとき（“OFF”位置）、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に開いていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、ケーブルがわずかに緩んでいるか点検します。
- チョークノブが“ON”の位置の時、キャブレタ内のチョークバタフライバルブは完全に閉じていなければなりません。チョークのピボットアームが船の右側にいっぱい向いており、アームがそれ以上手で動かないことを点検します。

チョーク開

（チョークノブ“OFF”の位
置）

チョーク閉

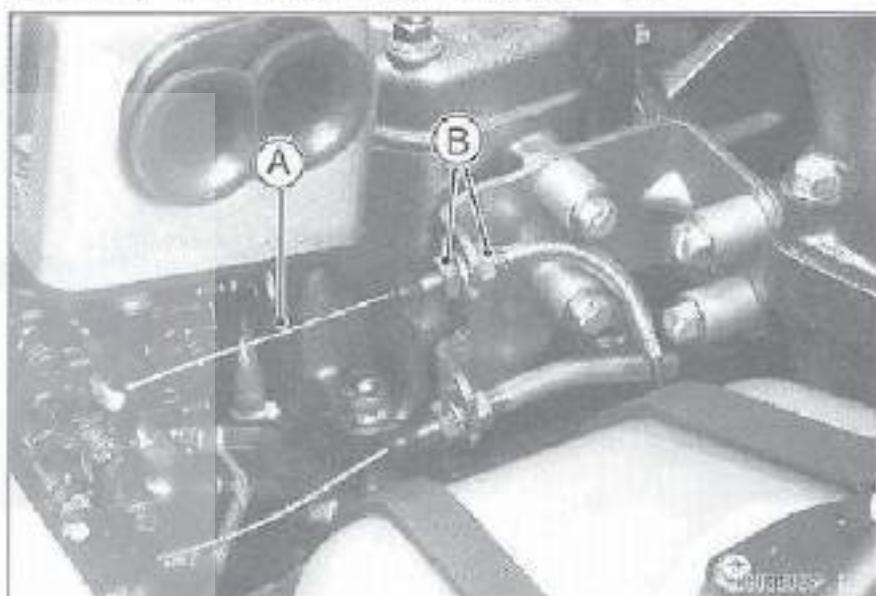
（チョークノブ“ON”の位
置）



1. チョークピボットアーム

- 必要ならばチョークケーブルを調整してください。

- チョークノブを“OFF”位置にします。
- ケーブルブラケットにあるロックナットを緩めて回し、ケーブルに少しの遊びを持たせます。
- ロックナットをしっかりと締めます。



A. チョークケーブル
B. ロックナット

スロットルケーブルの調整:

- スロットルケーブルの調整具合を点検します。
- スロットルレバーを全く放した状態では、スロットルピボットアームの下側のストップがアイドリングアジャストスクリューに当っており、スロットルケーブルはわずかに遊びがあります。

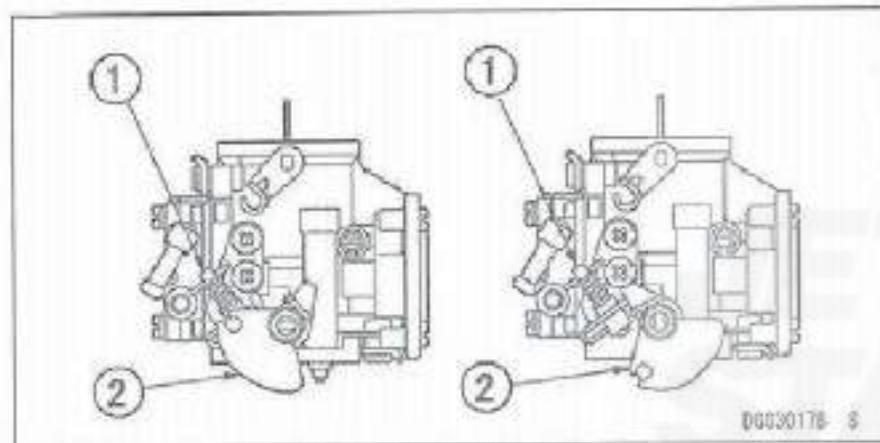
- スロットルレバーをいっぱい引いた時、ピボットアームの上側のストッパーがキャブレタのストッパーに最大限に近接しています。

チョーク閉

(レバーを放した状態)

チョーク開

(レバーをいっぱい引いた状態)

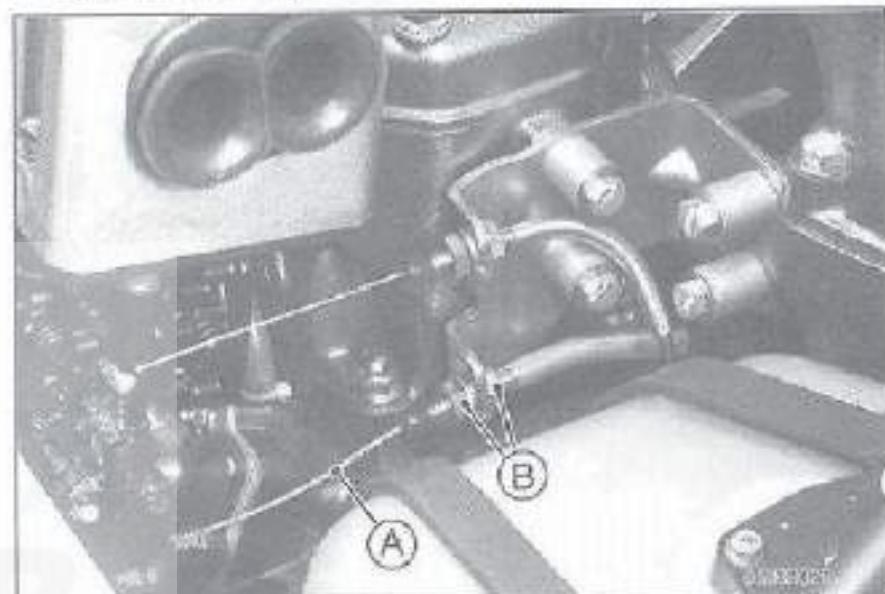


1. アイドリングアジャストスクリュー
2. スロットルビボットアーム

- 必要ならばスロットルケーブルを調整します。
 - ケーブルプラケットのロックナットを緩めます。ピボットアームの下側のストッパーがアイドリングアジャストスクリューに当るようにします。

次にロックナットを回して、ケーブルに少しの遊びを作ります。

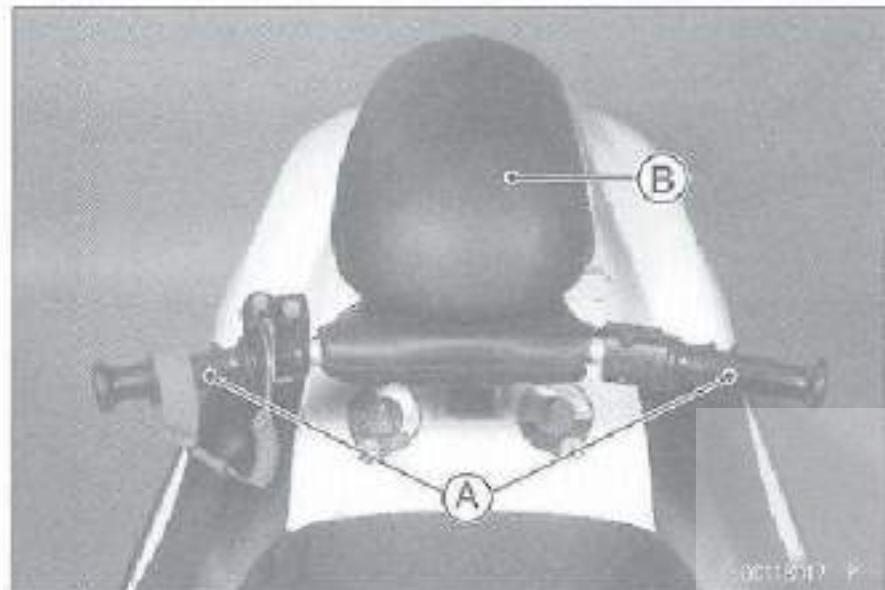
- 調整が終わったら、ロックナットをしっかりと締めてください。



A. スロットルケーブル
B. ロックナット

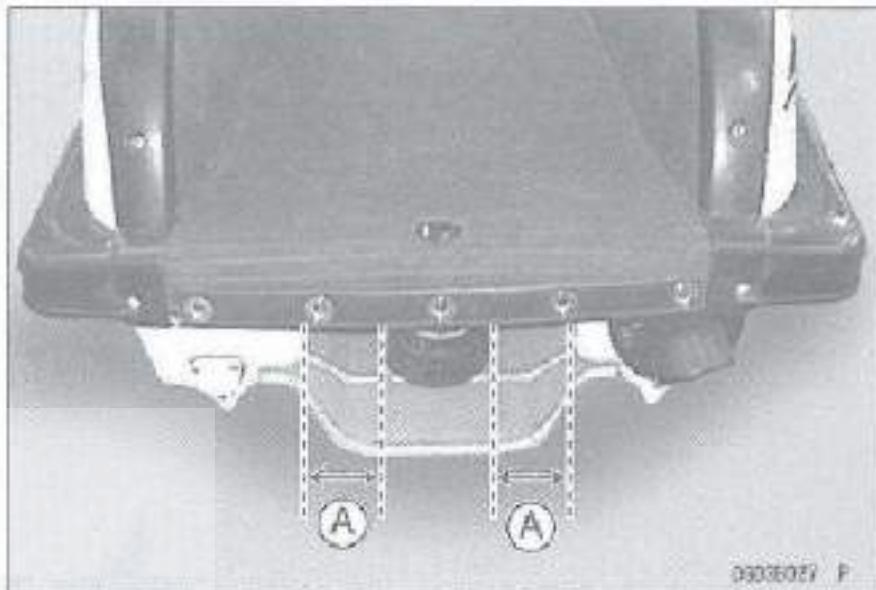
ステアリングケーブルの調整:

- ハンドルポールを下げ、ハンドルバーを真っ直ぐ正面に向けます。



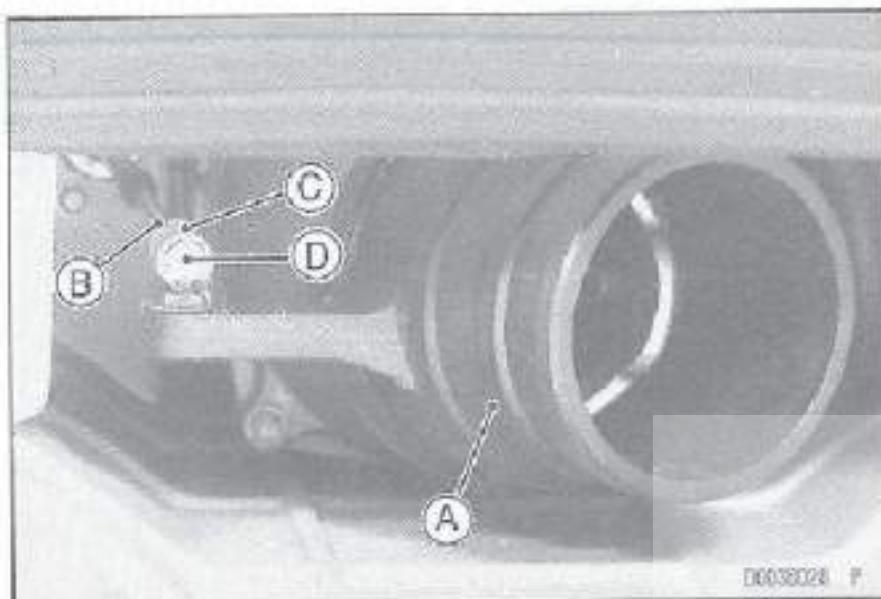
A. ハンドルバー
B. ハンドルポール

- ステアリングノズルがノズルルームの両側から同じ距離にあるか点検します。



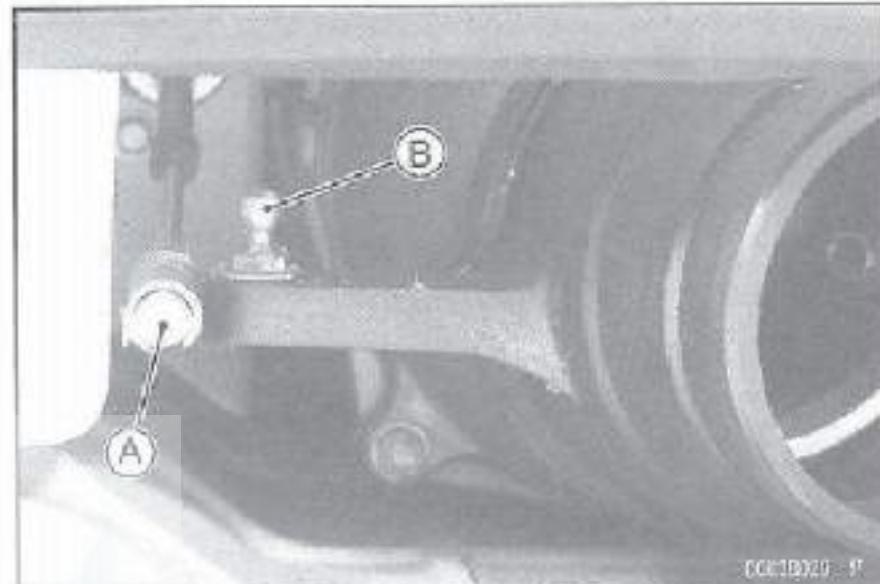
A. 等距離

- 同じ距離でなければ調整します。
- ステアリングノズル左側のステアリングリンクのロックナットを緩めます。



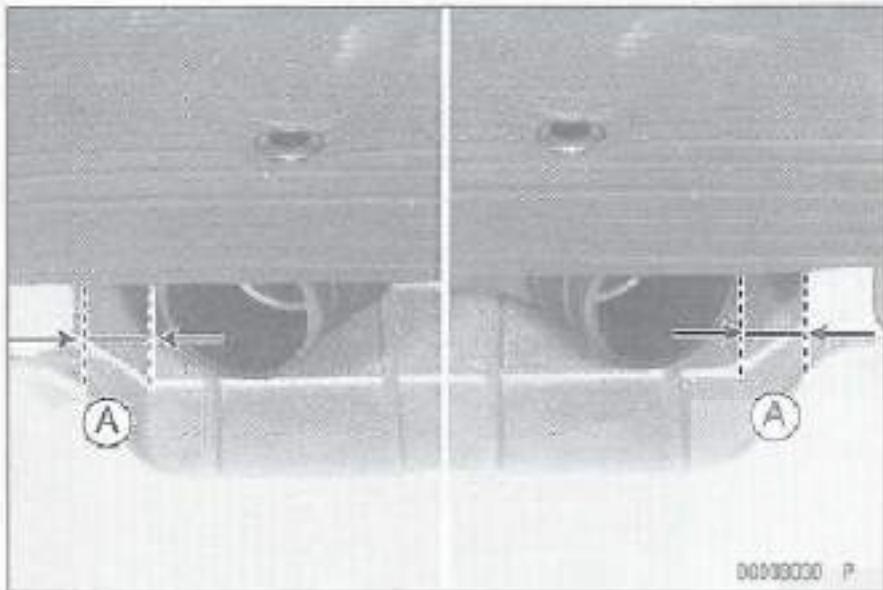
A. ステアリングノズル
B. ロックナット
C. スリーブ
D. ボールジョイント

- アウタースリーブをずらして、ボールジョイントを外します。
- ハンドルバーを真っ直ぐ正面に向けます。
- ステアリングノズルをノズルルームの中央に位置させます。
- リンクのホールジョイントを回して、穴がボールの位置に合うようにします。



A. ボールジョイントの穴
B. ボール

- ボールジョイントを接続し、もう一度ケーブルの調整具合を点検します。
- 調整がただしければステアリングリンクのロックナットを締めます。
- もう一つの点検方法として、ハンドルバーを左右にいっぱい切りります。ステアリングノズルの左右の端からノズル室までの隙間を計り、それぞれが同じであれば正確に調整されています。



A. 等距離

ステアリングケーブルの点検:

ステアリングの動きがスムーズでなかったり、引っかかっているように感じられた時は、「カサワキ正規取扱店」で点検を受けてください。

要点

- ステアリングケーブルの両端はシールされていますので、潤滑する必要はありません。

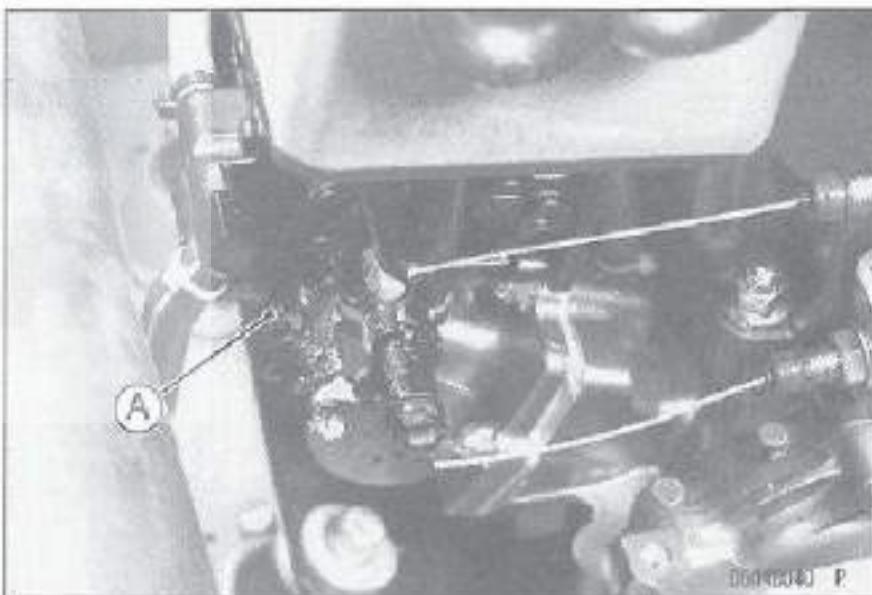
燃料系統

キャブレタの調整

アイドリングスピード:

正常なアイドリングスピードとは、最も低い、しかし安定したスピードを言います。

- アイドルアジャストスクリューを右へ回すとアイドリングスピードは上がり、左へ回すと下がります。



A. アイドルアジャストスクリュー

アイドリングスピード

水上……約1 250 rpm

陸上……約1 700 rpm

ミクスチュアスクリュー

キャブレタは出荷前に工場で測定器を使って一つひとつ調整されていますので、すべてのキャブレタに共通する特定のセッティングはありません。そのキャブレタに最適のセッティングがなされた後、キャップが取り付けられています。従ってキャップのレバーを動かしたり、キャップを外してミクスチュアスクリューの位置を変えたりしないでください。

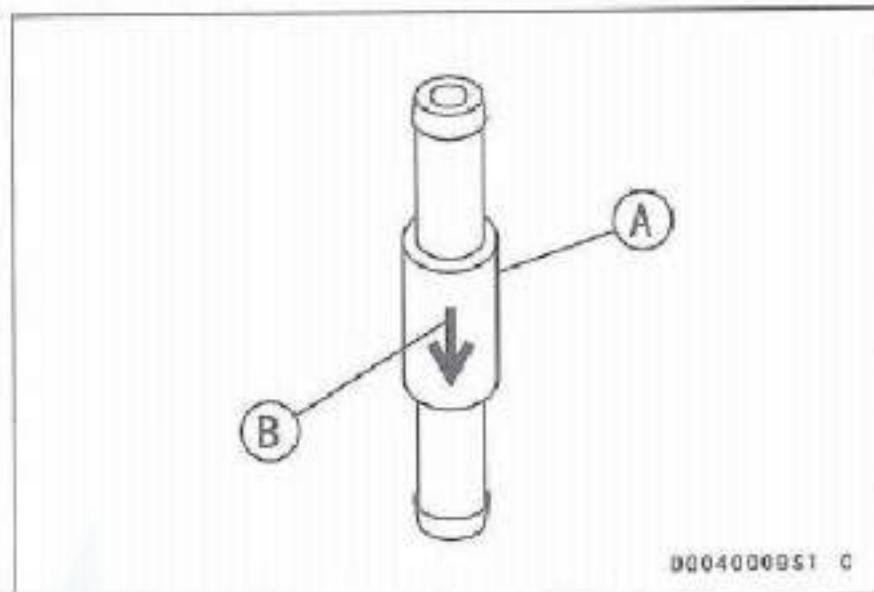
要点

- もし調整が要る場合は「カワサキ正規取扱店」でサービスを受けてください。

燃料ペントチェックバルブ

燃料タンクにはペントホースが設けられています。ペントホースの中間にチェックバルブが取り付けられ、ウォータクラフトが転覆したときの燃料流出を少なくし、燃料タンクへの空気の流れを許しています。

「定期点検整備表」の規定に従って、チェックバルブの検査を「カワサキ正規取扱店」で受けてください。



0004000951 C

A. チェックバルブ

B. 流れ方向

高地使用

このキャブレターは海面での使用に調整されています。高地でジェットスキーを使用すると大気圧の減少により空気／燃料の混合が濃くなり性能の低下燃料の消費大となります。

1 000 m以上の高地でジェットスキーを使用する時には「カワサキ正規取扱店」でキャブレターの調整を受けてください。

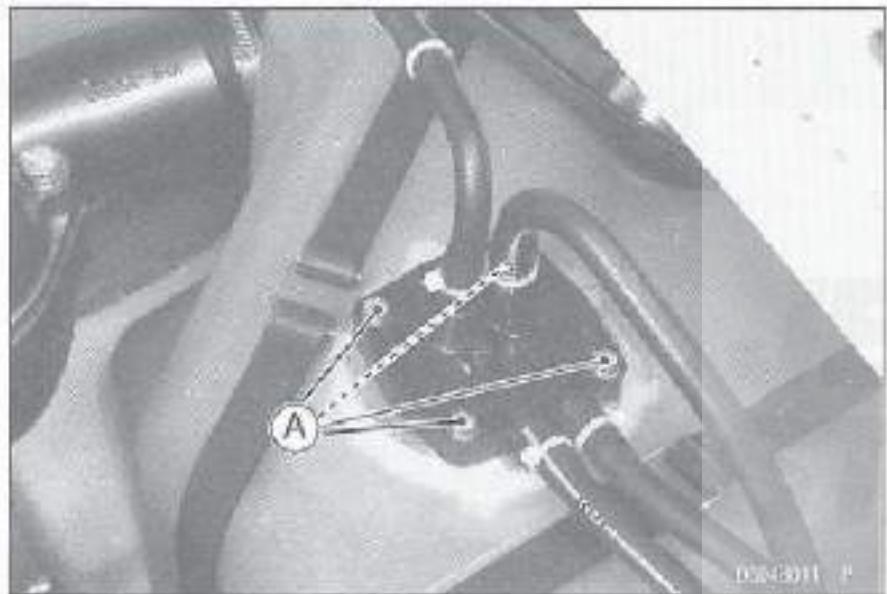
燃料フィルタスクリーン:

ウォータークラフトには、キャブレタにゴミや異物が入るのを防ぐために燃料フィルタスクリーンが付いています。

「定期点検整備表」の規定に従って、燃料フィルタスクリーンを清掃してください。

燃料フィルタスクリーンの点検

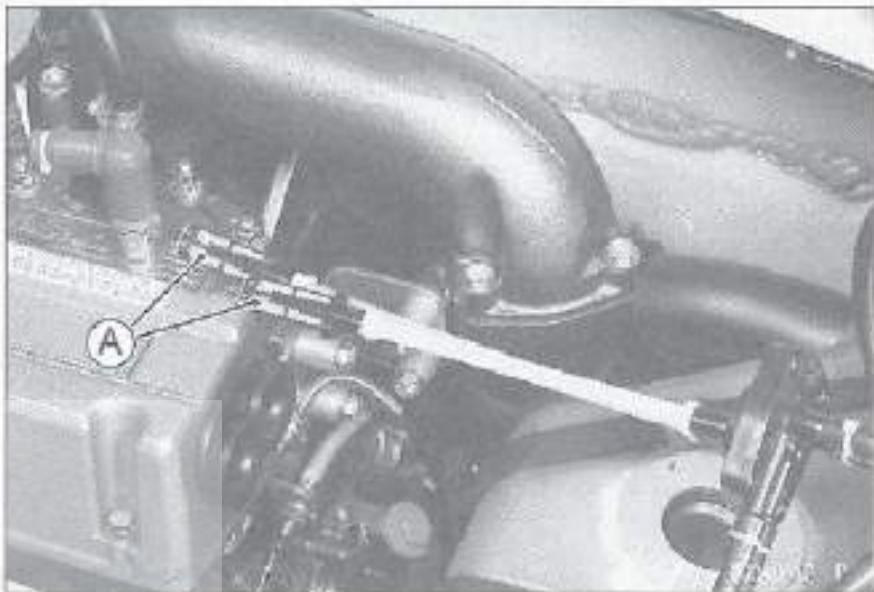
- 取り付けスクリューを取り外し、燃料アウトレットアッシャーを引き出します。



A. スクリュー

⚠ 警告

ガソリンは非常に引火性が強く、条件によっては爆発するおそれがあります。スタートロックスイッチを左位置にし、禁煙にしてください。作業する場所が換気が良く、火気がないかよく確かめてください。



A. 燃料フィルタスクリーン

- 燃料フィルタスクリーンに損傷や品質の低下がないか点検します。もしあれば交換してください。

燃料フィルタスクリーンの清掃

- 燃料フィルタスクリーンを洗浄油で洗い、スクリーンに詰まった汚れはブラシで落としてください。

⚠ 警告

フィルタスクリーンの清掃は通気性の良い、火気のない場所で行ってください。
ガソリンとか引火性の強い洗浄油は、スクリーンの洗浄には使用しないでください。

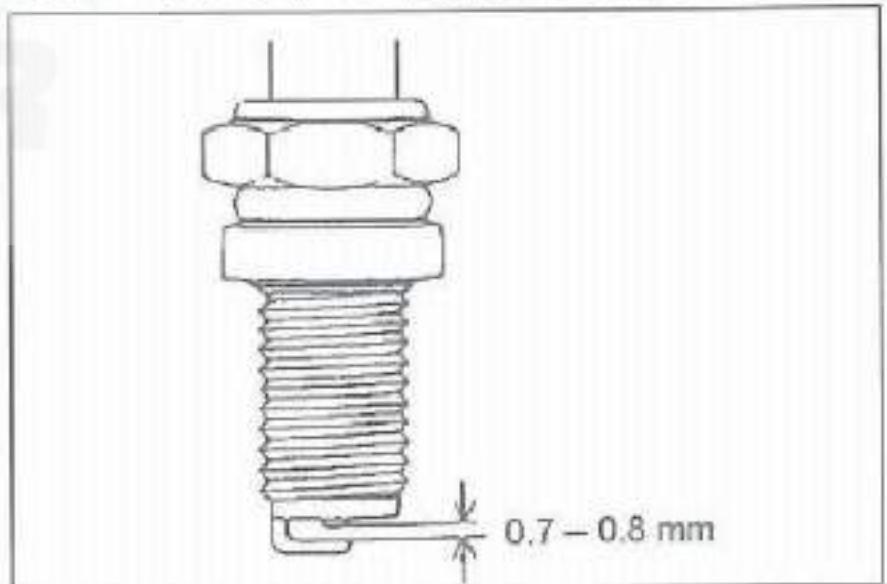
- 燃料アウトレットアッシャーを取り付け、スクリューをしっかりと締めます。

スパークプラグ

「定期点検整備表」の規定に従ってスパークプラグを清掃し、ギャップを点検します。

標準のスパークプラグはNGK BR8ESです。ギャップを0.7~0.8 mmに調整して使用してください。

ウォータクラフトのエンジンは水冷で、一般的に一定のスロットル開度で運転されるので、シリンドラヘッド温度は比較的安定しています。従ってエンジンの調子がよく、調整も適切で、適切な混合比のガソリンとオイルを使用すれば、熱価の異なったスパークプラグを使用する必要はありません。間違った熱価のスパークプラグを使用するとエンジンの広範囲な損傷の原因となるので、標準のスパークプラグのみ使用してください。



スパークプラグの点検および交換

スパークプラグを取り外し、絶縁碍子を点検します。電極のまわりの絶縁碍子を見ると燃焼状態がわかります。エンジンが適正に運転されていると、絶縁碍子はきれいで薄褐色をしています。絶縁体が白くなり過ぎたり、プラグに灰色の金属性の付着物があるなら、燃焼室の温度が高過ぎます。

「トラブルシューティング」の章を参照してください。

注意

過度の運転温度はエンジンに重大な損傷を起こすので、原因をつきとめ直ちに修正してください。

- 絶縁碍子に乾いたすすのような黒い堆積物がある時は、燃料と空気の混合が濃過ぎることを示しています。キャブレタが正しく調整されているか点検してください。黒い堆積物が湿って油気を帯びている時は、オイルのタイプか混合比が不適当と考えられます。

堆積物をかき落とすか、プラグクリーナーを使って、両電極や中心電極のまわりの碍子を清掃します。プラグから研磨粉等を完全に除去した後、洗浄油で清掃します。ギャップが広がっていれば、0.7 ~ 0.8 mmに調整します。電極が腐食または絶縁している場合は、プラグを交換します。絶縁碍子のひび割れ、またはネジ部の損傷等目に見える損傷がある時は、いつでもプラグを交換してください。

スパークプラグ締付トルク:

25 ~ 30 N·m (2.5 ~ 3.0 kgf·m)

バッテリ

このウォータクラフトは密閉型バッテリを使用しています。従って、バッテリ液の点検や補充の必要はありません。新品のバッテリにバッテリ液がいったん入れられたら、密封栓を外さないでください。また、このウォータクラフトは、密閉型バッテリのみ使用するように設計されていますので、通常のバッテリと交換しないでください。

注意

密封栓は絶対に外さないでください。バッテリが損傷します。

バッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。違う型式のバッテリを使用すると、電気系統が正しく機能しません。

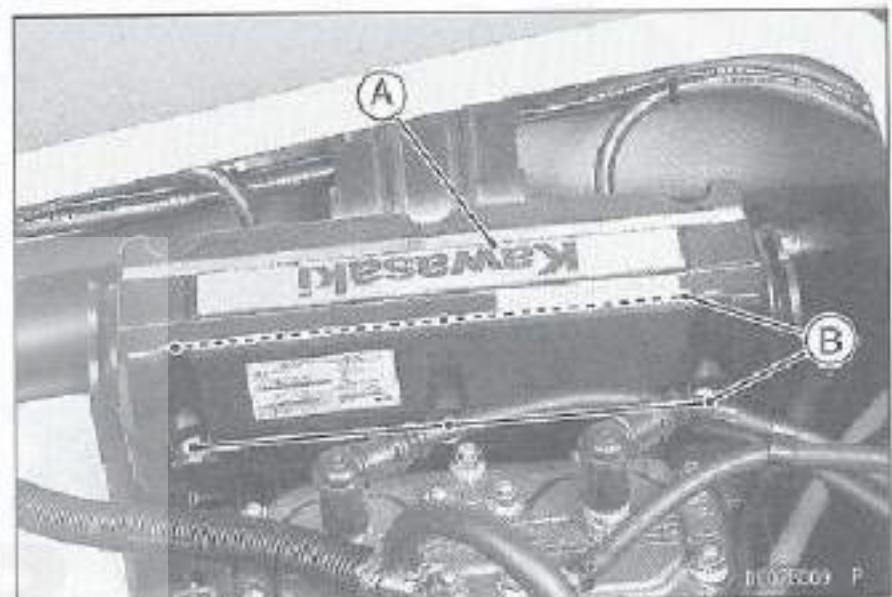
使用済みのバッテリを廃却する場合は、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

要点

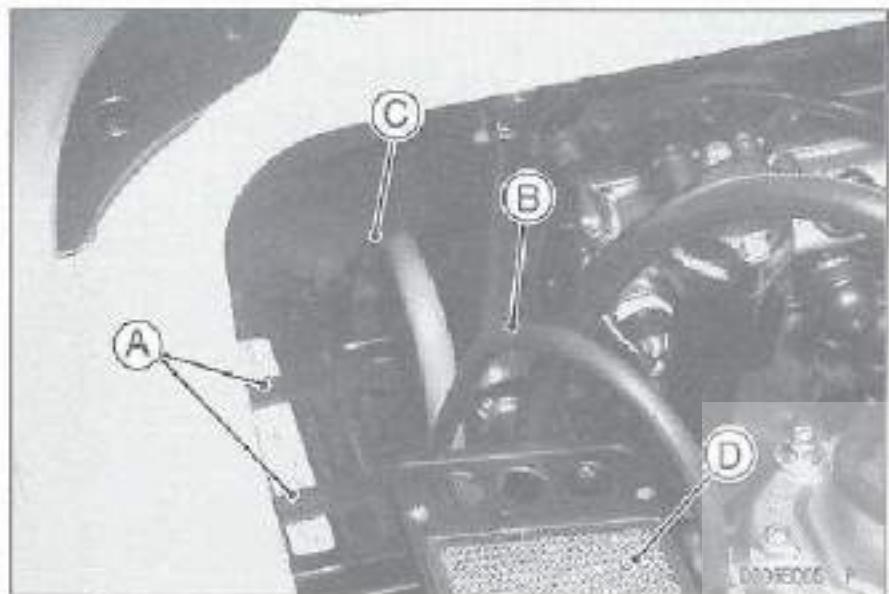
- 密閉型バッテリを補充電する時は、バッテリのラベルの指示に必ず従ってください。

バッテリの取り外し

バッテリの取り外しを容易にするため、最初にエアインテークカバー（空気吸入口カバー）を取り外してください。



A. エアインテークカバー（空気吸入口カバー）
B. ボルト

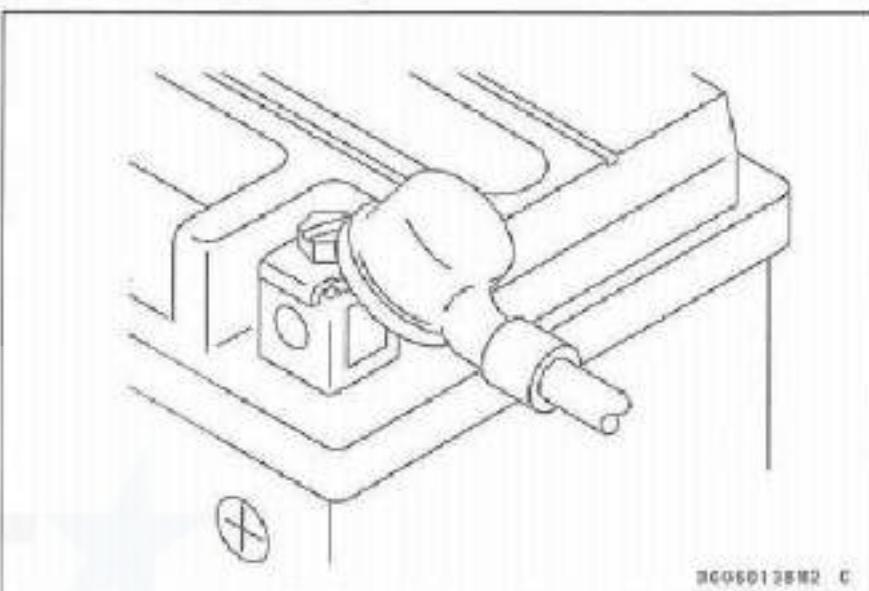


A. ゴムバンド
B. 黒ケーブル（アース）
C. 赤ケーブル
D. フレームアレスター

1. パッテリケーブルの取り外し

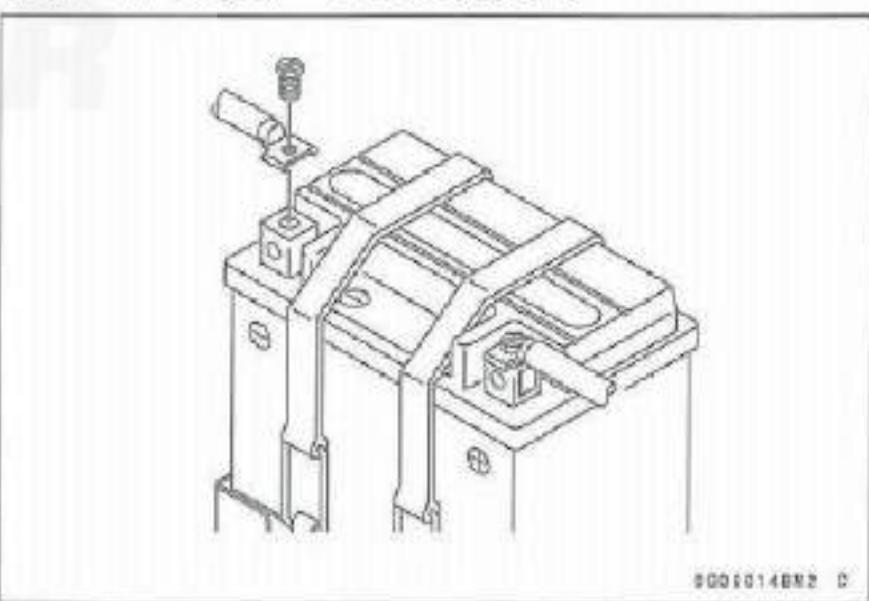
- 必ずキルスイッチコードキーをストップボタンから抜いてから実施してください。

(1) キャップをずらす。



0005012882 C

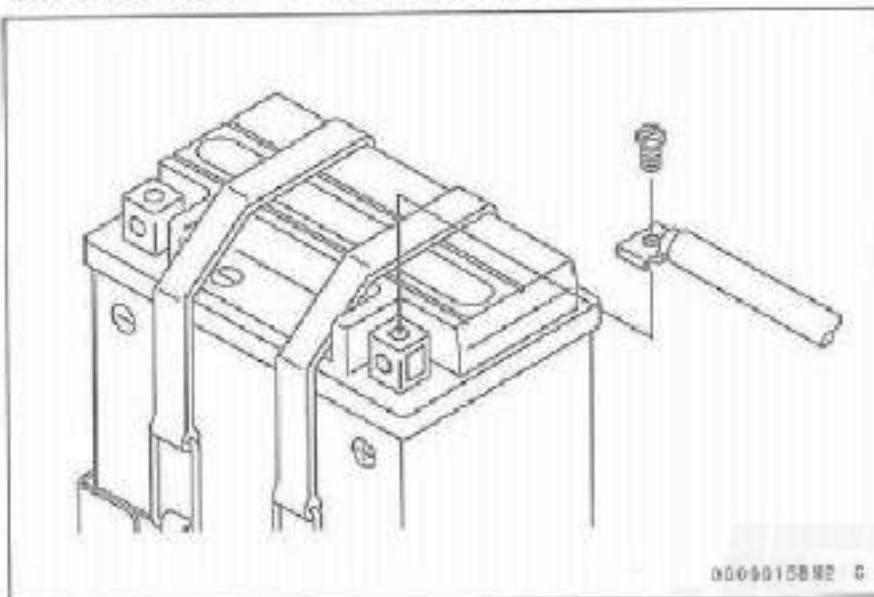
(2) マイナス側ケーブルの取り外し



0001014882 C

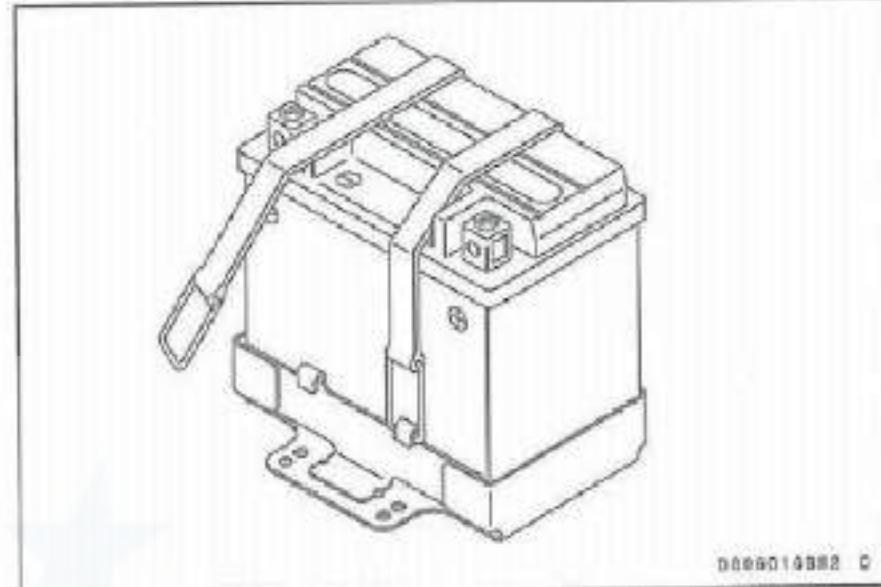
- 必ずマイナス（-）側を先にはします。

(3) プラス側ケーブルの取り外し



- 次に (+) 側をはずす。

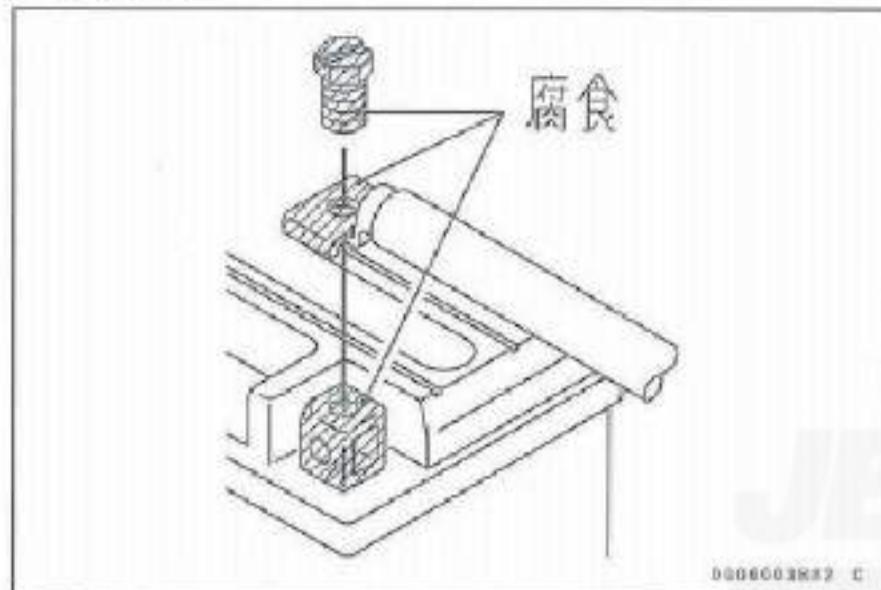
2. バッテリ取り外し



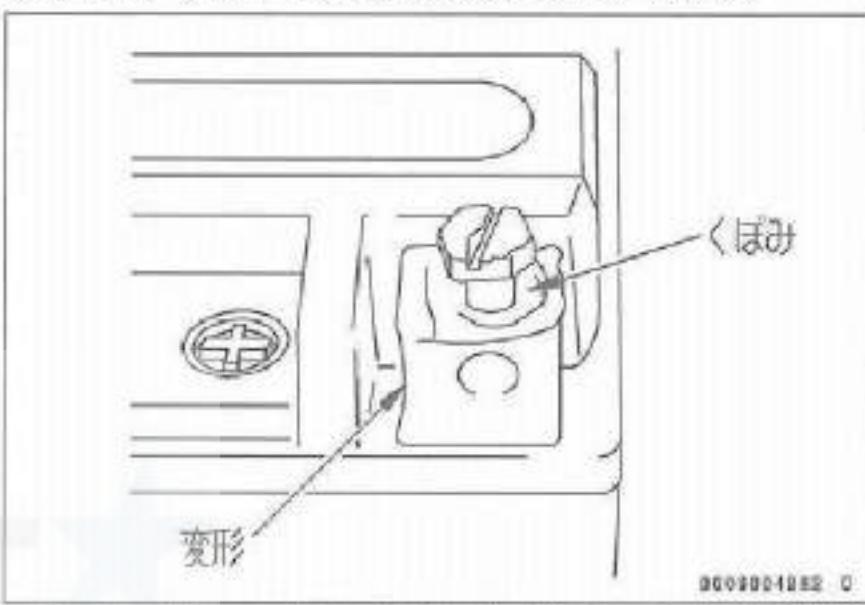
- 固定バンドの金具をフックより取りはずす。

バッテリの点検、処置:

(1) バッテリ端子部の酸化・腐食(緑青の発生、白い粉吹き等)



(2) バッテリ端子の損傷(変形、割れ、くぼみ)

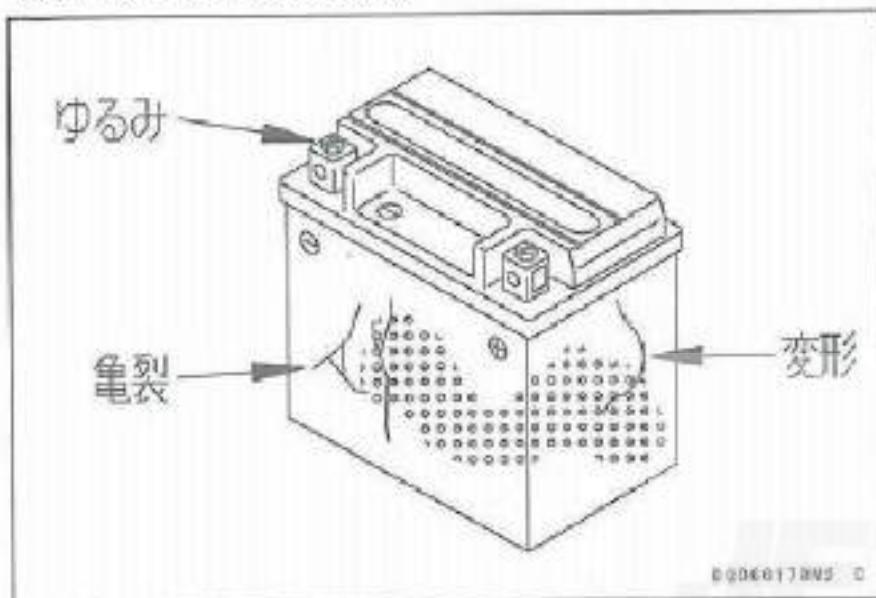


- 変形、割れ、くぼみがあればバッテリを交換する。

<クリーニング方法>

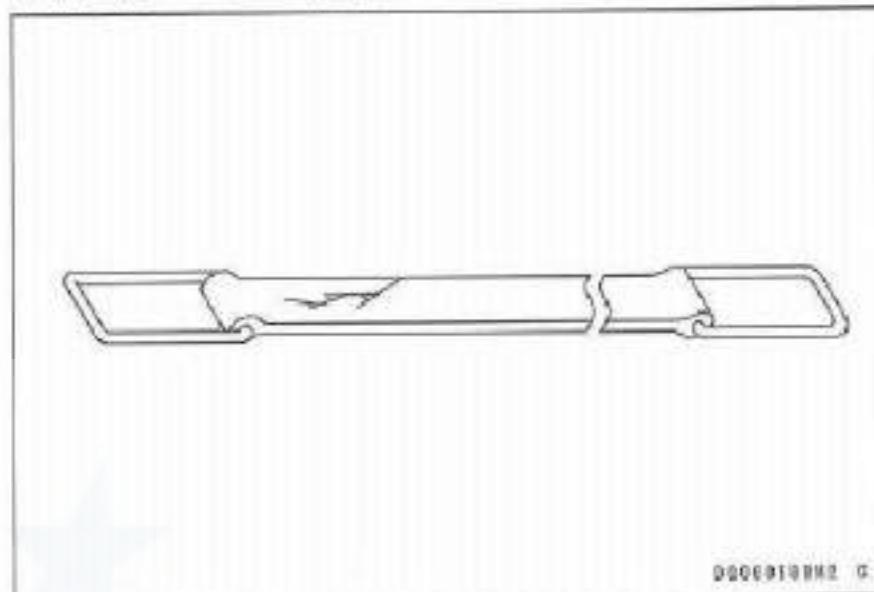
1. 浸透潤滑剤スプレーを塗布する。
2. 5分間放置する。
3. 布でふき取る。またはサンドペーパー、ワイヤブラシで磨く。

(3) バッテリ本体の点検



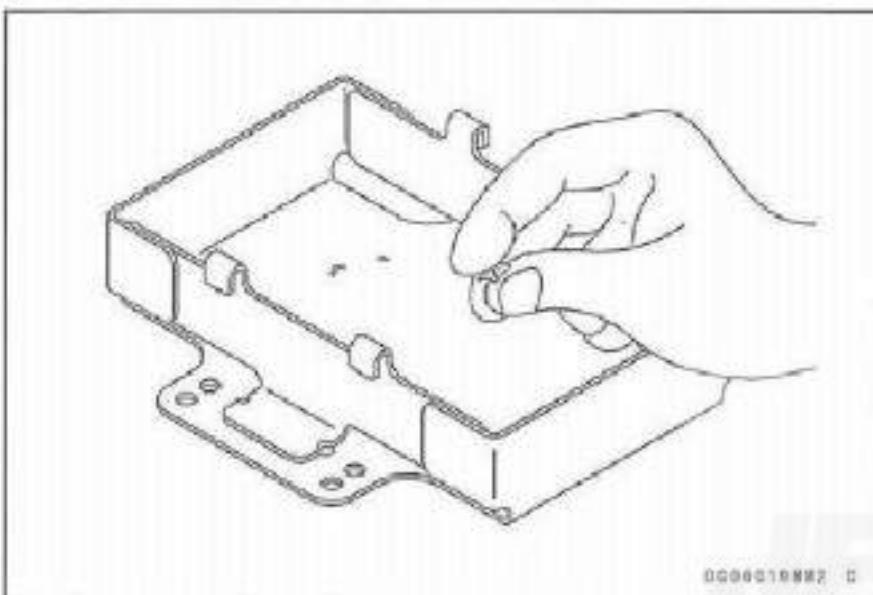
- 変形、割れ等のダメージがないことを確認する。

(4) 固定バンドの点検



- 切れ、割れ、伸びなどの劣化がないことを確認する。

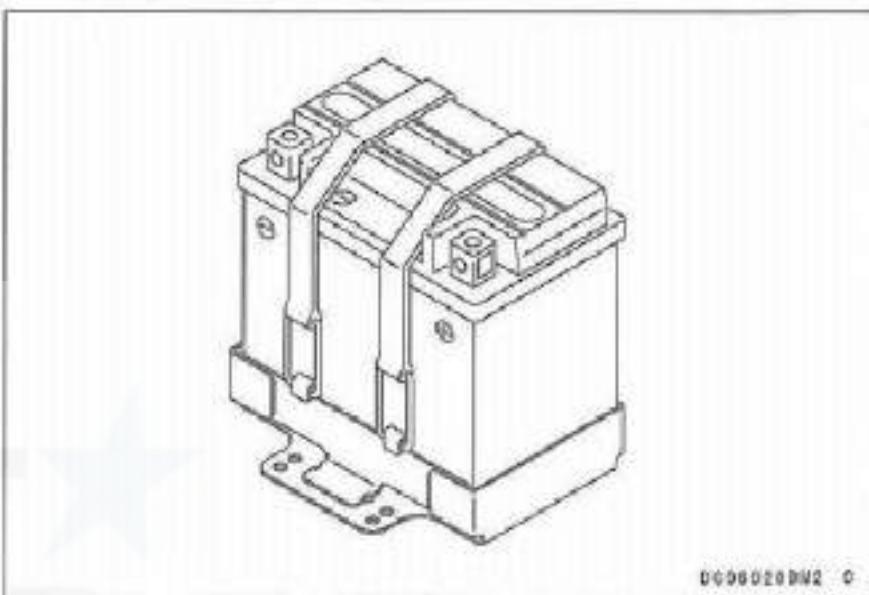
(5) バッテリ取り付けケースの清掃



- 取り付けケースを確認し、ゴミなどがあれば除去する。

バッテリの取り付け:

1. バッテリの取り付け、固定

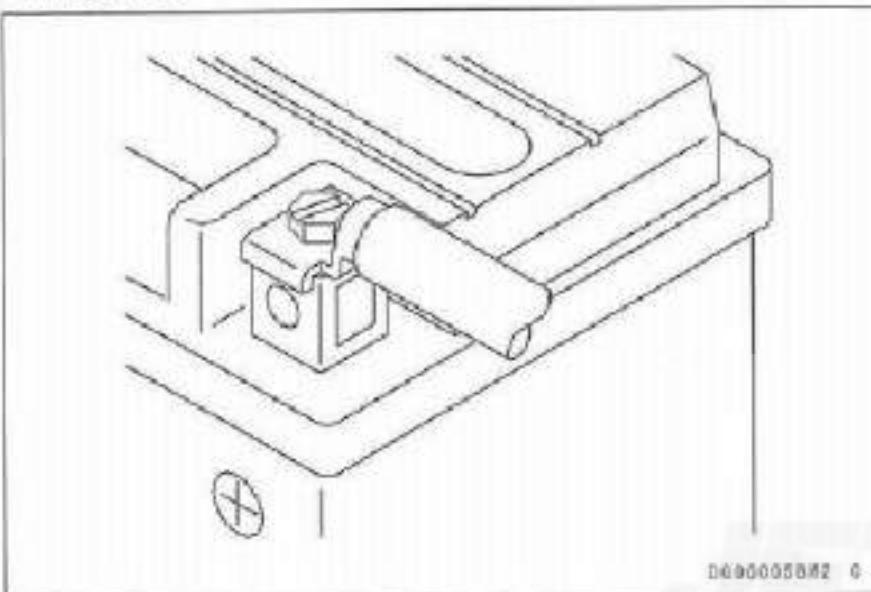


- バッテリをバンドで固定し、バッテリにガタがないことを確認する。

2. ケーブル組み付け

- ケーブルは必ずプラス側を先に取り付けてください。

(1) 仮締め

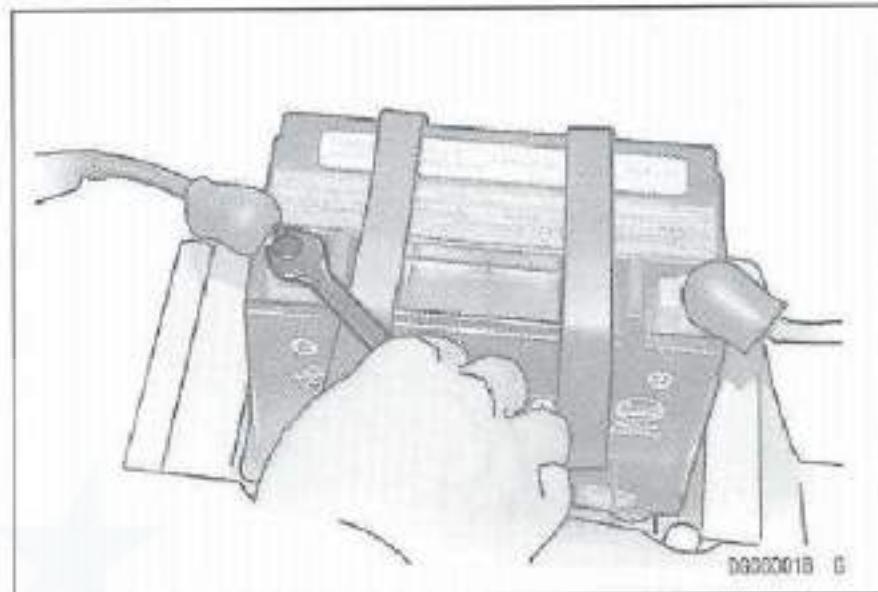


- ケーブル端子の向きに注意し、バッテリ端子とケーブル端子が密着するように取り付ける。

注意

バッテリの(+)と(-)を逆に接続しないでください。レギュレータや整流器が損傷します。

(2) 本締め

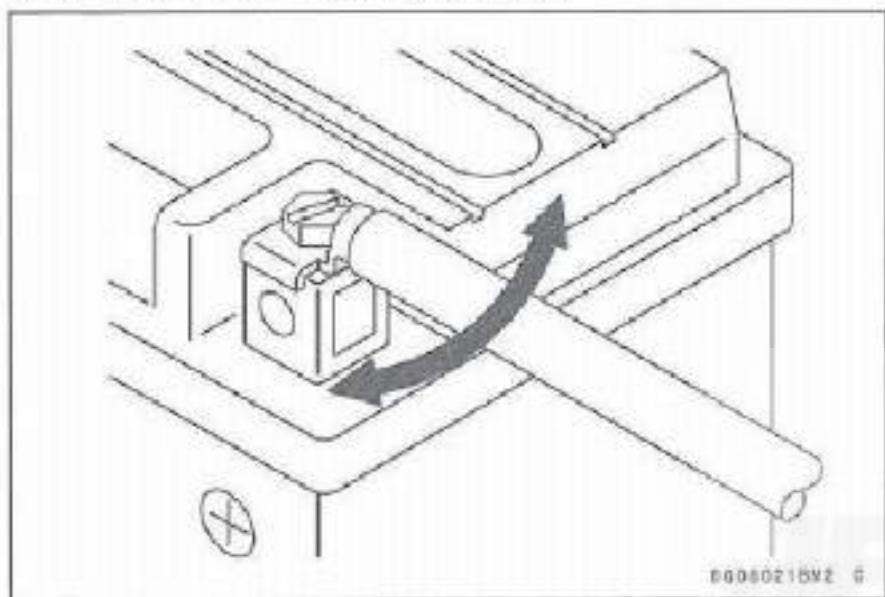


- スパナを使用し、規定トルクで締め付ける。規定トルク : 3 N·m (0.3 kgf·m)

注意

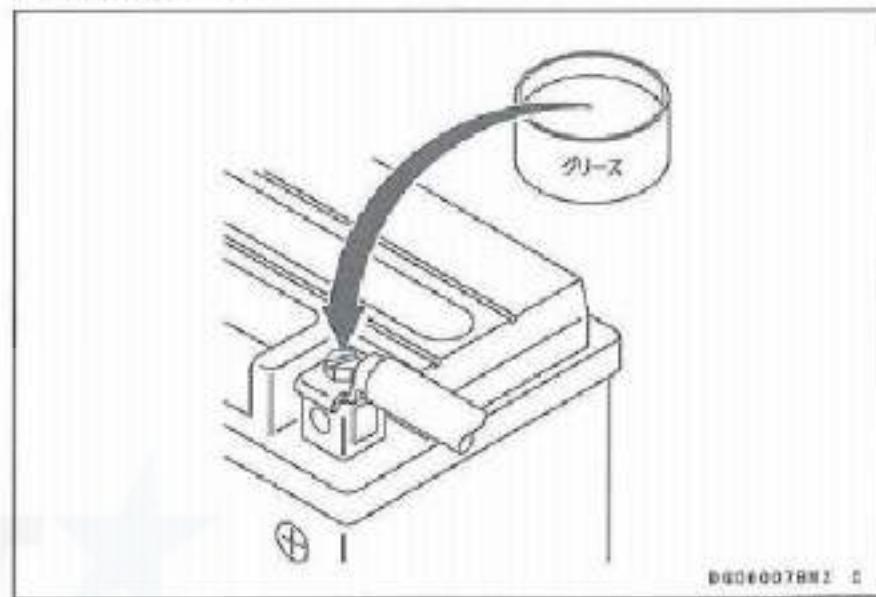
プラス側を本締めした後、マイナス側を取り付ける。

(3) バッテリケーブルの固定確認

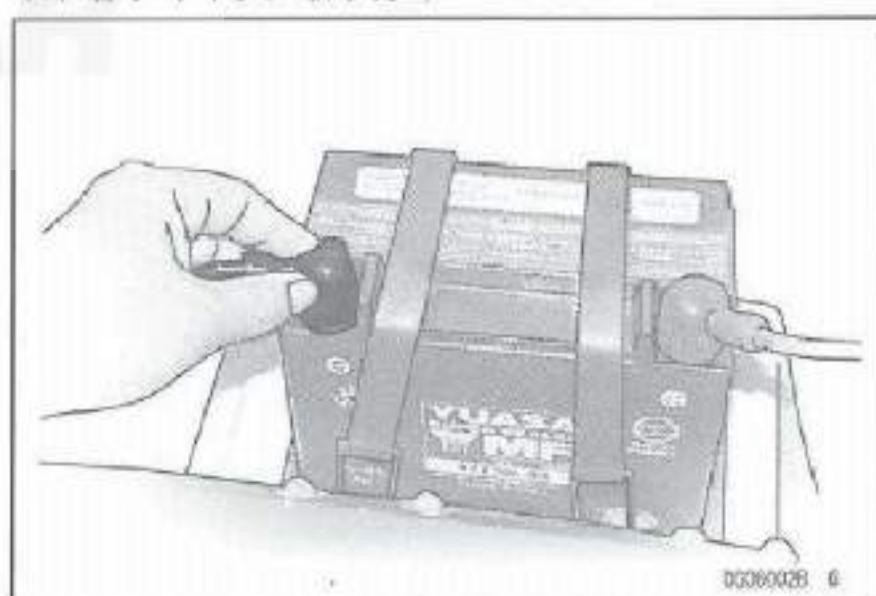


- 両側とも本締めした後、ケーブル端子を左右方向に動かし、ケーブルが動かないことを確認する。

(4) 防錆処理



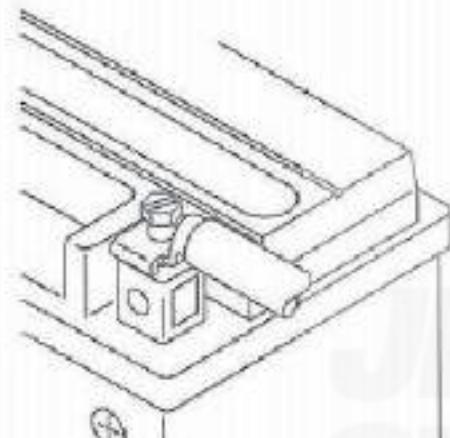
- グリースまたは浸透潤滑剤を塗布する。



- 端子部を端子キャップで確実にカバーする。

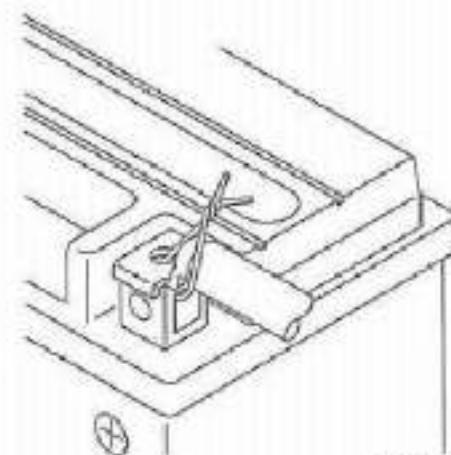
ケーブル取り付け時の注意事項

(1) 取付が不十分になるため、長過ぎるボルトは使用しないこと。



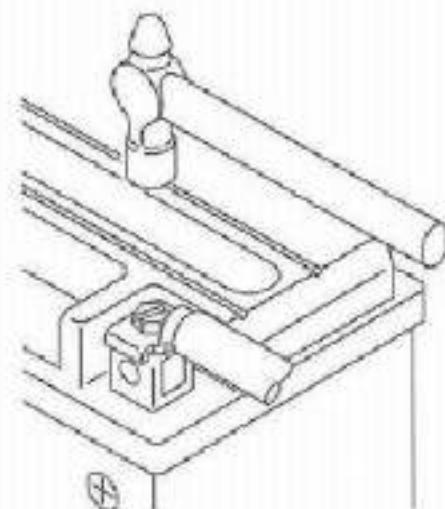
0006000682 C

(2) 接触が不十分になるため、針金等で接続しないこと。



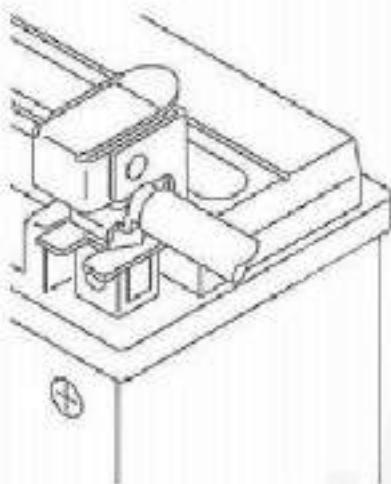
0006010882 C

(3) 端子が変形・破損するため、端子部をハンマーでたたかないこと。



0006011882 C

(4) 航行時の振動で外れるおそれがあるため、ワンタッチ式カプラは使用しない。



0006012BN2_G

(5) 複数のケーブル端子を接続する場合端子間にスキマがないように確実に締め付ける。



警告

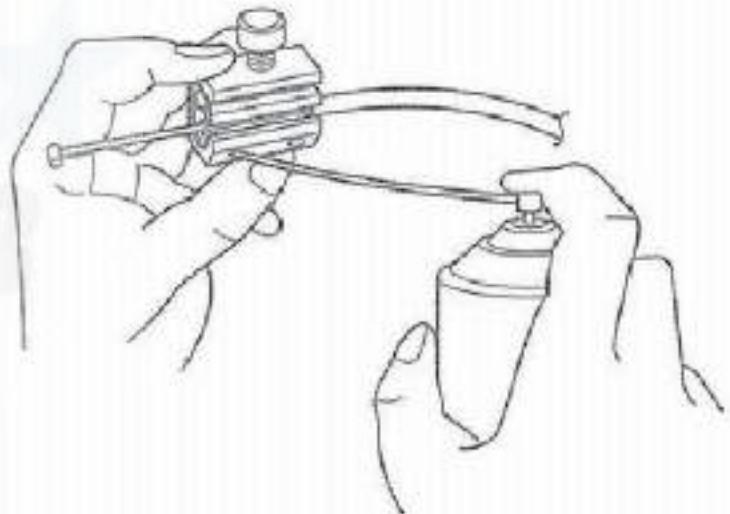
バッテリケーブルの取り付けが緩むとスパークが発生し、火災や爆発が起こり、負傷や死亡するおそれがあります。バッテリターミナルのスクリュはしっかりと締め付け、カバーをターミナルにかぶせてください。

潤滑

すべての船舶と同じように、適切な潤滑と腐食防止処置は、ウォータクラフトを長期間、故障なく使用するために絶対必要なことです。下記箇所の潤滑回数については、「定期点検整備表」および「乗る前の点検項目」を参照してください。

- 下記の箇所に浸透性防錆剤をスプレーします。

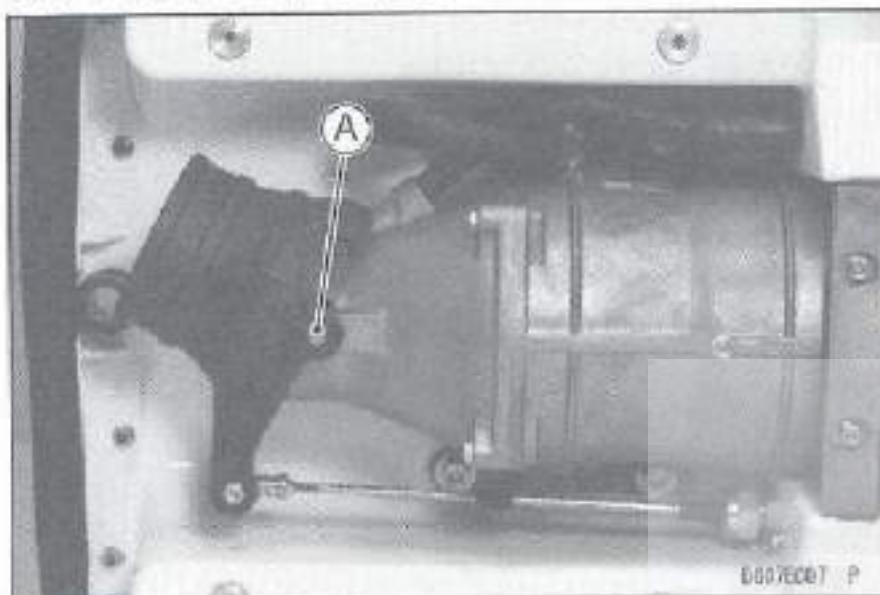
チョークケーブル、スロットルケーブル



ケーブルルーペを使ってケーブルの潤滑をする

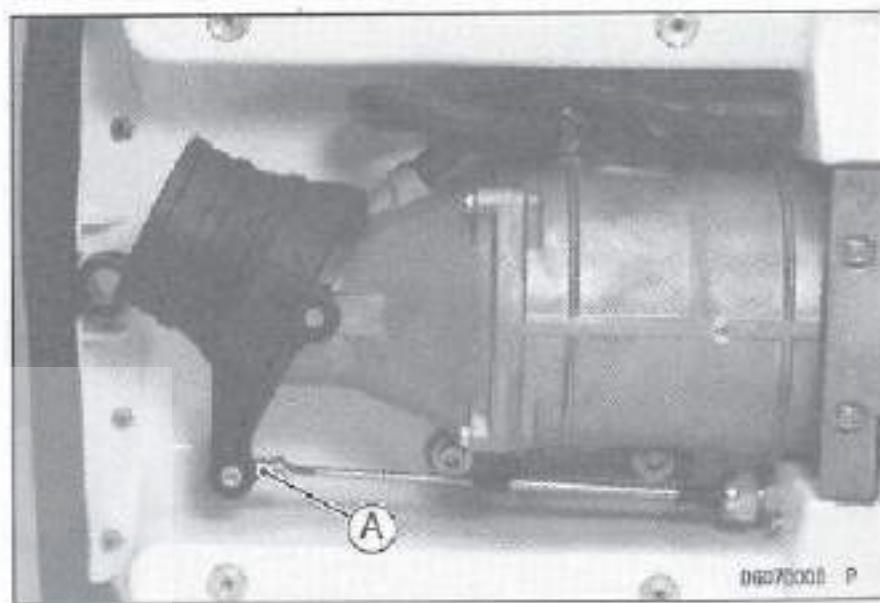
- 下記の箇所に良質の耐水グリースを塗ります。

ステアリングノズルビボット



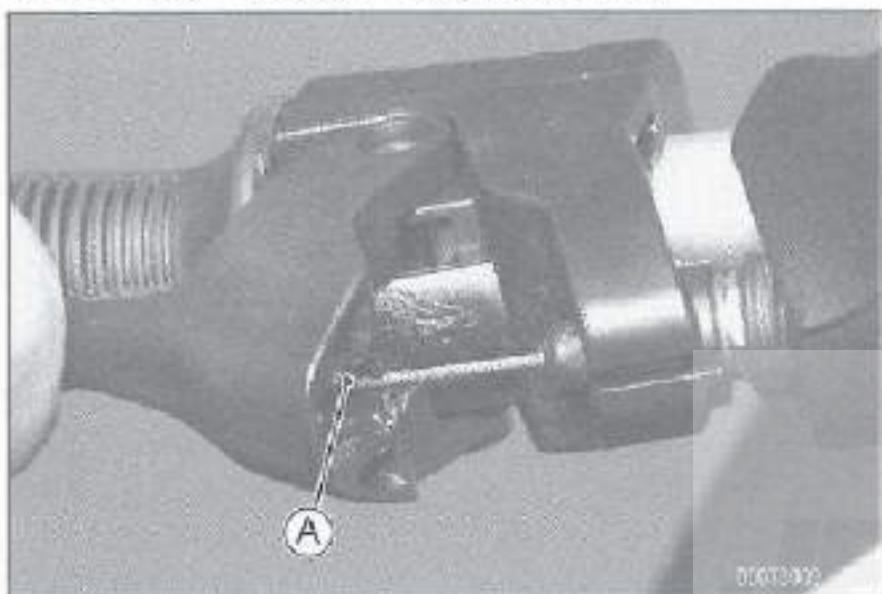
A. ノズルビボット

ステアリングケーブルボールジョイント



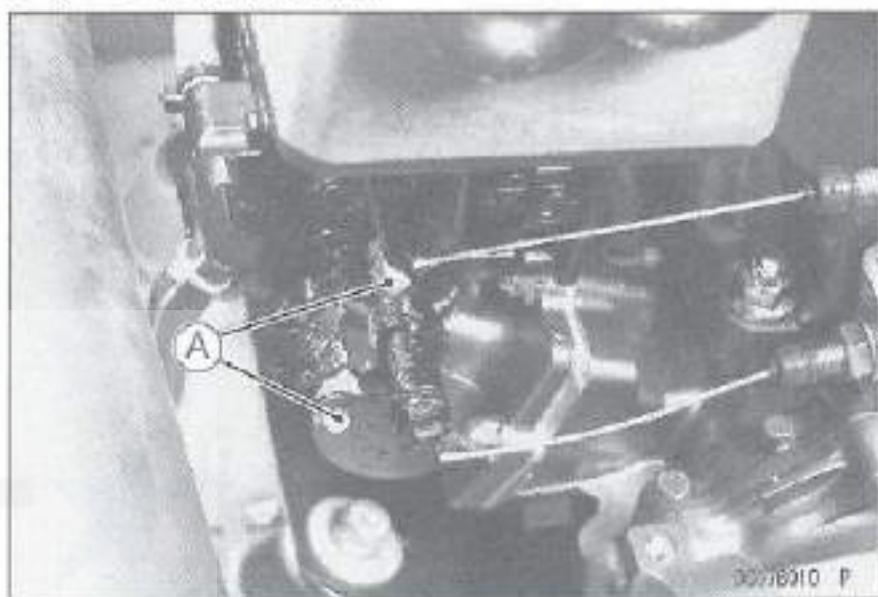
A. ボールジョイント

スロットルケースのケーブル取り付け部



A. グリースを塗布

キャブレタのスロットルケーブル取り付け部およびチョークケーブル取り付け部



A. グリースを塗布

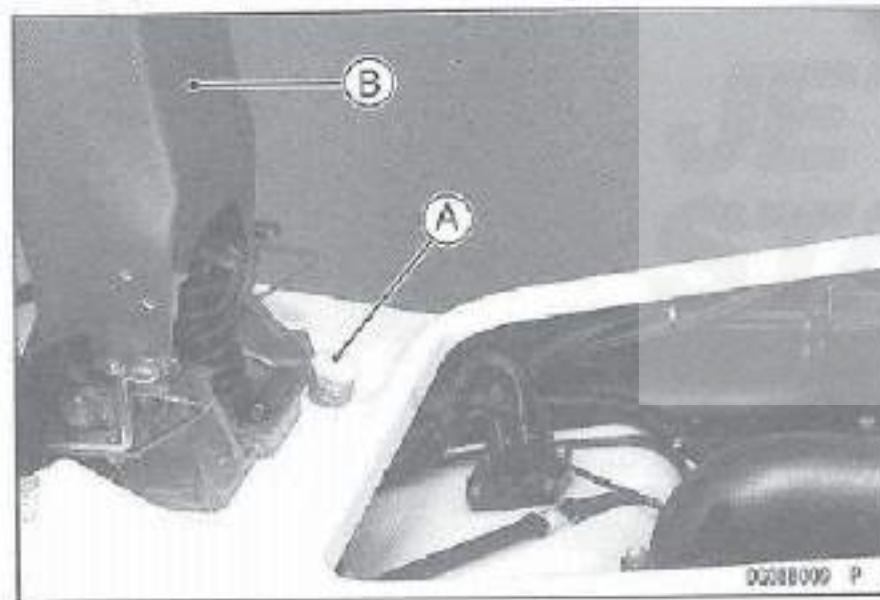
注意

ハンドルバー・ビボットの分解と潤滑は「カワサキ正規取扱店」で行ってもらってください。

冷却系統の洗浄

冷却系統に砂や塩分が堆積するのを防ぐため、時どき洗浄する必要があります。以下の作業を「定期点検整備表」に従って行うか、または、海上で使用した後は毎回、また、船体の右側にあるバイパス出口から出てくる水が減った時はすぐに行ってください。

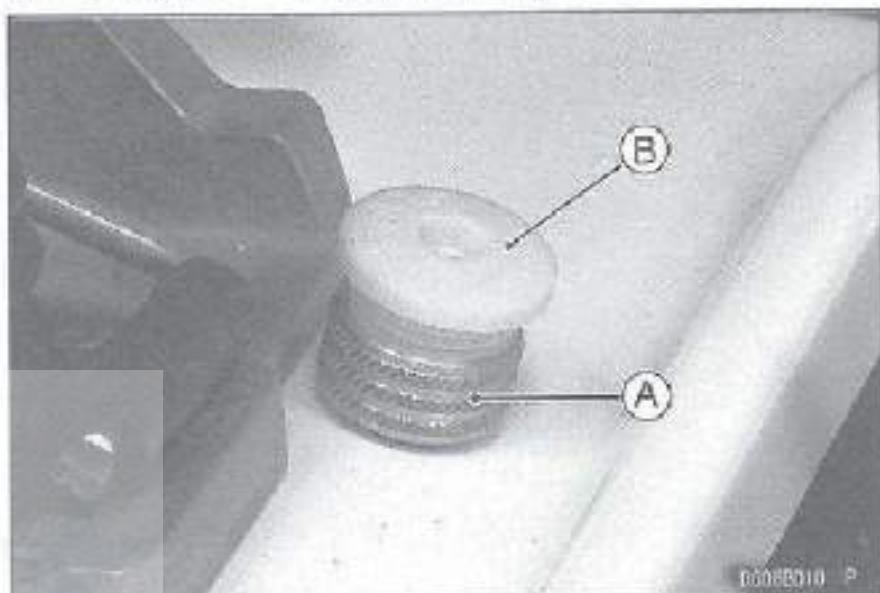
- 冷却水の接続口がハンドルポールの足元にあります。



A. 接続口
B. ハンドルポール

- ハンドルポールを起こして足元のストッパーインを掛けます。

- エンジンフードを外します。



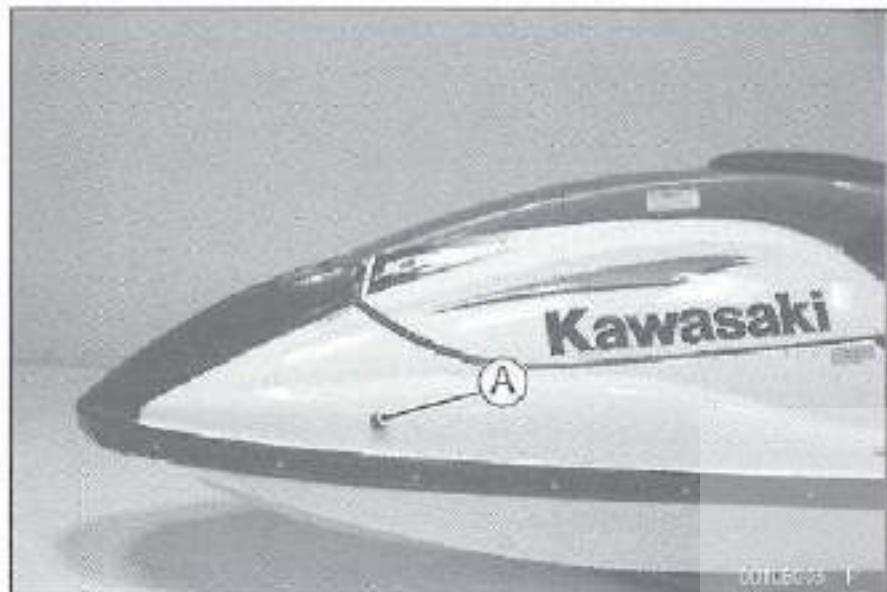
A. 接続口
B. キャップ

- 接続口のキャップ (B) を外し、接続金物の付いた水道ホースを接続口 (A) に接続します。
- 水道の蛇口を開ける前にエンジンを始動し、アイドリングさせます。

注意

水を流す前に、必ずエンジンをかけておいてください。先に水を流すと、エギゾーストパイプを通してエンジン内に水が逆流して、内部を損傷するおそれがあります。

- エンジンをかけたらすぐに水道の蛇口を開け、船の右側にあるバイパス出口から水がわずかに出てくる位に水量を調節してください。



A. バイパス出口

- 水を出したままエンジンを数分間アイドリングさせます。
- 蛇口を閉めます。エンジンはまだアイドリングさせておきます。
- エンジンを数回吹かせて排気系統から水を排出します。

注意

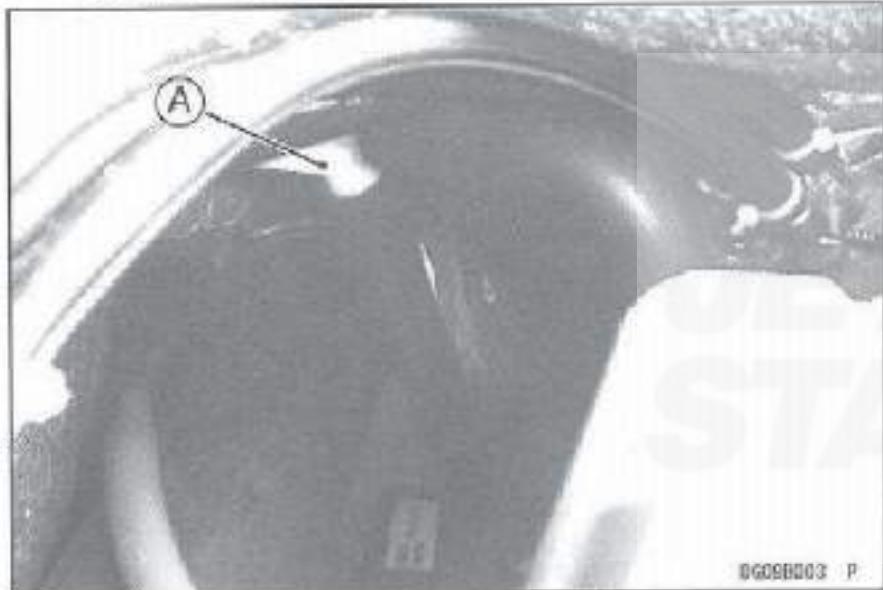
冷却水なしで続けて15秒間以上エンジンを運転しないでください。過熱からエンジンと排気系統に重大な損傷をひき起こすもとになります。

- エンジンを止め、ホースを外し、元通りにキャップを取り付けてしっかりと締めます。

ビルジ系統の洗浄

詰まりを防ぐためにビルジ系統を「定期点検整備表」に従って洗浄するか、または、詰まっていると疑われる時はすぐに洗浄してください。

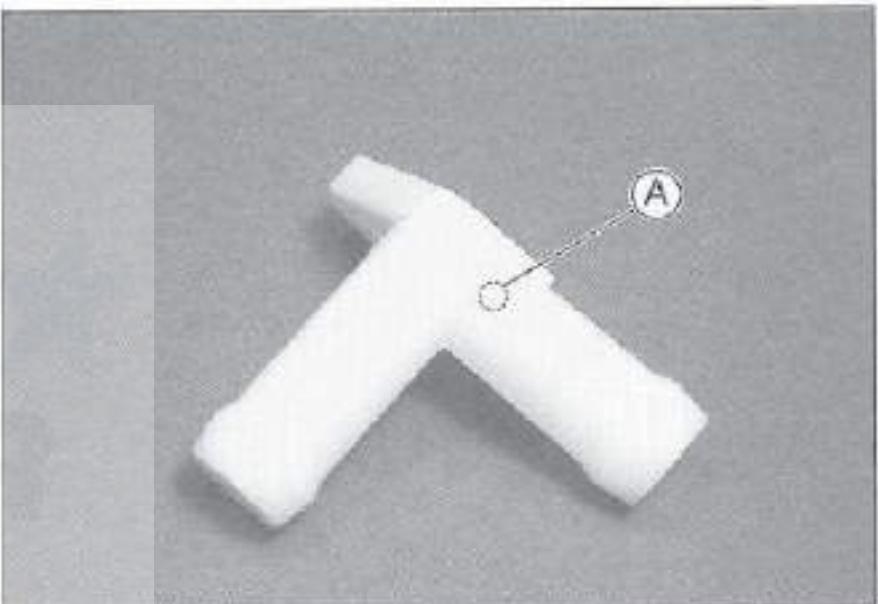
- プラスチックのブリーザから両方のビルジホースを外してください。



A. ブリーザ

- ビルジフィルタ側のホースに水道ホースを接続し、水を出して約1分間洗浄します。この間、水がエンジンルームに入りますが、たくさんたまらないようにします。ウォータクラフトの横に保護パッドを置き、船を左に傾けてエンジンルームの水を出します。
- 船体の隔壁側からもう一方のホースに水道ホースを接続し、水を出して数分間洗浄します。

- プラスチックのブリーザにホースをもと通り接続する前に、ブリーザの小さな孔が詰まっていないか確かめてください。もし、孔が詰まっているれば、エンジンが停止した時やアイドリング状態の時、ホースを通って水がどんどんエンジンルームに入ってくることがあります。ブリーザを外して掃除してください。



A. ブリーザの孔

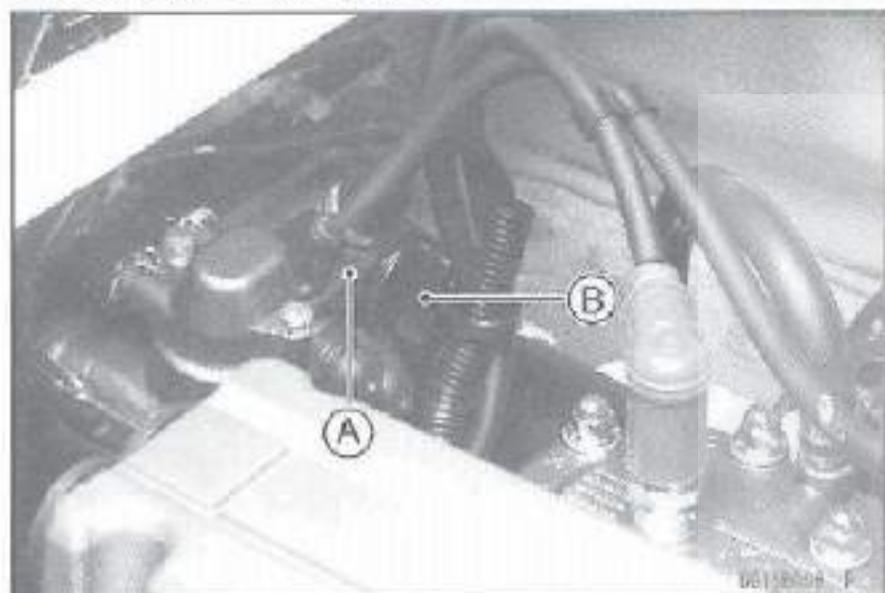
- ビルジホースをもと通りに接続します。

要点

- ウォータクラフトを保管する場合は、ビルジホースを接続する前に両方のホースに圧縮空気を吹き込んでください。(「保管」の章の「ビルジ系統」の項参照。)

ヒューズ

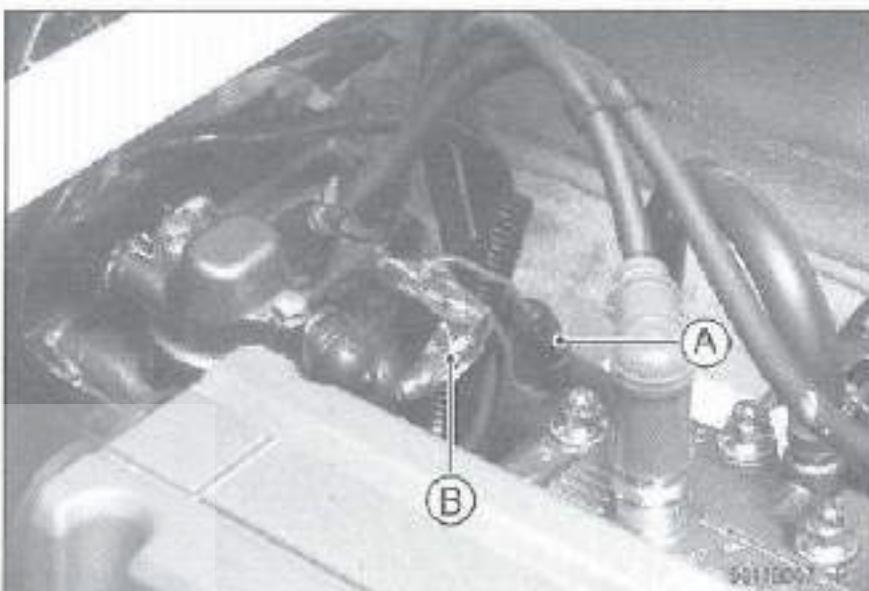
ヒューズは電装ケースに備えられています。操作中に、ヒューズが切れたらその原因となつた電気系統を点検し、適切な容量の新しいヒューズに交換してください。



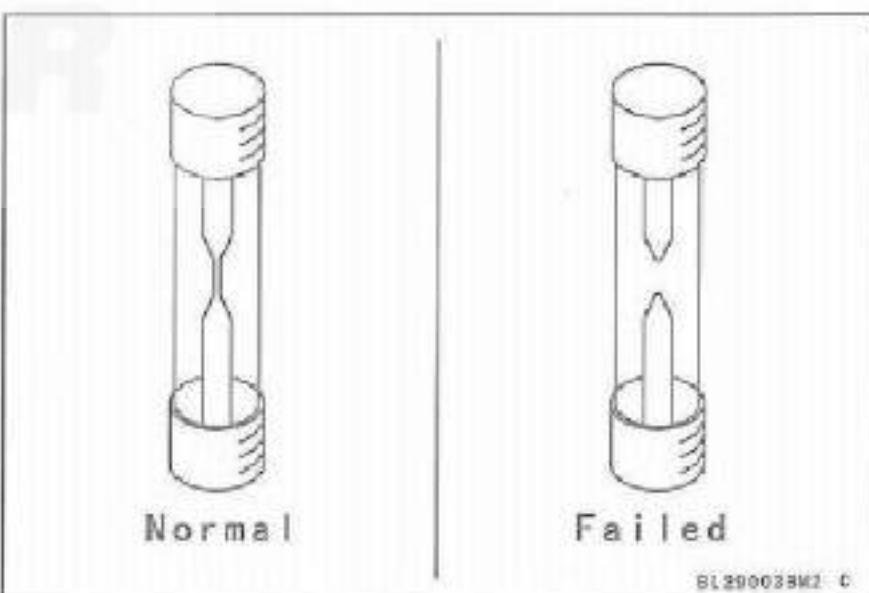
A. ヒューズケース
B. キャップ

注意

ヒューズの代用品は使用しないでください。切れたヒューズは電装ケースに規定された正しい容量のヒューズと交換してください。



A. メインヒューズ
B. 予備ヒューズ



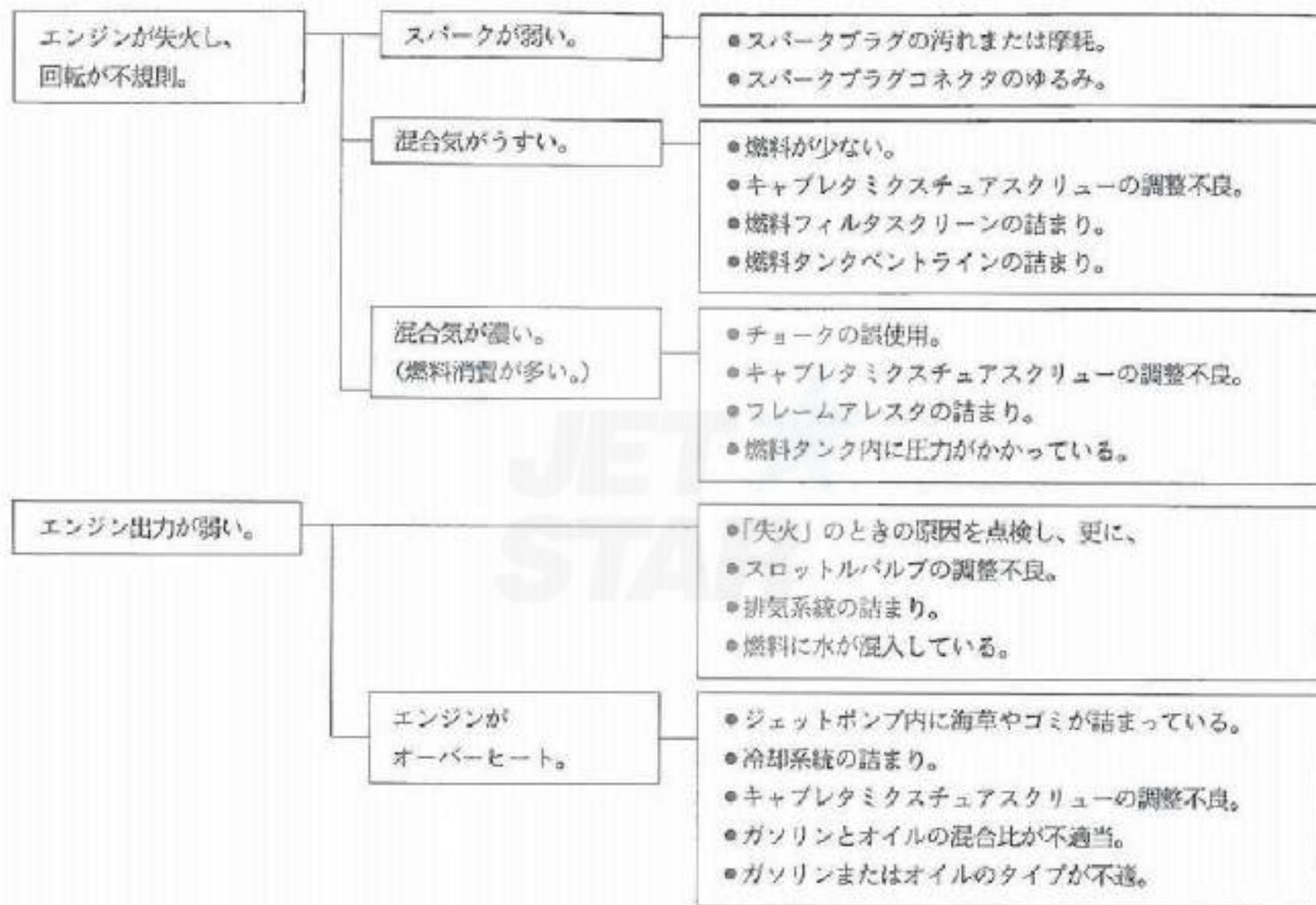
正常なもの

破損したもの

トラブルシューティング

- ここに示す方法ではあなたのウォータクラフトのトラブルが確定できない時は、「カワサキ正規取扱店」に相談するか、サービスマニュアルを参照してください。





ノックингを起こす。

- ガソリンの品質不良。
- ガソリンとオイルの混合比が不適当。
- スパークプラグの熱値が高過ぎる。

ステアリングがかたい、
または調子が悪い。

- ステアリングピボットの油切れ。
- ステアリングケーブルが損傷、または取りまわしが不適当。

⚠ 警告

ステアリング装置に故障があれば非常に危険ですので、「カワサキ正規取扱店」でよく調べてもらつてください。

船舶検査

船舶検査

ウォータクラフト“ジェットスキー”は、法律（船舶安全法）に基づいて日本小型船舶検査機構の行う検査を受けなければ使用できません。

検査の種類

検査には最初に使用を始める時、および6年毎に行う定期検査と、その中の3年毎に行う中間検査があります。

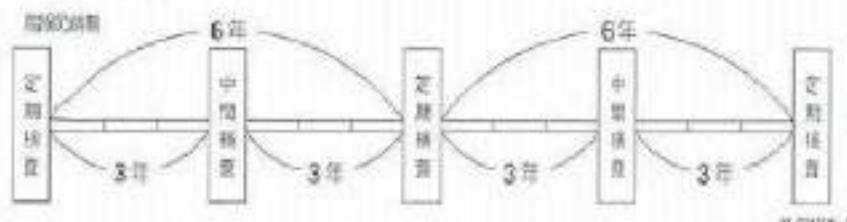
- 定期検査

定期的に行う精密な検査

- 中間検査

定期検査と定期検査との間で行う簡易な検査

船検の時期



なお、定められた中間検査日または定期検査日より繰り上げて検査を行う場合は、繰り上げが1ヶ月以内であれば次回定期検査日または中間検査日が早くなることはありません。

船舶検査証書など合格証書類

1. 定期検査の場合

船検に合格した小型船には、(1)船舶検査証書(2)船舶検査手帳(3)船舶検査済票(年票と番号票を各2枚)が渡されます。

上記(1)および(2)の証書類は、ウォータクラフトを使う時には必ず船内に備えてください。

また、(3)の検査済票(通称「船検ナンバー」)は、ウォータクラフトの両側の外から見やすい位置に必ず貼り付けてください。

船舶検査証書の有効期間は6年です。

2. 中間検査の場合

中間検査に合格した小型船には、船舶検査証書と船舶検査手帳が返される時に、中間検査済票1枚が渡されます。この中間検査済票は、中間検査に合格した小型船のしるしですから、これを左舷の船舶検査済票の近くに貼ってください。

航行区域

航行区域

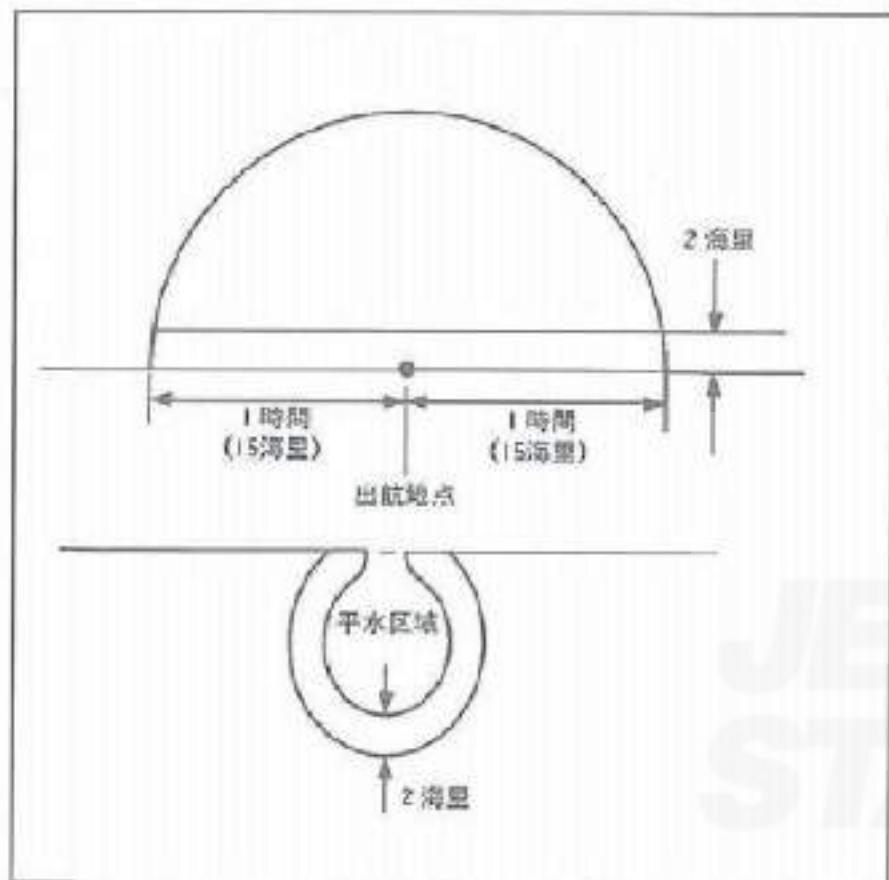
法律（船舶安全法）により、ウォータクラフト“ジェットスキー”が航走できる区域は次のように定められています。

注：1

- 船舶安全法施行規則第1条第6項とは、平水区域（湖、川、港内、湾などの波の静かな水域）を指します。
- 法律では、平水区域は沿海区域に含まれます。

海岸あるいは陸岸で使用する場合

1. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸か2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の陸岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。



母船に乗せて使用する場合

1. 沿海区域で、母船から半径2海里（約3.7 km）以内の水域。
2. 沿海区域で、ウォータクラフトが安全に発着できる任意の地点から最大速力で2時間以内（30海里、約56 km以内）で往復できる水域のうち、海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。
3. 沿海区域で、船舶安全法施行規則第1条第6項の水域内の海岸から2海里（約3.7 km）以内の水域。

注意

母船に搭載してウォータクラフトを使用するには、船舶検査手帳に母船の船名が登録されていなければなりません。

*周辺の人達に迷惑をかけないために、次の事を守ってください。

- 游泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他の人に迷惑をかける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないように注意してください。
- 航走ちゅうの他の船に近づかないでください。
- 渔場へは乗り入れないでください。また、操業中の漁船には近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

環境保護

環境保護

いつまでもきれいな環境を保つために、次の事を守ってください。

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。
(不法投棄は絶対にしないでください)。
- 燃料、オイル等で浜辺や海岸、そして水を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や、生物を大切にしましょう。
- 使用済みのバッテリやエンジンオイルの廃油等は、むやみに捨てないでください。また、将来ジェットスキーを廃棄される場合も同様です。
もし、これらのものを廃棄するときは、「カワサキ正規取扱店」にご相談ください。

お客様の相談窓口

あなたのカワサキウォータクラフト“ジェットスキー”について、ご不明な点や、サービス面のこと
で、ご意見やご質問がございましたら、お買いあげいただきました「カワサキ正規取扱店」または下記の
相談窓口にお申しつけください。

株式会社カワサキモータースジャパン 〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1番1号 Tel078(921)2491代表
ジェットスキー営業部

*平成18年9月1日現在

JS800A

JET
STAR

 **Kawasaki**

川崎重工業株式会社 汎用機カンパニー

Part No. 99921-1986